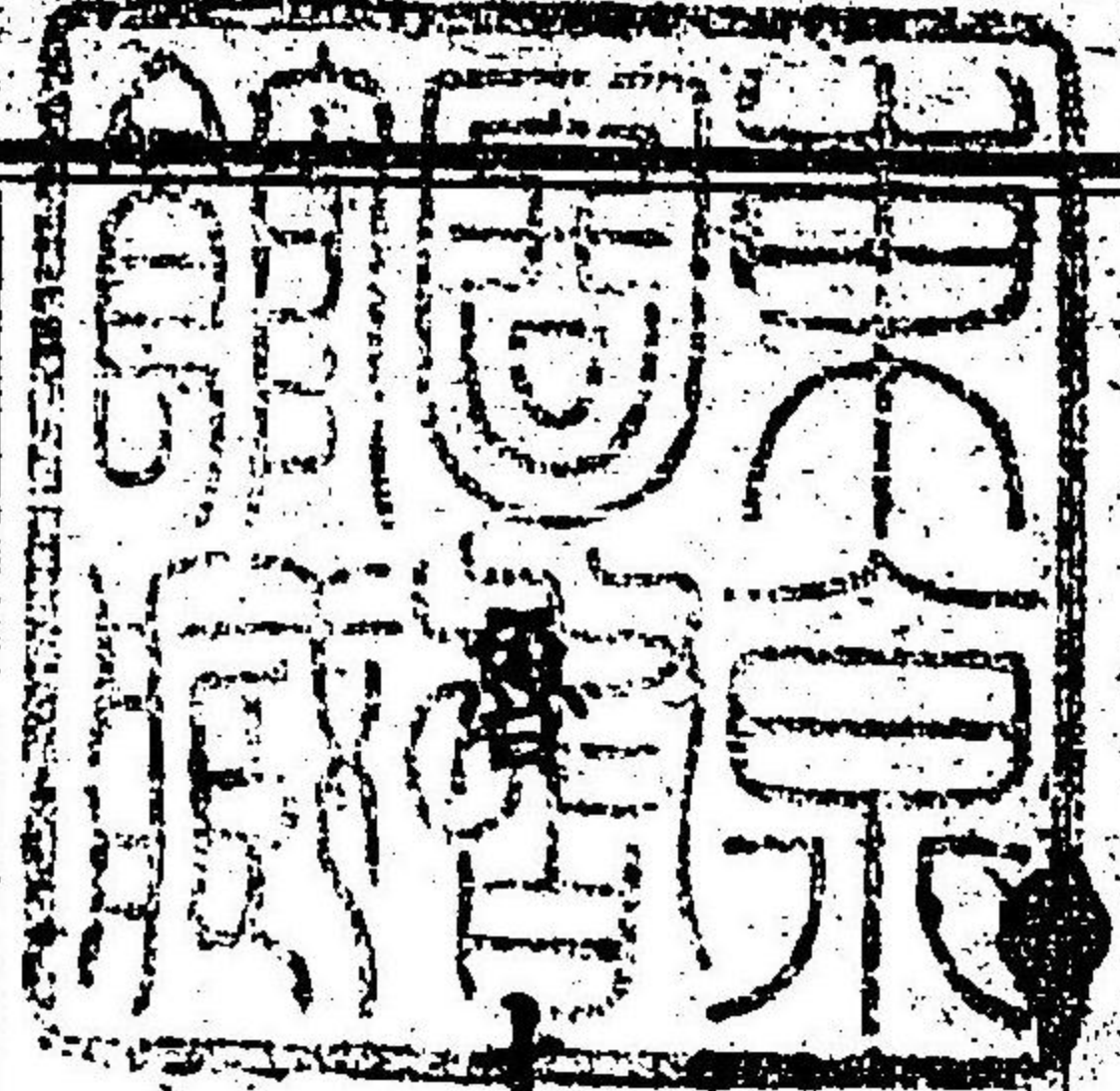


1804/23



借行社藏版

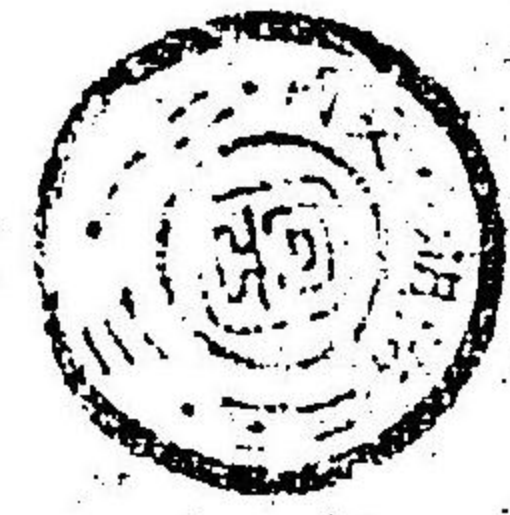
戰記

全

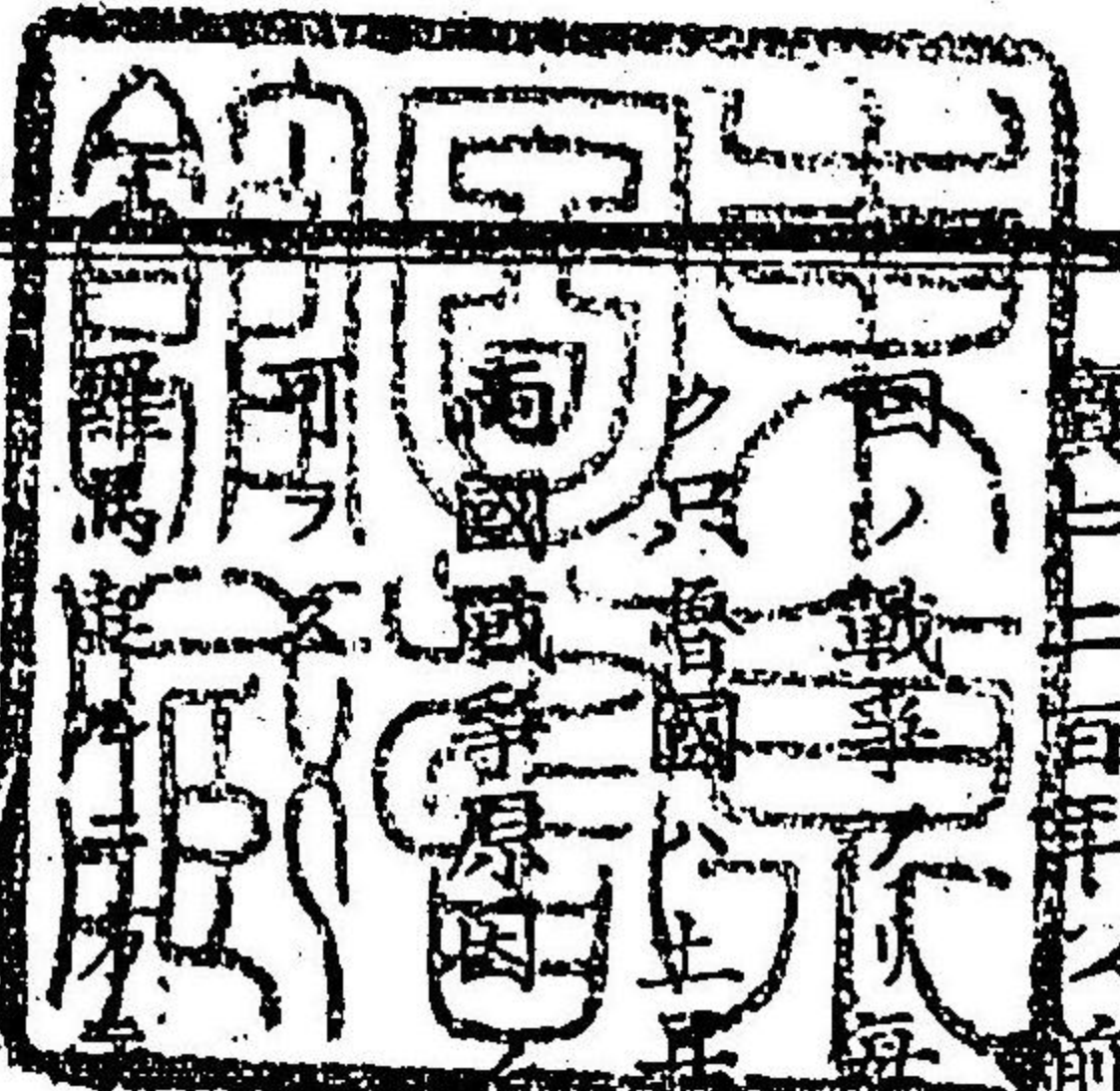
明治廿三年一月

陸軍工兵大尉落谷豐三郎
陸軍歩兵大尉深谷又三郎

編纂



W21801/23



千八百七十七年 魯土戰史筆記第一回 明治二十年十二月十六日
魯土戰爭ノ原因及ヒ成立ヲ精密ニ述ント欲セハ一朝一夕ニ於テ能
非ラス



實ニ二百年以前ヨリ兩國間ニ於テ戰爭ノ間斷ナク殊ニ終リノ七十年間ニハ三
戰數年ヲ費セリ而シテ其原因トスル所ノ者ハ常ニ異ナルヲナ
ク只魯國ノ土古
古人ヲ歐洲ヨリ驅逐セントスルニ他ナラス
概略ヲ述フルカ爲メニハ先ツ歐羅巴歴史ノ大略ヨリ述ヘサル
ヤ先ツ地中海沿岸諸國ヲ略ス其版圖ハ遂ニ亞弗利加北部埃
及、亞細亞ノ西部及ヒ歐羅巴全部ニ亘レリ而シテ羅馬ノ故國ハ伊太利ナリ
羅馬己ニ絶大ノ版圖ヲ有ス故ニ之ヲ經理スル固ヨリ困難ナリ此ヲ以テ耶穌紀
元後四百年ニ至テ遂ニ國ヲ二部ニ分テリ即チ西半部ヲ羅馬帝國東半部ヲ希臘

帝國トナス

羅馬ノ二分セシハ又タ宗教ニ原因セリ即チ東部ニハ希臘教行ハレ西部ニハ羅馬教行ハル

當時獨乙人ハ獨乙ノミニ居住セシテ羅馬國內ニモ散在セリ故ニ遂ニ羅馬舊國ヲ畧シテ其西部ニ一國ヲ建ツルニ至レリ

是ト同シク「スラヴ」人ハ希臘ノ北部即チ「セルビ」及ヒ「ビュルガリー」ニ來リ住ス

魯士亞「セルビ」及ヒ「ビュルガリー」ハ宗教上ノ同黨派ナリ

此「スラヴ」人ノ侵入ニモ關ハラス希臘ハ今ヲ去ル四百年前迄尚ホ能ク其帝國ヲ保チシト雖モ土耳其人漸次歐洲ニ侵入シ且ツ歐羅巴及ヒ亞細亞ノ兩方ヨ

リ希臘ヲ攻撃セシテ其都府「コンスタンチノツプル」ハ土耳其人ニ略取セラレタリ是レヨリ「コンスタンチノツプル」ハ土耳其ノ首府トナレリ

Constantinople

土耳其人ノ歐洲ニ侵入スルヤ初メ亞弗利加ノ北縁ヲ悉ク征服シ又小亞細亞ヲ占領シ猶ホ希臘半島ヨリ獨乙ニ向フ之ニ抗戰センカ爲メ 奧地利ハ「ホンヅリ」ト連盟シテ奧地利帝國ヲ建ツ

Hongrie

又土耳其人ハ「スラヴ」人ノ住スル南部ノ地即チ「ボスニ」「セルビ」及ヒ「ビュルガリー」ヲ征服シ其他今日ノ王國「ルーマニ」ヲモ從ヘ猶ホ魯士亞ニ侵入シテ黑海沿岸ノ地方ヲ略取セリ

Roumanie

此時ニ當リ魯士亞人ハ韃靼人ノ侵略ヲ受ケ遂ニ之ヲ貢セサル可ヲサルニ至レリ

然レモ獨乙人ハ大戰ノ後土耳其人ヲ漸次ニ擊退シ魯士亞人モ亦漸次韃靼人ノ羈束ヲ脱シテ獨立スルヲ得タリ

魯士亞ノ獨立スルヲ得ルヤ更ニ土耳其國ニ對シ「スラヴ」種族ヲ獨立セシメ且ツ土耳其人ヲ歐羅巴ヨリ驅逐シ猶ホ亞細亞ニ於テモ其背後ヲ包圍シテ土耳

Slaves

古人ヲ厭縮セントセリ

魯士亞人常ニ思ラク「ボスニ」「セルビ」及ビ「ビュルガリー」ハ同宗教ヲ奉スル
ナリテ之ヲ合併スルハ正理ニ戻ルヲナシト

實ニ魯士亞ハ此目的ヲ貫カンヲ欲シテ連綿絶ユル期ナシ故ニ歐羅巴諸國ニ
シテ若シ之ヲ黙視セハ魯國ハ能ク其怒ヲ逞フセシナラン

然レハ魯國ハ己ニ強大ノ版圖ヲ有ス若シ土耳其ヲ覆滅セハ歐羅巴ニ非常ノ不
平均ヲ生スヘシ是ヲ以テ歐洲諸國ハ常ニ之ヲ妨ケンヲ計レリ而シテ土耳其人
ノ多ク援助ヲ得シモノハ英國トス

魯國ノ志望ハ己ニ前述スル如シ之カ爲メ「スラーブ」人ノ住スル地方ニ煽動者
ヲ送り反亂ヲ勸誘セシム是レ此地方ニ於テ反亂ヲ起セハ土耳其人ハ之ヲ處ス
ルニ慣習ノ慘忍ヲ以テスヘシ即チ魯國ハ之ヲ口實トシテ戰端ヲ開カントスル
モノナリ

又魯國ハ土帝ノ下ニアル「スラーブ」人ヲ保護センヲ揚言セリ

土帝ハ此他國ノ關涉ヲ嫌厭ス此ニ於テカ戰爭起ル

哥利米戰ハ千八百五十四年ヨリ五十五年ニ至リシモノニシテ最後ヨリ第二ノ
戰爭ナリ

魯國ハ軍隊ヲ土國ノ北部ニ進入セシム

英佛伊三國ハ魯國ノ處置不正ナルヲ以テ同盟シテ土帝ヲ援ク

土軍ハ魯軍ヲ退ク又英佛兩軍ハ哥利米ニ上陸シテ「セバストポール」ヲ攻圍ス

魯軍戰敗レ遂ニ千八百五十六年平和ノ盟ヲ爲ス

其餘約概テ左ノ如シ

魯國ト土國ノ中間ニアル國ヲ獨立ト見做ス即チ「ルーマニ」「セルビ」是レ
ナリ

又魯國ノ艦隊黑海ニ入ルヲ禁止ス

此條約ニ於テ魯國ハ多少其志望ヲ遂ケタルモノ、如シト雖モ「ルーマニア」、「セ
 ルビ」ハ唯表面ノミ獨立ニシテ隱然土耳其政府ノ關涉ヲ受クルモノナリ又
 「ブルガリア」及ヒ「ボスニア」ハ眞實ノ土領トス此ニ於テカ魯國ノ慾望尚ホ未
 タ止マス常ニ戰端ヲ開クノ期ヲ待ツ又シ
 哥利本戰ノ勝利ハ土國ニアリト雖モ實ハ英佛ノ力多キニ居ル然ルニ此平和ノ
 後十四年ニシテ普佛ノ大戰アリ而シテ佛國全ク敗ス
 魯國ハ佛國ノ敗スルヲ聞クヤ直ニ條約ヲ破リ黑海ニ艦隊ヲ浮ヘ又舊來ノ義務
 ナ履行セスト明言セリ
 是レヨリ先キ英佛同盟軍ノ爲メ魯國艦隊ハ壊滅セラレ黑海内魯艦一隻ヲ見ス
 ト云フ
 此時ニ當リ佛國ハ此條約ヲ履行セシムルノ力ナク英國モ亦獨立シテ之ヲ責ル
 ナ欲セス是ヲ以テ魯國ハ其意ヲ恣ニスルヲ得タリ

千八百七十五年ニ於テ「ボスニア」ノ「ヘルゼゴビヌ」地方ニ於テ反亂アリ續テ
 「ブルガリア」モ又土帝ニ反ス是レ蓋シ魯國ノ煽動ニ因ル
 土帝ハ慣習ノ慘酷ヲ以テ「ブルガリア」ヲ鎮壓セリ
 次ニ「ボスニア」ノ「ヘルゼゴビヌ」ヲ鎮定セントセシモ山國ニシテ交通不便且ツ
 「モンテネグロ」モ亦興テ亂ヲ接クルニ至リ之ヲ制服スルヲ愈々困難トナレリ
 勢ハ此ノ如キヲ以テ他ノ小國ニモ反動ヲ生シ即チ「セルビ」ハ全ク獨立シテ
 「モンテネグロ」ト共ニ土帝ニ抵抗セリ
 然レモ土帝ハ其後「ボスニア」ヲ制服スルヲ得シヲ以テ直チニ「セルビ」ヲ撃テ之
 ナ破ル此ニ於テ「セルビ」ハ復タ土帝ノ意ノ如クナラサル可ヲサルニ至レリ
 是ヲ以テ魯國ハ土帝ト「セルビ」ノ間ニ平和ヲ爲サシメタリ且ツ魯國ハ土帝ニ
 對シ「スラヴ」人ノ待遇ヲ特別ニ爲サンヲ請求セリ
 此談判ノ成功ヲ期センカ爲メ千八百七十六年魯國ハ數部分ノ軍隊ニ出師準備

ナ爲サシメタリ
 故ニ千八百七十六年ニハ魯土兩國ノ間ニ殆ント開戦セントスルノ景況ヲ現出
 セリ歐羅巴ノ他ノ諸國ハ頻リニ其中裁ヲ試ミタリ此談判ハ殆ント一ケ年ヲ經
 過セリ然レモ土帝ハ魯國ノ請求ヲ一ツモ許諾スルコトナク悉ク之ヲ斥ク
 此ニ於テ魯國ハ千八百七十七年四月廿四日宣戦ヲ布告ス實ニ之ヲ以テ魯土戰
 争最后ノモノトス
 今戦闘ノ現象ヲ述フル前之ニ關係アル地勢ヲ述フ
 此戦争ハ歐羅巴ト亞細亞ノ兩地ニ於テ實行セリ
 此時歐羅巴ニ於テハ魯土兩國直接ニ界ヲ接セス何トナレハ「セルビ」及ヒ「ル
 マニ」ハ其中間ニアリ而シテ此兩國ハ前年ノ戦ニ於テ獨立シアレハナリ
 然ルニ魯國ヨリ土京「コンスタンチノツプル」ニ至ル最近路ハ亞細亞ノ部分ニ
 非スシテ此小國ヲ通過ス故ニ戦争ハ首トシテ歐羅巴ノ部分ニ成立セリ即チ東
 南ノ半島是ナリ

「ルーマニ」
國勢一斑

南ノ半島是ナリ
 此半島ハ一政府ノ下ニアラサルヲ以テ以太利、西班牙ノ如ク國ノ名ヲ以テ半
 島ノ名トスル能ハス故ニ地勢ニ因テ名ツク即チ「バルカン」山アルヲ以テ「バ
 ルカン」半島ト稱ス
 此戦争ノ始マル前ニ此半島ハ土耳其ノ領有トス而シテ其西端ハ奧地利ニ至ル
 土耳其ノ北部ニハ「セルビ」ルーマニ「アリ又半島ハ「バルカン」山脉ニ因リ東
 西二部ニ分タル西部ニハ「セルビ」ボスニ「アリ東部ニハ「ルーマニ」「セルガ
 リ」アリ戦争ノ起原ハ「ボスニ」ニ於テ始マレリ然レモ實際ハ東部ニ於テ多
 ク戦闘ヲ爲セリ
 「ルーマニ」ハ其形状恰モ半圓ノ如シ西ハ奧地利ト界シ南ハ「ダニユーブ」河ヲ
 以テ「ビュルガリ」及ヒ「セルビ」ト境ス又東北ハ魯士亞ト接ス
 地勢概テ平坦開濶ニシテ樹木少ク土壤膏腴ナレモ人民農耕ヲ勉メス故ニ國土

益、荒蕪ナリ蓋シ土田膏腴ニシテ人民農耕ヲ勵マサルハ下之法作リ上之ヲ取
ル厭クヲ知ラサルニ因ル其國勢ノ振ハサル恰モ朝鮮ト一般ナリ
加之土耳其人ノ歐羅巴ニ對テ戰爭スルハ常ニ此地方ハ戰場トナレリ而シテ
其戰鬪ハ常ニ慘憺ヲ極メ地方存在ノ資源ハ概テ燒却セラレ
土耳其人ハ往々戰場ヲ清ムルヲ爲セリ

哥利末戰ノ後土帝ハ「ルーマニ」ニ特別ニ君主ヲ置ク然レモ其君主ハ常ニ民ヲ
虐シ已レテ富スヲ是レ勉メ富ヲ得レハ則テ退ク如此新陳代謝シテ數十年間
ヲ經過セリ故ニ其國勢思フヘシ

此國數條ノ河川アリ北ヨリ南ニ流レ「ダニユーブ」川ニ朝ス水勢激湍河底深フ
シテ水常ニ少シ沿岸絶壁ノ多キ殆ント日本ノ河川ニ似タリ村落多クモ貧ナ
リ家ハ粘土ト木材ヲ以テ成立ス道路ハ悉ク不良ニシテ當時要塞ノ設置ナシ然
レモ五穀良ク登リ土民多ク牧畜ニ從事スルヲ以テ侵入軍隊ハ一時其資物ヲ用

ユルヲ得ヘシ

首府ニアリ「ヤッシー」及ヒ「ブーカレスト」トス「ブーカレスト」ハ全國ノ主府
ニシテ「ジャッシー」ハ當時ノ主府ナリ

魯國ヨリ「ダニユーブ」川ニ至ル只二條ノ大道路アルノミ他ノ一路アリト雖モ
支道ナリ一鉄道アリ魯國ヨリ「ブーカレスト」ヲ經テ「ダニユーブ」川ニ至リ東
方「ウナルナ」ニ至ル又二個ノ支線「ブーカレスト」ヨリ西方及ヒ北方ニ通ス

鐵道ノ構造概テ不良ニシテ其諸橋梁ノ如キ極ンテ脆弱就中運行材料頗ル欠乏
ナリ

「シリストリ」ヨリ下流「ダニユーブ」河ト黒海間ノ地ヲ「ドブルナヤ」ト稱ス此
地方ハ最モ緊要ナルヲ以テ特ニ注目スルヲ要ス何トナレハ土京「コンスタン
チノツブル」ニ至ル最近路ハ此所ヲ通過スレハナリ然レモ此地荒蕪ニシテ人
口亦少ナシ北部ニ山アリ稍峻ナリ此近傍ノ地ヲ「マッタン」ト稱ス

「ドブルナヤ」
Dobruja

地質ハ鼠色ヲ帶ヒタル沙土ニシテ水容易ニ滲透ス故ニ水源ナク山間ニ小川ナ
シ水ヲ得ルハ唯タ深井ニ依ルノミ
耕作ハ殆ント無シト云フモ可ナリ故ニ軍隊ヲ養フノ資物ナク殊ニ馬糧ヲ得ル
能ハス其他樹木稀ナリ

「ダニユーブ」河畔「ナエルナボダ」ヨリ海岸「コスタンツア」ニ至ルノ間堤堰ヲ
築ケリ是レ往時ノ防禦工事ナリシモ今時用ユルニ足ラス
其堤堰ノ南方約五十里（日本里）ハ瘠地ニシテ軍隊ノ糧秣ヲ得ル能ハス

「ユルガリー」ハ「バルカン」山ニ依テ二分セラル而シテ「バルカン」山ト「ダニ
ユーブ」河間ニアル地ハ豊饒ナリ然レモ土耳其政府ノ下ニ在ルヲ以テ殆ント
耕作ナシ但シ此國「ルーマニ」ニ比スレハ荒蕪ノ度少ナシ
村落ハ其數少ナシト雖モ各部落ハ大ナリ全國ノ地質ハ粘土ニシテ原野到ル處
雜草ヲ生ス唯降雨ニ際スレハ泥濘トナリ軍ヲ行ル頗ル困難ヲ醸スノ患アリ

河川ハ北ニ向テ「ダニユーブ」川ニ朝ス溪谷頗ル深シ之ヲ登降スル最モ難シ又
多ク橋梁ノ架設ナシ

大市街ハ首トシテ「バルカン」山及ヒ「ダニユーブ」川ニ接ス

「ダニユーブ」川ニ沿フテ多ク防禦工事ヲ施ス又内地ニモ二箇ノ要塞アリ即
チ「シュームラ」及ヒ「ウルナ」是レナリ此兩要塞ト「ダニユーブ」沿岸ニアル
「ルーチユク」及ヒ「シリストリ」兩要塞ト共ニ四角形ヲ爲ス故ニ其中間ニ兵
ヲ配置セハ四方互ニ應援スルニ便ナリ

「ダニユーブ」川ハ歐洲第二ノ河川ニシテ源ヲ南獨乙ニ發シ輿地利及ヒ「ルー
マニ」ヲ經テ黑海ニ朝ス

此川輿地利ヲ離ル、所ニ岩石ノ峻山アリ幅狹隘トナル之ヲ稱シテ鉄門ト云フ
故ニ此上流幅廣濶ナルアルモ此ニ至テ急流トナル又河底ニ洲アリ故ニ水多シ

ト雖モ航行スル能ハズ

鉄門ヨリ下流ハ河ノ性質一變シ河岸漸次殆ント平坦トナル而シテ四十里(日本里)ノ積地アリ河ノ左岸ハ平坦ニシテ右岸ハ絶壁ナリ而シテ其性質ハ「ウイヂ」ヨリ海ニ至ル迄殆ント變セス故ニ北方ヨリ「ダニユーブ」川ヲ渡ラントスルハ最モ困難ナリ又左岸ニハ死水及ヒ沼澤地多シ且ツ増水ニ際シテハ此岸常ニ溢ル故ニ近接スル難シ此ヲ以テ「ルーナユク」ヨリ河口ニ至ル迄尺一ノ渡過スヘキ點アルノミ然ルニ此點ニハ土國堡ヲ築テ之ヲ拒止ス
此地方ハ數戰争アリシヲ以テ近接シ得ヘキ諸點ニハ悉ク要塞ヲ設ク然レモ多クハ壞廢セリ就中堅固ナルモノ左ノ如シ

「ウイヂ」ニ「ニコポリ」シストバ「ルースチユク」及「シリストリ」ナリ
「ダニユーブ」川防禦ノ爲メ土國ハ一艦隊ヲ有ス其船數二十三就中鋼鉄艦十一艘全艦隊ノ砲數七十九門ナリ

「バルカン」山

又河口ニハ土人砲臺ヲ築キ且ツ海ヲ制スルヲ以テ魯國ハ軍艦ヲ「ダニユーブ」川ニ入ル、能ハス唯分解セシ汽船ヲ汽車ニテ輸送セリ

鐵門ヨリ河口ニ至ル迄最狭所ト雖モ九百米ヲ下ラス又深キ所ハ七十「ヒイト」ヲ過ク故ニ架橋セント欲セハ浮游橋梁ヲ以テセサル可ラス

「ソビヤ」ハ「バルカン」山ノ中央ニアリ四方峻山ヲ以テ包ム「ビュルガリー」今日ノ首府ナリ

「ソビヤ」ノ北ニアル山脈ハ「ピロツト」セルビ「國內ヨリ起リ黒海ニ至リ」シ
「ソビヤ」ノ南ニアル山脈ハ「ピロツト」セルビ「國內ヨリ起リ黒海ニ至リ」シ

此ノ山脈ニ因テ河盆ヲ成形ス即チ諸水ハ之レヨリ南北ニ流ル只「ソビヤ」ノ南方ヨリ出ツル「河」イスケル「アリ此山脈ヲ横斷ス

「ソビヤ」ノ北方「イスケル」川ノ傍ニ「モトロポール」山(第五號圖)アリ其東方ニシテ「バルカン」山ノ北面ニ左ノ有名ナル諸地アリ

「アテウエン」「セルウイ」「ブレブナ」「ガブロウア」「エレナ」又「ミジブリ」ハ
 Tetoven Selwi Plevna Gabrova Elena Misiwi ハ
 山ノ東方ニアリ

山ノ南面ニハ左ノ如シ
 「ソヒヤ」「ストラチツア」「カルロウア」「ケザンリック」「スリウノ」「カルナ
 Sophia Shtitza Karlova Kozanlik Sivo Karalja
 等

此山脉ハ西部ニテ千五百米東部ニテ千三百米ノ真高ヲ有ス而シテ西部ニ在テ
 ハ夏季ト雖モ絶エス雪ヲ載ク南面ハ峻ニシテ北面ニハ多クノ支脈アリ谷支山
 ノ頂ハ高原ヲ爲スト雖モ其縁端常ニ斷岸ヲ以テ終ル故ニ二三ノ箇所ヲ除クノ
 外登ル能ハス支山ニハ灌木繁茂シ本山脉ハ森林稠密ス土耳其人往々斬伐セシ
 所アルノミ故ニ道路ヲ除クノ外山ヲ横通スル能ハス
 道路ハ粘土ナルヲ以テ降雨ニ際シテハ行進困難ナリ今ヲ去ル五十年前ハ道路
 ト雖モ馱馬ヲ通過セシメ得シノミ當時首ナル道路ハ「シプカ」峠ヲ過ク是レ嘗
 々ハシカ

首ナル大街道

テ土帝ノ通過セシ所ナリト云フ

近來二三ノ街道ヲ作り車馬ヲ通スルヲ得ルニ至レリ

此山脉ハ地勢ノ爲メ防禦ニ便ナリ

第一ノ最良ナル道路ハ「ウロヂヤン」ヨリ「ピロト」ヲ經テ「ソヒヤ」ニ至ルモノ
 ナリ Widin Pirof Sophia

第二ノ道路ハ「ダニエーヴ」河畔「ローム」「ローム」「カーム」「カーム」「ランカ」ト云フヨリ「ベル
 Danube Rom Tompanka Ber-

「コヒツマ」ヲ經テ「ソヒヤ」ニ至ル

Sophia

第三ノ道路ハ「ソロヤ」ヨリ「タスキイ」「タスキイ」「セン」「セン」「サルク」「サルク」ニ
 Sorha Tashiansen Orkhanie Jabolitza

「ペンデナ」ヲ經テ「ニコホリ」ニ至ル
 Plevna Nikoloh

第四ノ道路ハ「ルーナ」「ルーナ」「ビメラ」「ビメラ」「チルノヴァ」「チルノヴァ」「ガブロヅマ」「ガブロヅマ」「シプカ」「シプカ」峠
 Routschouk Biele Tynowa Gabrova Schipka

及「ケザンリ」「ケザンリ」「マシキリ」「マシキリ」「ブル」「ブル」ニ至ル
 Kozanlik Masikiri Bul

第五ノ道路ハ「オスマン」「オスマン」「ザール」「ザール」ヨリ「カザン」「カザン」「スリウノ」「スリウノ」「ヤンボリ」「ヤンボリ」ヲ經テ
 Osmanli Zaur Kazan Sivo Yamboli

「ブンドリノッブルニ至ル
Andrinople
其他軍路トシテ用ユルモノ左ノ如シ
「ルーナユック」ヨリ「シエームラ」ヲ經テ「ワルナ」ニ至ル
Routchouk, Seouma, Warua
又「マシヤリノッブル」ヨリ「カザン」ノ東ヲ過キ「ブラヴマデ」ヲ經テ「シリス」ト
Andrinople, Kazan, Pravadi, Sinistrui
リ「ニ至ル者アリ共ニ敷石道ナリ此二道ハ四角要塞ト」ブンドリノッブル」トテ
Andrinople
連絡スルモノナリ

魯國軍兵制

千八百七十七年 魯土戰史筆記第二回 明治廿年十二月廿三日

歐羅巴及亞細亞ニ於テ爲セシ兩戰爭ハ互ニ密着ノ關係ヲ有セサルヲ以テ先
ツ歐羅巴部内ニ在リシ戰爭ヲ講セントス

戰爭前ニ於ケル魯土兩軍ノ景況ヲ知ルヲ要ス抑魯土亞國ハ方域絶大ナルモ其
大サニ比スレハ人口寡少ナリ此國、軍隊ヲ編制セシハ殆ント二百年前ニ在リ
キ實ニ魯國ハ廣袤大ニシテ交通便ナラス故ニ歐洲他ノ諸國ニ比シテ勢ヒ衆多
ノ軍隊ヲ常置セサルヲ得ス

世人ノ知ル如ク魯國ハ戰役ニ從事シ得ヘキ者ニハ平時ヨリ常ニ武器ヲ携帯セ
シム是ヲ實行センカ爲メ兵役ノ義務頗ル永シ今ヲ去ル五十年前迄ハ兵卒ノ服
役年期ハ二十ヶ年トス故ニ兵卒ヲ補充スルノ必用ヲ要セサルノミナラス年々
兵卒ヲ徵集セスシテ毎三年若クハ毎四年ニ徵募セリ

魯國農民ハ土地生産物ヲ盡ク領主ノ所有ニ屬シ領主ノ奴隸タルニ過キス故ニ

兵役義務ハ領主ノ爲メ之ヲ免ス若シ領主兵ヲ出スヘキ義務ニ應スル時ハ其土
民ノ一部ヲシテ農耕ヲ止メシム此間領主農耕ノ益ヲ得ル能ハス
領主ハ兵ヲ出スヲ好マサル故政府モ亦屢新兵ヲ募ラサリシ此新兵ハ二十年
間ノ兵役義務ヲ有シ役畢ルノ后尚ホ再役ヲ希望スルモノハ政府之ヲ備兵トシ
テ採用ス兵卒ノ備兵ヲ志願スルモノ頗ル多シ是レ各自兵團ヲ脱スルニ際シ政
府ヨリ一モ救助ヲ得ルコトナク爲メニ活路ヲ得ルノ方法ナキニ振スト雖モ之レ
カ爲メ魯國軍隊組織上屢新兵ヲ募ルヲ要セサルノ利アリ
軍隊ハ平時ト雖モ戰時人員ヲ具備セリ然レモ一二年間新兵ヲ徵募セサル時ニ
在テハ多ク欠員ヲ生ス是レ常ニ魯國軍ノ不利トスル所ナリ
此ノ形勢ノ一變セシハ魯國內政ヲ改革セシ時ニ起レリ殊ニ農民領主ノ奴隸タ
ルヲ免カレシ時即チ「哥利米」役後ニ在リ
今ヲ去ル十三年即チ千八百七十四年ニ於テ始メテ必任義務ノ法ヲ布ク後三年

編者記ス
某書ニハ千
八百七十四
年一月一日
法律ニ因リ
現役六年預
備役九年ニ
定ムトアリ

編者記ス
魯國ニハ十

ニシテ魯土ノ役起ル故ニ此義務法律ノ結果未タ全キ能ハサルナリ
此役ニ方テ魯軍ノ團隊ハ尚ホ戰時定員ニ充實スルヲ得サリシ
服役義務ハ漸々短縮セシカ爲メ教育完全ノ豫備兵ヲ得ス服役義務ノ年限短縮
スレハ隨テ豫備兵ノ教育ヲ充分セシムル能ハサルハ通理ナリ
千八百七十四年以來常備役五年豫備役十年ト定制ス實ニ此法律ヲ永久實施セ
ハ魯國軍隊ハ非常ノ程度ニ達セシナラン魯土戰爭前魯國毎年新兵ヲ召募スル
コト二十萬故ニ五年ニシテ一百万ノ現役兵ヲ得然レモ此法律ハ永續セサル前千
八百七十七年ノ役起レリ

魯軍ハ從前ノ編制ニ在テモ一般ノ出師準備ヲナサハ土耳其軍ヨリ大ニ優レリ
然ルニ當時魯國ハ土耳其海リ只僅ニ南部三軍事區區及「高加索」軍事區區ニ
出師準備ヲ行ヒシノミ南部三軍事區區ハ即「ナブサ」
Olusa 「キエーヴ」及ヒ「カ
ルコヴ」
Kioy Kh

ルコヴ
Olusa

軍事圖區
 一「サンプ」
 二「フアン」
 三「ウイ」
 四「ウアル」
 五「キエ」
 六「オテ」
 七「カ」
 八「モ」
 九「カザン」
 一〇「カウカ」
 魯軍武器及
 教育ノ略

魯軍ハ戰時ノ外軍團ヲ編制セズ是レ常ニ軍事圖區ノ編制ニ因レハナリ
 宣戰ノ報告ハ千八百七十七年第四月廿四日ニ在リ然レモ三軍事圖區ノ出師準
 備ハ千八百七十六年十一月十三日ニ命シタリ又「高加索」軍事圖區ノ出師準
 備ハ同年十一月二日ニ令ス
 魯軍ハ悉ク綫條銃及施條砲ヲ採用セリ開戰ニ際シ現今使用ノ「ベルダン」銃ヲ
 用ヒント欲セシモ果サス之レニ代ユルニ一種ノ底裝銃ヲ用ユ然レモ機關ノ構
 造錯雜ニシテ口径大ニ裝藥ノ量少シ是ヲ以テ射距離及命中界共ニ少ク一モ近
 今要求スヘキ性能ヲ供エス
 歩兵ハ稠密部隊ノ教法ヲ主トシ散戰順次ノ教育ニ力ヲ用ヰズ是ヲ以テ魯人ハ
 各個ノ戰鬪ニ適セス是レニ反シテ稠密兵團ハ能ク訓練シ且軍紀嚴肅ニ行ハル
 戰時往々稠密兵團ヲ以テ劇烈ノ火戰ヲ爲スフアリ又敵ノ放火ノ下ニ在テモ依
 然縱隊ヲ以テ働作ス實ニ驚クヘシ然レモ特別兵科及參謀部ハ教育ノ進度高シ

魯國騎兵ハ二種ニ區別ス即定制軍騎兵及制外軍騎兵是レナリ定制軍騎兵ハ歐
 洲他諸國ノ騎兵ニ比シ中等ニ位ス制外軍騎兵ハ世ノ所謂可薩騎兵ニシテ此編
 制法諸國嘗テ其例ヲ見ズ原來可薩種族ハ魯國南方「ステッペン」地方乾地ノ住
 民ニシテ殊ニ「教」河近傍ニ多シ
 可薩騎兵ハ一種ノ民兵ニシテ武器ノ使用ニ堪ユル者悉ク此兵ニ屬ス嘗テ鬪掠
 ナ事トセシカ後遂ニ魯帝ニ歸服セリ千八百七十七年ノ役起ルニ當テハ之ヲ定
 制軍騎兵ニ屬セシム此民兵ハ悉ク私馬ヲ有ス其騎乘ノ巧妙ナル實ニ驚クヘシ
 然レモ其熟練ハ規則ニ因ラサルヲ以テ稠密裝擊ニハ適當セズ是レニ反シテ搜
 索勤勞ニハ頗ル長シ其最モ得意トスルハ冒險敵背ニ出沒スルニ在リ
 往古千八百十二年佛國トノ役ニ利ヲ得シハ可薩騎兵ノ力大ニ與レリ爾後ノ戰
 争ニハ其功績漸ク少シ故ニ「哥刑木」役后編制ヲ改革シ近年遂ニ聯隊ニ編制ス
 ルニ至レリ

編者記ス
各歩兵師團
ハ砲兵旅團
ヲ有ス其砲
數四十八門
之ヲ六中隊
ニ分ツ
又騎砲兵ハ
近衛ノ三師
六中隊其他
軍ノ十四師
國ノ爲メニ
二十八中隊
ヲ有ス
魯軍出師準備

魯國ニテハ制外軍騎兵ハ師團騎兵トナシ定制軍騎兵ヲ以テ騎兵師團ヲ編制ス
ルノ目的ナリ其他騎砲兵アリ一聯隊ハ六中隊ヨリ成ル
砲兵ハ施條砲身ニシテ殆ント可ナレドモ土耳其軍砲兵ニ劣レリ只其利トスル
所ハ多量ノ榴霰彈ヲ初メテ使用セシニ在リ
魯國軍隊ニ於テ他國ト最モ異ナル制ヲ設ケシハ即チ輜重ヲ各聯隊ニ附スルニ
在リ
魯國ハ千八百七十六年十一月十三日ニ南部地方三個ノ軍事間區ニ出師準備
ヲ命テ發シ次ノ六軍團ヲ編成セシム即第八第九第十第十一第十二及第十四軍
團ナリ其后四周間ヲ徑即十二月十日ニ於テ第四第七及第十三軍團ニ出師準備
ヲ命令セリ此軍隊ハ平時魯國中央部ニ屯在セルモノナリ
此出常準備ハ多クノ時日ヲ費セリ何トナレハ當時鐵道ハ「キシチーウ」ヨリ
東西ニ通スル只一線路アルノミニシテ且ツ其構造ハ軍用ニ適セス殊ニ運行材
Kichanew

料及作業人員ノ欠乏セシ爲メ滯留ヲ釀セシニ因ル又鐵道ハ單線ニシテ停車場
互ニ遠隔ス故ニ一日ニ衆多ノ列車ヲ往復スル能ワサルノミナラス通過路水ニ
乏シク軍隊ノ飲用水氣罐車ノ用水ヲ得ル能ハサルニ至レリ之ヲ要スルニ鐵道
布設ノ方法宜シキヲ得サリシナリ

魯國ノ如キ大國ニテハ軍隊ヲ鐵道ニテ行ルモ長時間車中ニ居坐セサルヲ得ス
故ニ飲水及糧食ノ具備必要ナルハ論ナキナリ鐵道ノ景況如此故ニ只四軍團ヲ
集中スルニ三週間ヲ費セリ而シテ他ノ二軍團ハ海岸ニ集中ス即チ第七軍團ハ
「オデッサ」第十一軍團ハ「ニコライエヴ」ニ集中シ各其地ニ駐止ス
Odessa Nicoliev

第八軍團ハ「ナラスポール」(キシエネ子)第十軍團ハ「グーラ」ガルビナ(キシエ
ノ南)第十二軍團ハ「ナルグイエヴ」(キシエネ子)ノ西方ト「第九軍團」ハ「ビルツ
方」(キシエネ子)ノ北方ト
Orgiew Birzoula

「ベンデル」ヨリ「ガラツ」ニ通スル鉄道ハ當時建設ナカリシカ戰役中初テ鉄道
大隊之ヲ築構セリ

魯國鐵道軌線ノ幅ハ歐洲他ノ諸國トハ其性質ヲ異ニス故ニ機關車及ヒ客車ヲ
變更スルニ非サレハ國境ヲ起ユル能ハス例ヘハ「キンニチーツ」ヨリ西ニ通ス
ル鐵道ノ如キハ「チンゲニー」ヨリ「ルーマニ」ニ至ル間ニ於テ積ミ替テ爲サ
ル可カラス集中ノ時ハ此不利ヲ著シク感ゼザリシ是レ初メハ軍隊「ルーマ
ニ」地方ニ出テサリシヲ以テナリ

魯軍ハ始メヨリ作戰軍ト海岸軍トニ區別ス即チ作戰軍ハ四軍團ヨリ海岸軍ハ
二軍團ヨリ成ル然レモ後ニ至リテ此兵團寡少ナルヲ感シ該國中央部ニ就テ尚
ホ三軍團ヲ召集シ「キエブ」及「埃太利國境」ニ集中セリ

各軍團ハ步兵二師團騎兵一師團ヨリ編制シ步兵一師團ハ步兵四聯隊(一聯隊ハ
三大隊ヨ
リ成)砲兵六中隊(一中隊
他八中隊)トス又騎兵一師團ハ騎兵十八中隊及ヒ騎砲兵二中隊

魯軍編制
略

ヨリ成ル己ニ述ベシ如ク步兵大隊ハ戰時人員ニ比スレハ欠員多シ故ニ一師團
即チ十二大隊ノ銃ヲ合シテ一萬挺ト算ス又騎兵師團ノ兵數ハ二千五百騎及砲
十二門ナリ

軍團ニ軍團砲兵ヲ屬セズ然レモ戰役中各師團ヨリ砲兵二中隊ヲ派シ軍團長ノ
手裡ニ置クニ至レリ故ニ軍團長及各師團長ハ共ニ砲兵四中隊ヲ有セリ

步兵師團ハ騎兵ヲ有セサルヲ以テ其用ヲ足サンカ爲メ敢可薩騎兵聯隊ヲ編制
セリ然レモ始メハ師團ニ屬セスシテ獨立シ居レリ又可薩騎砲兵ヲ編制ス

其他別働隊ヲ編制シ有名ナル將官「スコベレフ」氏ノ令下ニ屬セシム其兵團ハ
高加索地方(回教ヲ
奉ス)ノ人民ヲ採用セリ魯國耶蘇教ヲ信スルハ世人ノ知ル如シ
然ルニ土耳其國人ハ回教ヲ尊崇ス故ニ魯軍土耳其ニ侵入セハ宗教戰ノ起ルヤ
モ期シ難シ魯帝常ニ宗教戰ノ殘酷ナルヲ諱ム故ニ之ヲ避ケンカ爲メ特ニ回教
宗ノ人民ヲ用ヒシナリ是ヲ以テ高加索回教徒聯隊ヲ用ヒテ前衛ヲ編成シ土耳

魯國戰員ノ

古國民ニ宗教戰ナラザルヲ公ニ示サントセリ其他土國々境ノ住民ヲ懷ケントスルノ意志亦此内ニ在リ

此別働隊ニ根幹トシ二個ノ可薩聯隊山砲二中隊及獵兵大隊四個ヲ附ス之ニ加フルニ「ビュルガリー」ヨリ遁逃シ來レル志願兵ヲ以テス始メハ二大隊ヲ編制セシモ后ニ志願者増加シテ遂ニ六大隊ニ至レリ此「ビュルガリー」兵團ノ幹部ハ魯國人ニシテ「ビュルガリー」人ハ只兵卒ノミ

「ビュルガリー」ハ元來耶穌教ヲ奉ス今來リテ魯軍ニ投シ戰ニ從フハ蓋シ其本國ニシテ獨立自由ニ爲サンノ目的ナリ歐羅巴部内ニ於テ用ヒシ戰員步兵十二萬五千人騎兵一萬九千騎野砲五百十六門ナリ若シ戰時定員ニ充實セハ十七萬人ニ至ルヘキモノナリ

海岸軍五萬六千人此戰時定員七萬人ナリ

後ニ至リ出師準備セシ兵團ハ右ノ諸軍ノ人員ヲ増加セリ魯國ニハ野戰軍ノ外

特別ニ編成セシ軍隊アリ即チ左ノ如シ

一 軍團ニ屬セサル工兵大隊

一 鐵道大隊 此隊ハ戰役中殊功ヲ奏センモノナリ即チ「ベシタル」ヨリ「ボルグラー」ニ至ル鐵道及ヒ「ヂュルジエウ」ヨリ「シストウ」ニ至ル鐵道ヲ新設セリ

一 砲三百五十門ヨリ成ル攻城廠 此攻城廠ハ要塞ニ對スルノ運動ヲ妨碍スルノ目的ヲ有リ

一 海軍支隊 已ニ前回ニ述ヘシカ如ク魯國ハ黑海内ニ一隻ノ軍艦ヲ有セス故ニ條約ヲ破リテ自今黑海ニ艦隊ヲ浮泊スト揚言センモ未タ之ヲ實行スル能ハサルナリ哥利米戰后六年間未タ土耳其艦隊ニ優ルノ軍艦ヲ構造スル能ハサルナリ又北洋ヨリ艦隊ヲ招致セントスルモ土艦海峽ヲ封鎖スルヲ以テ能ハス是ヲ以テ止テ得ス分解セル氣船ヲ以テ「タニユ」川迄輸送シ支隊ヲ編成セリ此支隊ニハ水雷艇二艘ヲ附屬セシム

土耳其軍ノ數ヲ調査スルハ頗ル難事ナリ何トナレハ從來軍ニ制規ナク漸ク近今其制ヲ建テント雖モ條例ハ唯紙上ニアルノミニシテ之ヲ實行セサンハナリ

土耳其軍兵

編者記ス
左表ハ豫備
軍ヲ徵集シ
テ戰時定員
トナセルナ
耳古常備軍
隊ノ總數ヲ
示コトアリ
ス

實ニ軍隊養成ニ要スル定額ノ過半ハ常ニ將官及ヒ監督部吏員ノ私スル所トナ
ル故ニ條例ニ掲クル所ノ定員ハ戰時ニ於テモ之ヲ充足スルヲ得ス
是ヲ以テ左ニ述フル兵員ノ如キ實際ニ有リシヤ否固ヨリ確證スル能ハサルナ
リ唯々條例ニ因テ其數ヲ擧クルノミ

第三	第二	第一(近衛)	軍國ノ番号		軍屯ノ在		歩兵	騎兵	砲兵	工兵	合計
			Monstir	Chumla	Constanti- nople	隊數					
41	24	28	16	12	14	24	24	37	3,860	3,860	3,860
34,354	20,424	23,828	17	14	39	21	20	144	3,150	3,000	21,600
86	10	10	12	12	14	24	24	37	731	1,253	500
145	10	12	24	24	37	21	20	144	3,150	3,000	21,600
23,407	10	12	24	24	37	21	20	144	731	1,253	500
118	6	14	14	14	39	21	20	144	3,150	3,000	21,600
20,335	911	2,436	2,436	2,436	6,911	162	84	234	21	20	144
708	36	84	84	84	234	21	20	144	3,150	3,000	21,600
207	5	1	3	12	144	21	20	144	731	1,253	500
31,050	750	300	450	1,800	21,600	162	84	234	21	20	144
3,411	204	149	574	1,800	21,600	162	84	234	21	20	144
47	1	1	1	1	40	1	2	40	1	2	40
8,789	187	187	187	187	7,480	187	374	7,480	187	374	7,480
237,105	18,898	21,873	27,357	28,707	65,856	410,320	30,094	65,856	410,320	30,094	65,856
794	46	94	96	96	248	118	96	248	118	96	248
2,532	204	140	574	1,800	21,600	731	374	500	731	374	500

合計	第七	第六	第五	第四
	Sama	Dagdad	Danus	Evromm
181	20	20	24	24
153,494	17,926	17,020	20,424	20,424
86	10	10	12	12
145	10	12	24	24
23,407	10	1,930	3,860	3,860
118	6	14	14	14
20,335	911	2,436	2,436	2,436
708	36	84	84	84
207	5	1	3	12
31,050	750	300	450	1,800
3,411	204	149	574	1,800
47	1	1	1	1
8,789	187	187	187	187
237,105	18,898	21,873	27,357	28,707
794	46	94	96	96
2,532	204	140	574	1,800

土國ニハ從前一種特別ノ兵制アリタリ此兵ヲ「シヤニッセイル」ト云フ封建時
代ノ武士ノ如ク特權ヲ有セリ實ニ此「シヤニッセイル」ノ遺弊ニ因テ土國ハ時
世ニ應スル兵制ノ進歩ヲ妨ケラレ且ツ其國零落ヲ致スノ一基因ヲ爲セリ
土帝「マームード」第二世夙ニ悟ル所アリ且ツ土耳其國勢ヲ恢復スルハ先ツ
Mahmoud

「シヤニツセル」ヲ除カサル可ラスト爲ス是ヲ以テ今ヲ去ル七十年前即チ千八百二十六年ニ於テ非常ノ鮮血ヲ流シテ遂ニ之ヲ鏖殺セリ而ル后歐州諸國ニ倣ヒ斯兵制ヲ建ツ

最初先ツ外國ヨリ將校ヲ招キ人民ニ護國ノ義務ヲ負擔セシム

其法「マホメット」宗信者ハ兵役ニ服シ「クリスト」宗信者ハ兵役ニ服セシムス

之レニ替ユルニ軍稅ヲ出サシム

「クリスト」宗信者ヲシテ武器ヲ取ラシメサルハ所以アルナリ即チ歐洲中此宗

ノ信者ハ「マホメット」宗ノ信者ニ比スレハ多キヲ十中ノ六ニ居ル故ニ此宗ノ

信者ヲシテ武器ヲ取ラシムレハ終ニ「マホメット」宗信者ヲ歐洲ヨリ驅逐スル

ニ至ルヲアラシテ恐レレハナリ

土耳其全國ヲ分ツテ七軍團區トナス

各軍團區ニハ左ノ兵員ヲ有ス

編者記ス
此騎兵四聯
隊ハ二旅團
ニ編成セラ
ル然レモ騎
兵團ナル
モノヲ編成
スルコトナ
レ

一 歩兵六聯隊(各聯隊ハ三大隊)

一 獵歩兵六大隊

一 定制軍騎兵四聯隊(各聯隊ハ六中隊)

一 砲兵一聯隊(十四中隊ヨリ成ル)

一 工兵一中隊

此七軍團中二個ハ其兵員稍衆多ナルモ特ニ此ニ詳記スルヲ要セサルヘシ

七軍團區ノ概略總計左ノ如シ

一 歩兵百三十八大隊

一 獵歩兵四十三大隊 (計百八十一大隊)

一 騎兵二十五聯隊(百四十五中隊)

一 砲兵百十八中隊

一 工兵七中隊

右ノ外各軍團ニ屬セサルモノアリ左ノ如シ

- 一 豫備砲兵一聯隊
 - 一 海岸要塞砲兵七聯隊
 - 一 獨立歩兵五大隊
 - 一 砲兵局地部隊五大隊
 - 一 獨立工兵四大隊
 - 一 警備隊二聯隊
 - 一 憲兵六十五大隊
- 全計兵員左ノ如シ
- 一 歩兵二十二萬人
 - 一 騎兵三萬六千騎
 - 一 砲六百七十二門

右ノ兵員ハ常備豫備兵ヲ算合セシモノナリ

右ノ外後備軍ノ兵員左ノ如シ

二百四十大隊(各大隊ハ八百人ヨリ成ル)

又國民軍三十萬ヲ得ルノ算ナリ

然レトモ是等ハ紙上ノ員數ニシテ確信スヘキモノニ非ルナリ

戰闘中止ムヲ得ス佛國ニ倣ヒテ民兵團ヲ作レリ

然レトモ此兵團ハ實際敵ニ對シテ働作スルヲ能ハサリシヲ以テ軍事上ヨリ論

スレハ一モ益ナキモノナリ

右ノ他ニ左ノ屬國ヨリ左ノ兵員ヲ出ス豫定ナリシ

一 埃及 歩兵一萬七千人 騎兵二千騎

砲二十四門

一 「チュニス」 歩兵三千人 騎兵千騎

Gunns

註世人ノ知ル如ク現今埃及ハ英國ニ「ナユニス」ハ佛國ニ屬セリ
 以上述フル所ノ兵員ハ條例正シク施行セラレタルモノト假定セシナリ然レト
 モ實際行政ノ不可ナルカ爲メ決シテ此定員ヲ充足セサリシヤ疑ナシ
 然レトモ別ニ壯兵多クアリシヲ以テ制外軍ヲ編成スルヲ得タリ其兵員幾何ナ
 リシヤハ確知スル能ハスト雖トモ蓋シ其數七萬人ニ達セシナラン此兵ハ教育
 ナキヲ以テ敵ニ對シテ働作スル爲メニハ其効力少ク唯搶掠等ニ用ヒシノミ
 後備大隊ハ千八百七十五年ノ末即チ「ヘルゼゴウイヌ」ニ於テ反亂起ルニ際シ
 編成シテ旗下ニアリ年齡二十四歳ヨリ二十九歳ニ至ル「マホメット」宗信者ヲ
 徵集セリ之ヲ第一後備軍ト稱ス千八百七十六年「セルビ」ノ戰鬪ニ與レリ故ニ
 七十七年宣戰ノ布告アル迄約一年半間ニ稍戰鬪ノ訓練ヲ爲スヲ得タリ
 千八百七十六年「セルビ」トノ戰爭ニ際シ第二後備軍ヲ徵集セリ即チ年齡二十
 七歳ヨリ三十三歳ニ至ルモノトス然レモ此兵ハ七十七年戰ニ至ル迄二十分ナ
 ル教育ヲ受ケシモノニ非ス

九歳ヨリ三十三歳ニ至ルモノトス然レモ此兵ハ七十七年戰ニ至ル迄二十分ナ
 ル教育ヲ受ケシモノニ非ス
 魯土戰爭ノ間即チ千八百七十七年十一月ニ於テ第三後備軍ヲ徵集スルニ至レ
 リ此兵員ハ事故アリテ兵役ニ服セサリシモノヲモ徵集セリ而シテ年齡三十三
 歳ノモノ亦此内ニアリ
 此全體ニ就テ熟視スレハ常備兵ト第一後備軍ハ教育アル軍隊ニシテ他ハ不良
 ノ軍隊ナルノミ而シテ此不良ノ軍隊ハ全軍ノ三分一強ニ居レリ
 千八百七十七年四月二十四日宣戰布告ノ時ニ當テハ凡ソ左ノ如ク軍隊ヲ配布
 セリ

編者記ス
此表ハ一セ
ルビ一戦ノ
終ニ當リ七
耳古軍ノ採
リシ配置ナ
リシ考ノ爲
メ茲ニ掲ク

場 戦ノ巴羅歐	ノ大歩 隊兵	ノ中騎 隊兵	數 砲	合 計 員 人
Bosnie	26	12	30	19.000
Herzegovine	37	"	24	24.000
Sandjak de Novi-Buzar	14	"	18	9.000
Albanie	23	"	30	15.000
Macedanie	4	"	6	3.000
Epire-Thessalie	18	6	18	13.000
				83.000
Serbie / 東境	64	18	102	45.000
全 南境	22	12	48	16.000
				61.000
Daniebe: Babadagh 及 Dobrildja	5	6	6	4.000
Varna, Routschouk, Silistrie.	51	18	144	37.000
Sistova, Tirnova, Berkovatz, Rahova	10	5	"	7.000
				48.000
Bulgarie transbalkanique, Philippopolis, Sophia.	38	"	"	25.000
Constantinople	32	6	18	22.000
				47.000
Archipel 島	14	"	24	9.000
合 計	353	83	468	248.000

編者記ス
官名ヲ「
オスマン
Mouh
ト云フ佛國
ノ「マレマ
Mambal
シャル」ニ等

第一大將「オスマンバシヤ」ノ指揮スル軍隊(五萬人)ハ「ウイヂン」附近ニアリ
 即チ歩兵五十三大隊騎兵六中隊砲兵十五中隊ナリ此兵員ヲ左ノ如ク配布ス

一 歩兵十四大隊 「ウイヂン」ノ要塞及其近傍
 二 歩兵二十六大隊 「リニフフ」ヘルラダ」及「ダニユーフ」
 騎兵及砲兵ノ大部 沿岸ニ野營
 三 歩兵四大隊 「アルナエヴバラシヤ」及「コソウチ」
 四 歩兵四大隊 「アトルパランカ」
 砲兵一中隊 「ロームバラシヤ」
 五 歩兵五大隊 「ラホウア」
 砲兵二中隊 「Rahova」

第二 「ルーチエク」隊ハ大將「エスケレフバシヤ」ノ指揮スル所ニシテ其隊數
 歩兵四十三大隊騎兵六中隊砲兵十二中隊ナリ之ヲ左ノ如ク配布ス
 一 歩兵二十九大隊

騎兵二中队 「ルーナユウク」
 砲兵七中队 Routschouk

二 歩兵九大隊 「ニコポリ」
 騎兵四中队 Nivolio
 砲兵三中队

三 歩兵四大隊 「シストウア」
 砲兵二中队 Ssiowa

四 歩兵二大隊 「プレブナ」
 Plevna

五 歩兵一大隊 「ユエラ」
 Biela

第三 「シリストリ」隊ハ中將「セラミバシヤ」ノ指揮スル所ニシテ其隊數ハ歩
 兵三十四大隊騎兵六中队砲兵九中队ナリ之ヲ左ノ如ク配布ス

一 歩兵二十四大隊 「シリストリ」
 騎兵二中队 Siiistrie
 砲兵五中队

二 歩兵六大隊 「ケユルケユカイ」
 騎兵二中队 Turtukai
 砲兵四中队

三 歩兵四大隊 「ラソソウア」
 騎兵二中队 Passowa

第四 「トブルガヤ」隊ハ中將「アリバシヤ」ノ指揮スル所ニシテ其隊數ハ歩
 兵二十四大隊騎兵十二中队砲兵七中队ナリ之ヲ左ノ如ク配布ス

一 歩兵三大隊 「ツールナヤ」
 砲兵二中队 Toulona

二 歩兵五大隊 「イザクラヤ」
 砲兵一中隊 Isakcha

三 歩兵六大隊 「マツナン」
 騎兵四中队 Matchin
 砲兵三中队

四 歩兵二大隊 「ババダグ」
 Babudagh

- 騎兵二中隊 「ヒルリウア」
Hirsova
- 五 歩兵三大隊
- 騎兵二中隊
- 砲兵一中隊
- 六 歩兵四大隊 「チエルナウチダ」及「メナデー」
Tschernavuda Medjidie
- 騎兵四中队 「コスタンツフ」
Kostantza
- 七 歩兵一大隊
- 第五 「ワルナ」隊ハ埃及人中將「ラシドバシヤ」ノ指揮スル所ニシテ其隊數歩
Varna Raschia Pasha
- 兵二十一大隊騎兵四中队砲兵七中队ナリ之レヲ左ノ如ク配布ス
- 一 歩兵十六大隊 「ワルナ」
Varna
- 砲兵五中队
- 二 歩兵三大隊 「バザルナーク」
Bazardjik
- 騎兵四中队
- 砲兵一中隊

- 三 歩兵二大隊 「ブラウアデー」
Pawadi
- 砲兵一中隊
- 第六 「シユームラ」隊ハ「アシュメートエイユーブバシヤ」ノ指揮スル所ニシテ
Chounla Achmet-Eyoub-Pasha
- 其隊數ハ歩兵四十一大隊騎兵十二中队砲兵十二中队ナリ之ヲ左ノ如ク配布
ス
- 一 歩兵二十九大隊 「シユームラ」内ニ居住シ及其近傍ニ幕營ス
Chounla
- 騎兵六中队
- 砲兵九中队
- 二 歩兵四大隊 「ラスヅラド」
Rasgrad
- 騎兵六中队
- 砲兵一中隊
- 三 騎兵四中队 「ラスヅラド」ヨリ「ブラウアデー」ニ至ル鉄道線ニ梯置ス
Rasgrad Plawadi
- 四 歩兵四大隊 「カサン」
Kasam
- 砲兵二中队

五 歩兵二大隊 「エスキチユマ」
 Eski Djuma
 六 歩兵一大隊 「エスキスタンビユール」
 Eski Stanbul
 七 歩兵一大隊 「ヂェンコイ」
 Jenkoi
 右ノ外豫備トシテ左ノ兵員ヲ備フ是レ所要ニ際シ何レノ点ニモ速ニ赴援セシ
 ムルモノナリ

- 一 歩兵三大隊 「チニューウア」
Tinova
- 二 歩兵一大隊 「オスマンバザール」
Osman-bazar
- 三 歩兵一大隊 「ロウアツツ」
Lowatz
- 四 歩兵一大隊 「ヤンボリ」
Yanhori
- 砲兵三中队
- 五 歩兵二大隊 「スリブノ」
Sivno
- 六 歩兵十三大隊 「ソロヤ」及「ニツシユ」
Soplia Nisch

騎兵六中队
砲兵五中队

計

歩兵二百三十九大隊
騎兵五十二中队
砲兵七十一中队

以上述フルモノ、外内亂鎮定ノ爲メ「モンテチグロ」ニ六万五千人アリ希臘國
 チ顧慮シテ土耳其南部ニ一万五千人ヲ駐ム都城「コンスタンチノウツアル」ニハ
 二万五千人アリ又亞細亞ノ戰場ニハ十二万ノ軍隊ヲ使用セリ
 Constantinople
 此戰爭ニ於テ土耳其軍ノ最モ不幸ナリシハ旅團師口ノ編成確定シアラザリシ
 一及軍隊ノ戰鬥力上ニ大關係ヲ有スル行李輜重ノ設ケナカリシニアリ
 土軍ハ常ニ守勢ヲ取レリ是レ止ヲ得サレハナリ何トナレハ攻勢ヲ取ラント欲
 スルモ軍隊不具ニシテ運動スル能ハサレハナリ

千八百七十七年 魯土戰史筆記第三回 明治二十一年一月十三日

歐羅巴部内ニ在ル土耳其軍ノ總督ナ「アブデユルケリムハシヤ」ト稱ス軍事上

Andrzej Jacha

ニ就キ良好教育ヲ受ケシ人ナリ嘗テ永ク「Vienna 大都會」ニ住シ同國軍務

Vienna

ニ服シ高等ナル將校ノ薰陶ヲ受ケタリ且ツ此戰役ノ一年前「Sarajevo セルビ」ト戰フテ

Sarajevo

利ヲ得シ人ナリ于時年七十一歳ナリト云フ

此熟練ナル老將軍ハ此戰役ニ於テ策ヲ攻勢ニ取ラサリシ是レ此過失ハ一二年

老ニ基因スト雖モ又軍隊ノ情況止テ得サルニ出ツルコト多キニ居ルナラン

此役ノ起ルニ當テヤ政略上ノ攻勢ハ常ニ魯國ニ在リタルヲ以テ軍事上ノ攻勢

モ亦之レニ歸シタルモノ、如シ今地圖ヲ閱スルニ土耳其軍攻勢ヲ取リタラ

シニハ好結果ヲ得シナラン若シ土耳其軍全ク作戰力ヲ完備シ居レハ之ヲシテ

「Danube ダニューブ」河ヲ超ヘシメ以テ奧地利國境ト「Gaule ダニューブ」ノ下流「Gaule ガラツツ」ノ

Danube

Danube

間ニ配置スルヲ良トス

然レモ時期ヲ失ラス之ヲ行ハント欲セハ政略上ノ談判ヲシテ先制ヲ得ル如ク
 セサル可ラス若シ之ヲ實行スルヲ得ハ土耳其軍ノ占領スル面ハ短縮シ左翼ハ
 中立國ナル奧地利ニ托シ右翼ハ「ダニユーブ」河ヲ以テ界シ且ツ正面ニハ急激
 ナル支流「プリト」(魯國ト「ルーマニ」ノ國境)及ヒ「ゼレツト」(「ガラツツ」ニ
 於テ「ダニユーブ」河ニ朝ス)アリ以テ十分ナル抵抗ヲ爲スヲ得且ツ此低地ニハ
 「バスカニ」ヨリ「ガラツツ」ニ至ルノ鐵道アリ
 然レモ政略上談判ノ經過ニ因テ終ニ此策ヲ行フ能ハスシテ守勢ヲ取ラサル可
 ラサルニ至レリ
 土耳其軍守勢ヲ取ル爲メニハ「ダニユーブ」河ノ大障礙ハ大ニ利益ヲ與ヘタリ
 然レモ「ヴィヂン」ヨリ河口ニ至ル迄ヲ掩護セント欲セハ殆ント六百五十吉米
 ノ長サアリ而シテ此間何レノ點ニ於テ魯軍ノ渡河スヘキヤヲ考慮セザル可
 ス土軍總督ハ之ヲ知ルニ頗ル苦慮セリ

是ヨリ先キ魯土兵ヲ交ユルヤ魯軍ハ多クハ「イザクナヤ」(「マナン」ノ東方)近
 傍ニ於テ渡河セリ故ニ此回モ亦タ河口ノ近傍ヲ顧慮セサル可カラス然レモ此
 回ノ戰ハ實際前年ノ「セルビ」ト土國ノ戰ヨリ連續スルモノナリ是ヲ以テ魯軍
 ハ「セルビ」ヲ援助トナサント欲スルヤモ知ル可ラス故ニ「セルビ」國境ニ近
 セル「ヴィヂン」地方モ亦タ恐ナキ能ハス
 是等ノ關係ヲ以テ土耳其軍總督ハ何レノ地ニ軍隊ヲ集中スヘキヤニ因迷セリ
 然レモ終ニ全軍ヲ二部ニ分テ其小部ヲ「ヴィヂン」附近ニ大部ヲ四角要塞ノ附
 近ニ集中スルニ決セリ
 四角要塞トハ曩キニ述シ如ク「ルーチユツク」(「シリストーリ」)「シニュームラ」(「ワ
 ルナ」)ノ四要塞ヲ稱スルナリ此四要塞ハ前年ノ戰役ニ於テ頗ル功カヲ有セシ
 モノナリ
 「ヴィヂン」附近ニ在ル部隊ト四角要塞ノ間ナル「ダニユーブ」河ハ唯制外軍ヲ
 「ヴィヂン」

シテ監視ヲ爲サシムルノミ又「ドブルナヤ」地方ニモ大兵ヲ置カスシテ監視兵
 ヲ出セシノミ是レ全軍ヲ六百五十吉ネノ間ニ散布スルヲ避クルカ爲メナリ
 歐洲ニ於テモ一般ニ此兵ノ配置ハ過失ナキモノト評セリ然レモ守ノ考フル所
 ナリテスレハ土軍ハ二部ニ分ツナク一大團トナシテ四角要塞ノ附近ニ置ク
 ナ良トス是レ百出變化四方ニ應スルノ便ヲ得レハナリ
 土軍十五萬人若シ四角要塞附近ニアレハ魯軍ハ之ヲ西方ヨリ迂回スル能ハス
 何トナレハ土軍ノ突撃ニ會フテ背後ノ連絡ヲ斷絶セラル、恐レアレハナリ
 又魯軍東方ヨリ攻撃セントスルカ如キハ固ヨリ爲シ得ヘキニアラス何ントナ
 レハ東方ハ海ニ濱スレハナリ
 故ニ魯軍ハ唯北方ヨリ攻撃スルヲ得ルノミ然レモ此場合ニ在テハ土軍ノ眼前
 ニ於テ「ダニユーブ」河ヲ渡ラサル可ラス然ルハ土軍ニハ艦隊アリ之ヲ妨ク
 ルヲ得

「魯國作戰計畫」

其他土軍ハ諸要塞ヲ修理シ且ツ「バルカン」山ニハ堡壘ヲ築キ假令弱少ノ守備
 兵ト雖モ之ヲ置カサル可ラス
 實ニ此物ト人エノ防禦物ニ因テ土軍ノ利益ヲ得ヘキハ他ノ諸國ニ於テ未ダ嘗
 テ其例ヲ見サル所ナリ
 魯國ノ第一ノ目的トスル所ノモノハ「コンスタンチノツブル」ニ侵入スルニア
 リ
 「コンスタンチノツブル」ニ至ル最近路ハ「トブルチヤ」ヲ經過ス千八百二十八
 年ノ戰役ニ於テハ即チ「イザクチヤ」及ヒ「ワルナ」ヲ經テ南行セリ實ニ此線路
 ハ背後ヲ斷絶セラル、ノ患ナク且ツ此附近ニ在テハ「ダニユーブ」河ヲ容勿ニ
 渡過スルヲ得即チ「ブライラ」下流ニ在テ河ノ北岸ハ南岸ヨリ高シ而シテ其幅
 ノ最モ狹キ部分ハ殆ント七百五十米ナル處アリ加之此點ハ四角要塞ヨリ遠隔
 シアルノ利アリ且ツ「マチン」「イザクチヤ」ノ防禦工事ハ大破シ居レリ故ニ此

近傍ニ於テ「ダニユーブ」川ヲ渡リ正面ヲ以テ四角要塞ニ當レハ大ニ利アリ然レモ健康上ニ於テハ大害アリ現ニ千八百二十八年ノ役魯軍ハ「トブルチヤ」地方ニ於テ病ノ爲メ全軍ノ三分ノ一ヲ失ヘリ又千八百五十四年ニ於テ佛軍モ亦同様ナル損害ヲ蒙レリ

故ニ此等ノ經驗ハ此地方ヲ作戰路ニ採用スヘカラサルヲ示スモノナリ又此地方ニハ唯一ノ不良道路アルノミ而シテ沿道瘠地軍隊ノ給用品ヲ欠ク故ニ五十年前ノ軍隊ニ三倍スル兵員ヲシテ此地方ヲ通過セシムルカ如キハ魯軍ノ爲ス可ラサル所ナリ其他千八百二十八年ノ役ニ在テハ魯軍黒海ヲ制シ居レリ故ニ「キシユチーヴ」「イザクナヤ」「ワルナ」ヲ經過スル線路ヲ取ルヲ得シモ今ハ全ク反對セリ
Kichenev Katcha Warra
故ニ此役ニ於テ魯軍ノ首ナル行進路ハ「ブーカレスト」「ナルノヴァ」「アードリノ、ブル」ヲ經テ「コンスタンチノブル」ニ至ルモノヲ取レリ
Constantinople Boukarest Hirnova Andrinople

若シ「ルーチユック」近傍ニ於テ「ダニユーブ」河ヲ渡ルルハ此道路ハ四角要塞ヲ迂回スルモノナリ
Rousschouk Danube

又地誌ニ因レハ「ルーマニ」「ビュルガリー」ハ軍隊給養ノ爲メニハ十分ナル材料ヲ有スルモノ、如シ假令土耳其政府ノ過失ノ爲メ零落スルニモセヨ天然豊饒ノ地ナルヲ以テナリ

其他此方向ニハ使用シ得ヘキ鉄道アリ即チ「キシユチーヴ」ヨリ「イヤッシー」
Kichenev Hassi
「ブライラ」及ヒ「ブーカレスト」ヲ經テ「ルーチユック」ニ至ルモノ是レナリ此線路ハ「ダニユーブ」河ニ稍近接スル迄之ヲ使用スルヲ得然レモ此行進線路ハ大ナル危険アリ何ントナレハ「ダニユーブ」河北方ニ彎曲スルヲ以テ「トブルチヤ」ヨリ土軍ノ來テ背後ノ連絡ヲ斷ツノ恐レアルヲ以テナリ故ニ此線路ヲ採用スルニ當テハ「ガラツツ」「ブライラ」及ヒ「レニ」ヲ堅固ニ占領シテ之ヲ掩護セサル可ラス
Galatz Braila Beni Dobruja

又魯軍「ケルノバ」ニ前進スルニ至テハ「トブルナヤ」ヲ占領セサル可ラス
 「ルーマニ」國內部ノ交通ヲ確實ニ保持セント欲セハ當ニ「トブルナヤ」ヲ占領
 スルノミナラス四角要塞ニ對シモ掩護セサル可ラス又「ウイヂン」ヨリ魯軍ノ
 背後ヲ脅威スルヲ得ヘシ故ニ之ニ對シモ有力ノ掩護ヲ爲サハル可ラサルナリ
 之ヲ爲サント欲セハ魯國ハ最初ヨリ著大ノ兵力ヲ有セサル可ラス即チ出師準備
 備ニ當リ四軍團ヲ以テ能ク之ヲ爲シ得サルヲ知ラサル可ラス然ルニ魯國ハ土
 國軍事上ノ動力ヲ誤解シ居レリ故ニ一旦「ダニユーブ」河ヲ渡ルニ方テ忽チ其
 兵力ノ足ラサルヲ感シ魯國內部ヨリ増加兵ノ來ル迄長時間戰爭ヲ中止セサル
 可ラサルニ至レリ土軍若シ此時間ヲ利用セシナラハ魯軍ハ殆ント危カリシ
 ナリ

魯軍ハ路ヲ「ブーカレスト」「ルーチユク」ニ取ルニ決セリ「ブーカレスト」ハ
 土耳古屬「ルーマニ」ノ首府ナリ故ニ之ヲ過クルハ恰モ土國ヲ通過スルモノニ
 ナリ

異ナラサルナリ

是ヲ以テ此戰役ノ始メニ於ケル「ルーマニ」國ノ舉動如何ヲ知ル「緊要タリ
 藩屬タルノ點ヨリ論スレハ「ルーマニ」國ノ土國ニ從フヘキハ素ヨリ當然ナリ
 然レモ土國ハ「ルーマニ」ノ國境ヲ守備スルヲ爲サスシテ「ダニユーブ」河ノ
 南方ニ於テ防禦スルニ決セリ且ツ「ルーマニ」國ノ軍隊ヲシテ土國內ニ來ラシ
 メントセリ故ニ同國侯ハ其國ヲ魯人ノ手ニ放棄セラル、ヲ知レリ依テ國侯ハ
 局外中立ヲ保タン「希望シ竟ニ魯國ト盟約ヲ爲スニ至レリ

此盟約ニ因レハ「ルーマニ」國ノ軍隊ハ「タルテツ」河「ニコホリ」ノ近傍ニ於
 テ「ダニユーブ」河ニ朝ス「西方ニ退去シ其東ニアル部分及ヒ鐵道ハ魯國ノ
 意ニ任シテ使用セシム又地方ノ資物ハ賠償ヲ以テ魯軍任意ニ取ルヲ得
 「ルーマニ」國侯ノ權利上ヨリ論スレハ如此盟約ハ爲シ得ヘキニ非ルナリ然レ
 トモ土帝之ヲ援ケサルヲ以テ已ムヲ得ス此約ヲ結フニ至リシナリ

土國ニ於テ之ヲ知ルヤ「ルーマニ」國ハ己ニ敵ト見做サ、ル可ラス即チ土國ハ
更ニ敵ヲ増加セシモノ、如シ *Rumanie*

魯國最初ノ目的ハ軍ヲ「ブーカレスト」ニ集中スルニアリ之レカ爲メニハ「ブ
ライラ」及「イスマイル」ヲ速ニ占領セサル可ラス即チ鐵道ヲ破壊セラレサ
ル前占有スルヲ要ス *Boukarest* *Ismail* *Braïla*

「イヤ、シー」ヨリ通スル鐵道ハ「ガラツ」附近ニ於テ「ダニユーブ」河ニ接近
ス而シテ「ダニユーブ」河ニハ土耳古艦隊アリ殊ニ「ガラツ」ノ上流「バル
ボシ」村ニ於テ鐵道ハ二線トナリ其南ナルモノハ「セレント」川ノ橋梁(第二號 *Danube* *Tusi* *Galatz* *Bat* *Los hi* *Seret* *Galatz*)

地圖ヲ視ヨ)ヲ通過セリ此點ハ魯軍ノ爲メ最モ緊要ニシテ最モ危険ナル點ト
ナス何トナレハ魯軍「ブーカレスト」ニ在ルニ當テ土艦ノ爲メ若シ此橋ヲ破壊
セラルレハ則チ其背後ノ連絡斷絶スレハナリ而シテ土艦モ亦其準備ヲ爲シテ
「セレント」河口ニ碇泊シ居レリ *Boukarest* *orel*

魯軍「ル
マニ」國ノ
通過

千八百七十七年四月二十四日魯軍ハ左ノ三縱隊トナリテ「ルーマニ」國ヲ行
進ス *Roumanie*

第一縱隊(第十二軍團)「ブーカレスト」ニ向フ *Boukarest*

第二縱隊(第八軍團及ヒ第九軍團(半部)同)「ブーカレスト」ニ向フ *Boukarest*

第三縱隊(第十一軍團)「レニ」「ガラツ」「ブライラ」ニ向フ *Reni* *Galatz* *Braïla*

第九軍團本部ハ鐵道ヲ以テ「スラチナ」「タルテツ」河畔(ニ送レリ *Slatina* *Oltz*)

其他架橋材料、瀟船及ヒ攻城廠ハ鐵道輸送ヲ爲サントセリ之レニ因テモ亦タ
前ニ述フル所ノ「バルボシ」村ノ橋梁ハ之ヲ占領スルノ急務ナルヲ知ルニ
足ル *Barboschi*

之ヲ爲サンカ爲メ豫メ「ボルグラアド」ニ置キシ格陸聯隊ヲシテ四月二十四日
即チ宣戰布告當日ノ早朝ニ國境ヲ越ヘシメタリ *Bolgrad*

此聯隊ハ非常ノ熱心ヲ以テ其夕「バルボシ」村ノ橋梁ニ達セリ即チ途中「プリ
Punt

ユト「河ノ漲アリ之ヲ渡ルニ四時間ヲ費セシニモ關ラス午後四時四十分「ガ
ラツ」ニ達ス其路程ハ十三吉本之ニ費ス時間九時半ナリ

是ヲ以テ翌二十五日ニハ「ブライヤ」ニ侵入スルヲ得タリ
Galatz

實ニ如此強行軍ヲ爲セシ例ハ戰史中唯此一アルヲ見ルノミ
Braila

土艦ハ格隆兵ノ如此突然ニ現出シタルニ喫驚シ橋梁ヲ破壊スルニ違アラスシ
テ「マヤナン」ノ方向ニ歸航セリ

二十五日魯軍(第十一軍團)ノ前衛ハ「ガラツ」ニ着ス依テ水雷四十個ヲ「セレ
Matchin Galatz Seret

ト」河口ニ裝置ス又其後二日間ニ「セレント」近傍「ダニユーブ」河岸ニ四個ノ
堡壘ヲ築設セリ此堡壘ニハ最初野砲ヲ備付セシモ二十八日ニハ若干ノ重砲ヲ
据ユルヲ得タリ

五月四日ニ於テ第十一軍團ハ「ヤロミツア」(ヘルソバノ西)「ブライヤ」
「ラツ」及ヒ「レニ」ニ達セリ而シテ「プリニト」河口ニ水雷ヲ裝置ス又「ダニ
Galatz Renti Prnt

ユブ」川ニ於テモ「レニ」ト「キリヤ」ノ間ニ水雷ヲ沈メ以テ土艦ヲシテ海ヨリ
入航スル能ハサラシム
Egni Kilia

此時ニ當テ魯軍ハ妨害ナク「ブトカレスト」ニ集中スルヲ得タリ然レトモ其行
進ハ頗ル困難ヲ感セリ何トナレハ歐洲ニ於テ道路粗惡ナルハ「ダニユーブ」河
下流近傍ノ地ノ如キナシ殊ニ此行軍ハ降雨多キ時季ニ際セシヲ以テナリ加之
「ブーカレスト」ニ向テ行進スル大部隊ノ爲メ用ヒ得ヘキ道路ハ唯二條アリシ
Loukarest

如此長キ縱隊ヲ以テ粗惡ナル道路ヲ行進スルニモ關ハラス歩兵ハ毎日十五吉
本前方派遣ノ騎兵ハ毎日二十二吉本ノ行軍ヲ爲セリ

五月二日ニ於テ騎兵ハ己ニ「ダニユーブ」河ニ達シ「ナルテツ」河ノ「ダニユー
ブ」ニ朝スル點ヨリ「ナルテニツマ」
Danube Olteaz

「ブーカレスト」ノ東南ノ間ヲ監視セリ
步兵ノ行進ハ五月下旬ニ於テ全ク終リ左ノ如ク位置ス
Boukarest

第十二軍團ハ「ブーカレスト」西方

第八軍團ハ同所東方

第九軍團ノ半部ハ其北方

又前兵ヲ「ニコポリ」ルーマニア「シリストリ」ノ方向ニ出セリ此三要塞中

「ニコポリ」ヲ除クノ外ハ皆大ナリ「ニコポリ」ハ稍小ナリト聲モ尚四千乃至五

千ノ兵ヲ有セリ

第九軍團ノ歩兵第三十一師團及騎兵第九師團ハ前ニ述フル如ク鐵道ヲ以テ

「ストラチナ」ニ送レリ

Stalin

以上ノ運動ヲ爲ス間「ルーマニア」國軍隊ハ「チルテツ」川ノ西方ニ退去セリ

Romania

Oltz

「ルーマニア」國ノ軍隊ハ四師團ニ分ツ其總計左ノ如シ

Romania

歩兵五十一大隊(小銃ノ數三万二千挺)

騎兵四十中隊(騎士四千五百騎)

砲兵十四中隊(砲八十四門)

此軍隊ヲ二部ニ分チ一部分ヲ「カラフア」ニ他ノ一部分ヲ「クラヨウア」附近及

Kalafat

Krayova

ヒ其東北ニ置ケリ

土國ハ己ニ「ルーマニア」國ヲ敵視ス故ニ「ウイヂン」ヨリ「カラフア」ニ向テ砲撃

Romania

Widin

Kalafat

セリ

此ニ於テ「ルーマニア」國ハ眞實ニ魯國ト盟約ヲ結ビ且ツ土國ノ羈束ヲ脱セン

Romania

ヲ努ムルニ至レリ

又魯國ハ「ルーマニア」國人民ノ志願者ニ武器ヲ貸與スルヲ要スルニ至レリ然レ

Romania

在此人民ニハ最初戦闘ニ與ルヲ禁止セリ

魯軍ノ第一ニ「ブーカレスト」ニ到着セシ軍團ハ其閉進ヲ終ルヤ六月六日ノ夜

Boukarest

「ダニユーブ」河ヲ渡ラント考定セリ之レニ臨マンカ爲メ魯帝ハ聖彼德堡ヨリ

Dunbe

「プロヂシニナ」ニ來ル然レモ其準備未タ整頓セサリシカ爲メ期日ヲ延ハサ

Ploeschti

ル可ラサルニ至レリ
 此魯帝ノ臨場ハ土軍ニ庇フ能ハスシテ魯軍首カノアル所ヲ知ラシメタリ
 此時ニ當リ魯軍ハ增加兵ノ三軍團來着スルヲ待テ要セリ
 增加兵中第十四軍團及ヒ「ドンコザック」騎兵師團ハ「ブライヤ」
 「ガラツツ」
 「レニ」ノ線ニ至リ第十一軍團ト交代ス而シテ第十一軍團ハ「タルテニツア」ニ
 至リ「ダニニューズ」河下流ノ方向ヲ監視ス此運動ハ六月十三日迄ニ終ルヲ得
 タリ
 第十三軍團ハ「ブーカレスト」ノ南方ニ乘着ス又第四軍團ハ六月中旬「プリユ
 ト」川ヲ過ク
 魯軍ハ此增加兵ヲ併セテ左ノ員數ヲ有スルニ至レリ
 小銃ノ數十九万挺
 騎士二万七千騎

「ダニニューズ」
 ノ河艦隊
 ノ戦闘

砲八百五十門

土國「ダニニューズ」艦隊ノ大功ヲ奏セツヲ信セシハ獨リ土耳其人ノミナラス
 全世界ニ於テモ之ヲ希望セシ所ナリ
 土國ハ此艦隊ヲ進拔セシメンカ爲メ寶ニ巨額ノ金ヲ費セリ當時ヲ去ル十一年
 前内亂ノ爲メ弒セラレタル「アブジュル、アジス」帝ハ特ニ大ニ力ヲ盡セリ
 英國海軍ノ一將官ニ「アバクバシヤ」ト稱スルモノアリ北米國民戰ニモ參與セ
 シ經驗者ナリ又嘗テ封港ヲ突貫セシ「アル」ヲ以テ世人呼ンテ封鎖破リト稱セ
 リ當時土國ノ軍勢ニ服シ大ニ土國艦隊ノ聲價ヲ高ムルヲ得タリ然ルニ魯土戰
 前土國ノ一反對黨ノ忌ム所トナリ遂ニ海軍ヨリ黜斥セララル之レカ爲メ土國艦
 隊ニ大ナル不幸ヲ生シタリ

「ダニニューズ」艦隊ハ最初ヨリ「ウイゲン」ノ下流數所ニ分配セリ即チ「ウヂイ
 Danile
 「ラホウマ」シストウマ「ルーチユク」シリストリ「ホルソウマ」等ナリ
 Balava Sisto Routschouk Silistrie Hisova

「ガラツツ」Galatz「サルテニツア」Otenitza「ヂエルヂエウツ」Gaergevoニ於テ魯軍ノ築設セシ砲臺ハ土艦ト絶エス戦闘ヲ爲セリ

土艦ノ數隻ハ魯軍ノ裝置セシ水雷ノ爲メ大損害ヲ蒙リ全ク沈没セシモノアリ否サルモノモ亦大ニ戦闘力ヲ失ヘリ而シテ土艦ハ漸次水雷ノ爲メ要塞近傍ニ窘蹙セラル

此艦隊トノ戦闘中最モ大ナルモノハ「ガラツツ」ノ砲臺ト其近傍ニアリシ土艦十二隻トノ戦闘是レナリ

土艦ハ常ニ「マツナン」Matolin近傍「ダニユーブ」Danube河東方支流ニ於テ魯國砲臺ノ射程外ニアリ時々出テ砲臺殊ニ鐵道ヲ砲撃セリ然ニ五月九日魯軍ノ「カラツツ」Galatz砲臺ヨリ發セシ彈丸土國鋼鐵艦ニ命中シ破烈セリ此不幸ノ後土艦ハ終ニ「ダニユーブ」Danube河ニ出ツルヲ試ムル能ハサルニ至レリ

此ニ於テ魯軍大ニ振フ依テ五月二十六日汽船ヲ浮ヘ更ニ「マツナン」Matolin支流ヲ湖

リ水雷ヲ以テ土艦ヲ攻撃シ第二ノ大破壊ヲ施行セリ

土艦ハ水雷網ヲ以テ魯國汽船ノ進襲ヲ防禦セリ

之レト同シク魯軍モ亦「マツナン」Matolin支流ノ河口ニ水雷壅塞ヲ設置セリ

六月中旬上流ニアリシ土國艦隊ハ水雷閉鎖ヲ衝破シテ「シリストーリ」Silistrieニ脱セリ

其後魯軍ハ「ブライラ」Braila附近ニ於テ「ダニユーブ」Danube河ニ水雷壅塞ヲ設ケ以テ

「レニ」Rehniト此地トノ中間ハ土艦ニ對シ全ク堅固ニ掩護スルニ至レリ

六月下旬ニ於テ魯軍ハ「ダニユーブ」Danube河ヲ渡過スルヲ得タリ此渡河ハ宣戰布告

ノ後既ニ六十五日ヲ經過セリ是レ「ルーマニ」Roumani國鉄道ノ効程少ナカリシト又エ

兵隊ノ數不十分ナリシカ爲メナリ實ニ如此大河ヲ渡ラントスルニハ尋常軍團

ニ備フルエ兵隊ヲ以テ足レリトスル能ハサルナリ

其他渡河點ニ就テモ大ニ混雜ヲ生セリ魯軍ノ行進路ハ「ブーカレスト」Boukarestヨリ

「チルノウア」Timovaノ方向ヲ取レリ之レカ爲メニハ「ルーチエツク」Routschouk近傍即チ「ニコ

魯軍「ダニユーブ」河ニ渡ル

ポリ」或ハ「シストヴァ」ニ點中ニ於テ渡過セサル可ラス其他ノ點ニ於テハ河
岸ニ近接スル能ハサルナリ
opolis Sifova

此二點ニ於テモ各利害アリ左ノ如シ

「ニコポリ」附近ニハ「ナルテツ」ノ支流アリ架橋ノ準備ヲ爲スヲ得且ツニ
ニコポリs
三ノ島嶼アルヲ以テ波河ト架橋ヲ容易ナラシム然レモ「ニコポリ」ノ要塞近
Oleza
接シアルヲ以テ其展望内ニ於テ架橋セサル可ラサルノ危害アリ
ニコポリs

「シストヴァ」附近ニ在テハ「ダニユーブ」ノ河幅ハ千五百米ナリ而シテ架橋
Sistova Danube
ノ準備ヲ爲スヘキ支流ナシ殊ニ南岸ハ絶壁其上陸點トスヘキモノハ(第一
号圖ヲ見ヨ)「テキキールデレー」支流ノ河口只一アルノミ然レモ其利トスル
Tekir Dete
所ノモノハ「シストヴァ」ノ要塞ハ「ニコポリ」ノモノヨリ小ニシテ且ツ南方
Sistova Nicopolis
ニ向テ後來使用スヘキ道路ヲ有スルニアリ
ニコポリs

故ニ波河點ヲ「シストヴァ」近傍ニ撰定セリ然ルニ六月中旬「ダニユーブ」河溢
Sistova Danube

レ其左岸ノ地ハ殆ント接近スル能ハサルニ至レリ故ニ更ニ波河點ヲ「ニコ
ニコポリs
リ」附近ニ撰マサル可ラサルニ至レリ

此ヲ以テ六月二十五日「ブーカレスト」附近ノ諸隊ヲ集合シテ「ニコポリ」ノ方
Bonkarest Nicopolis
向ニ行進セシム架橋材料ハ鐵道ヲ以テ「ヂェルヂエヅナ」ニ送り更ニ陸行ヲ以
Cingevu
テ「ツルヌ」マダグレリ」ニ送レリ

此材料運搬ハ短少時間ヲ以テ爲シ得ヘキニ非サルヲ以テ「ニコポリ」ニ至ルハ
Furnu Magureli
キ諸隊ハ一時「アレキサンドリヤ」附近「ウエード」川ノ近傍ニ駐止セシム
Alexandria Voede Nicopolis
此運動間「ダニユーブ」河ノ溢水漸ク減セシヲ以テ再ヒ「シストヴァ」ニ於テ波
Danube Sistova
河スルニ決セリ

故ニ首力「シストヴァ」ニ於テ波河スル間「ガラツ」「ブライラ」ニ在ル諸隊ヲ
Sistova Galatz Braila
シテ其近傍ニ於テ波河セシメ以テ「ダブルナヤ」ニ對シテ掩護セシム
Dobruja
「ガラツ」附近ニ於テハ河幅最モ狭キ處七百五十米ナルモノアリ又西北ノ岸
Galatz

ハ東南ノモノヨリ高シ且ツ「ゼレト」川アリテ架橋準備ヲ爲スニ便ナリ
實際橋梁ハ「ブラタイラ」ヨリ「ゲチード」ニ架セリ然レモ六月中旬洪水アリ東岸
ハ溢レテ氾濫ヲ爲セリ故ニ六月二十一日架橋完リシモ之ヲ使用シテ渡過スル
能ハサリシ

土軍三千人「マツナン」ノ高地ニ在リ陣地ヲ占ム而シテ魯軍ノ架橋ヲ爲スモ格
隆兵ノ渡河スルヲモ之ヲ知レリ然レモ之ヲ妨ケルルヲ爲サスシテ「ブライ
ラ」ヨリ「マツナン」ニ至ル道路ヲ破壊スルヲ以テ足レリトセリ

魯軍第十四軍團長ハ速ニ渡河スヘキヲ命セラレタリ然レモ橋梁ヲ使用スル能
ハサルヲ以テ二三日間延期セラレンヲ請ヘリ魯軍總督ハ此延期ヲ許サ、サ
リシ

此ニ於テ軍團長ハ小船及ヒ筏ヲ以テ渡河スルニ決セリ
魯軍「ゲチード」ニ架橋センヲ以テ土軍以爲ラク魯軍ハ「ブラタイラ」ヨリ来ルモ
「Guteschid」

ノナリト故ニ「ガルビナ」ノ高地ハ堅固ニ之ヲ守備セザリシ
魯軍第十四軍團長「ナンメルマン」氏ハ土軍「ガルビナ」ノ守備薄キヲ知ル依
テ「カラツツ」ヨリ「ガルビナ」ニ渡ルニ決シ一時二十中隊ヲ送り得ヘキノ小船
ヲ集合セリ

六月二十二日午前三時此小船ヲ以テ先ツ首流ヲ渡リ次ニ力可及的氾濫地ヲ航
行シ午前六時「ガルビナ」ニ達スルヲ得タリ

土軍凡ソ一千人此高地ヲ占領シ居レリ而シテ戦闘中土軍漸ヤク加ハリ遂ニ歩
兵三千人騎兵三百騎砲一門ニ至レリ故ニ最初ニ上陸セシ十中隊ハ頗ル苦戦ス
午前第十一時ニ至リ魯軍第二ノ上陸團來リ砲二門ヲ添フ茲ニ於テ土軍退却シ
此高地ヲ占ム此戦ニ於テ魯軍ハ將校七名兵卒約百五十名ヲ失ヘリ

此戦闘間「ブラタイラ」ヨリ「マツナン」ノ方向ヲ偵察セシニ土軍ハ「ガルビナ」ヨ
リ退却スルヲ知レリ

依テ要二十三自砲兵三中隊ヲ先ツ渡河セシメ次テ諸隊ハ左ノ如ク河ヲ渡レリ

歩兵第十八師團「ガラツ」ヨリ「ガル」ニ

Galatz

Garbina

歩兵第十七師團「マツナ」ヨリ「マツナ」ニ

Braila

Mateln

格差騎兵中隊ハ「ゲナート」ノ橋梁ヲ過キ且ツ「マツナ」ニ至ル道路ヲ修理シ

Guetschit

Mateln

ツ、前進セリ

二十四日第十四軍團ハ「マツナ」附近ニ集合セリ

Mateln

第十一軍團ノ前進ヲ始ムルハ尚二三日ノ後トス

騎兵師團ハ三日間連續シテ先キニ騎兵中隊ノ通過セシ道路ヲ行進セリ其行路

中十四吉米ノ間ハ水中ヲ行進スルヲ要セリ

如此方法ヲ以テ營軍ハ土地ノ困難ニ比シテ思想外容易ニ渡河スルヲ得タリ其

損失戰鬪ノ外僅ニ馬十頭ヲ溺死セシメシニ

第十四軍團長ハ「マツナ」附近ニ駐止シ先ツ騎兵ヲ以テ「ツトル」ナヤ「及ヒ

Mateln

Yonleha

「ババターグ」ノ方向ヲ偵察セシム而シテ土軍ハ「ドブル」ナヤ「ヨリ」全ク退却セ

Babatagh

Dobrudja

ルヲ確知セリ又行幸ハ七月四日ニ於テ始メテ「ゲナート」ノ橋梁ヲ渡レリ

Guetschid

行幸已ニ前進セシムルヲ得ルニ至テ第十四軍團長ハ「ナエル」ナガ「及ヒ

Scherhuvoda

「メナシ」ニ向テ前進ス而シテ歩兵ヲ此處ニ配置シ騎兵ヲ尚南方四角要塞ニ

Medida

對シテ配置セリ

「ナエル」ナガ「及ヒ」メナシ」ノ守兵ハ甚微弱ナリシモ「シリ」ストリ」ハ土

Scherhuvoda

Medida

Silistria

軍堅固ニ之ヲ占領セリ故ニ營軍ハ切リニ前進ヲ續行スル能ハス且之レニ對シ

テ「ブーカ」レスト」ヨリ「ナル」ナガ「ニ至ル」連路路ノ掩護ヲ爲サル可ラサル

Boukarest

Tirnova

ナリ

千八百七十七年 魯土戰史筆記第四回 明治廿一年一月廿日

「ドブルナヤ」ハ已ニ知ル如ク瘠地タリ故ニ軍隊ハ大行李輜重ヲクシテ行進ス
可ヲサルナリ是ヲ以テ魯軍第十四軍團長「ホム」氏ハ七月四日即チ
行李ノ到着スル迄「マ、ナシ」附近ニ駐止シテ大戦ヲ避クルヲ要セリ此間唯騎
兵ヲ以テ搜索ヲ爲セリ

六月二十六日騎兵一旅團ハ「イザクナヤ」ヲ經テ「ツールナヤ」ノ方向ヲ搜索セ

リ「マ、ナシ」ヨリ「ツールナヤ」ニ至ル百吉米ナリ騎兵ハ此距離ヲ一日ニ經過

セリ然ルニ敵ニ出會スル「ナカリ」ヲ以テニ中隊ヲ「ツールナヤ」ニ駐シ他ハ

「マ、ナシ」ニ歸來ス

同月二十九日他ノ騎兵一旅團ハ「ババダグ」ニ向テ搜索ス三十日ニ同所ニ達

ス然ルニ土軍ハ已ニ南方ニ退却セリ

七月四日第十四軍團ハ三縱隊トナリ「チユルナツダ」及ヒ「コスタツア」ニ

向ヲ前進シ同月廿三日前進地カニ達セリ

「レナシ」^{Medicine}「モハ」土軍步兵ハ乃臣十大隊騎士六百騎。砲八門ヲ備フ將官「ナシ」
「レナシ」^{Medicine}「モハ」土軍步兵ハ乃臣十大隊騎士六百騎。砲八門ヲ備フ將官「ナシ」
退避ス

「イブルナヤ」地方ニ於テ「レナシ」^{Medicine}「モハ」土軍步兵ハ乃臣十大隊騎士六百騎。砲八門ヲ備フ將官「ナシ」
Dobrudja
「レナシ」^{Medicine}「モハ」土軍步兵ハ乃臣十大隊騎士六百騎。砲八門ヲ備フ將官「ナシ」
Silistrie
Warina
Pazardjik
Pazar-
Warina

第十四軍團ノ騎兵ヲ以テ之ヲ追撃セシメ又別働隊ヲ派遣シテ屢土軍ヲ動
搖セシム別働隊ハ土軍ノ無敵ノ小戦ヲ爲セリ

四角要塞ハ土軍砲臺ヨリ於テ守備セリ故ニ第十四軍團ハ敢テ前進スル能ハ
ス此ヲ以テ「ナシ」^{Medicine}「モハ」土軍步兵ハ乃臣十大隊騎士六百騎。砲八門ヲ備フ將官「ナシ」
Tscherna voda
Kostantza
爲セリ

第十四軍團ノ員數左ノ如シ

歩兵二十四大隊

騎兵二十八中隊

野砲九十六門

騎砲兵十二門

工兵二中隊

人員總計凡二万六千人

此兵員ハ全ク本軍背後ノ連絡ヲ掩護スルニ任セラレタルモノナリ故ニ眞ノ作
戦ニハ使用スル能ハス此兵員ハ魯國ノ歐羅巴部内ニ於テ集中セシ軍隊ノ九分
一二値セリ

又第七、第十軍團ヲ海岸ニ配置シ第七軍團ヨリハ僅ニ一支隊ヲ分遣シテ「ダニ
ユーズ」川下流沿岸ノ市街ヲ守備セシメタリ
Dan-
ube

魯軍ノ首カ
「レ」ストウ
「ア」附近ノ
渡河

是等ノ兵員ヲ總計スノハ歐羅巴部内ニ於テ出師準備ヲ爲セシ魯軍ノ三分一ハ
 全ク眞ノ作戰ニ與ル能ハサルモノナリ
 第十四軍團ハ給養上大ナル困難ヲ爲セリ然レモ土艦ノ「シリストーリ」近傍ニ適
 去セシ以來魯軍ハ汽船ヲ以テ給養品ヲ「ガラツツ」ヨリ「ナエルナウナダ」ニ送
 ルヲ得稍困難ヲ減スルヲ得タリ Galatz Schernawoda
 第十四軍團渡河ノ後第五日ニ於テ本軍ハ「シストウア」附近ニ渡河セリ
 是レヨリ先キ第十四軍團長ノ請願セシ渡河ノ延期ヲ魯軍總督ノ許可セサリシ
 ハ蓋シ所以アルナリ魯軍ハ宣戰布告ノ后既ニ二ヶ月ヲ經過セシモ未タ眞ノ戰
 闘ヲ交ユルニ至ラス土國若シ此時間ヲ利用セハ衆多ノ兵力ヲ以テ「モンテチ
 グロ」ヲ鑄壓スルヲ得ヘシ「モンテチグロ」ハ前年ヨリ「セルビ」ト同盟シテ土
 國ト戰フ所ノモノナリ魯國ハ「モンテチグロ」ノ負擔ヲ輕カラシメント欲ス之
 ヲ爲スニハ魯軍ハ速ニ攻勢ヲ取ラサル可ヲサルナリ Montenegro Serbia Montenegro

魯軍「シストウア」附近ニ於テ渡河スルニモ亦タ水雷ヲ以テ土艦ヲ窘廢セシメ
 ヲル可ラス故ニ六月二十日「ルーチニツク」ノ稍上流ニ水雷ヲ裝置シテ「ダニ
 ユーブ」川ヲ閉鎖シ又二十四日ニハ「ニコネリ」ノ上流ニ水雷壅塞ヲ設置シ以
 テ上流及ヒ下流ニアル土國艦隊ニ對シ渡河ヲ掩護セリ Dan-
 niob
 二十四日以來魯軍ハ「ダニユーブ」北岸ヨリ南岸ノ土國要塞ニ向テ烈シク砲撃
 ヲ施行ス此目的ノ爲メ魯軍ハ預シメ左ノ數所ニ砲臺ヲ築設セリ Danibe

- 「チユルチカイ」ニ對シテ「サルテニツア」
Purinkai
- 「ルーチニツク」ニ對シテ「チユルチエウチ」
Bentschuk Giungwo
- 「ルーチニツク」上流水雷壅塞ノ點
Kontschuk
- 「ニコネリ」ニ對シテ「ツルメマツレリ」
Nicopolis Punni-Magunoh
- 「ウイニツク」ニ對シテ「カラフマ」
Widin Kalafat

此砲撃ハ二十七日ニ至ルニテ連續セリ土軍モ亦之レニ應射ス

魯軍砲撃ノ目的ハ「ダニニューブ」河岸ニアル土軍ヲ動搖セシメ且ツ渡河縣ヲ長
時間敵ニ秘匿スルニアリ *Danube*

已ニ述フル如ク魯軍首カハ六月二十五日「ブーカレスト」ニ集合シ「ニコポリ」
附近「フラムンダ」ニ向テ行進セシモ途ニシテ材料ノ未タ容易ニ整頓セサルヲ

知リ「ウエド」河近傍ニ駐止セリ *Flamuda*

然ルニ此間「ダニニューブ」川稍減水セシヲ以テ再ヒ「シストウア」附近ニ於テ渡
河スルニ決ス而シテ二十六日ニハ軍隊ハ左ノ如ク位置セリ *Vodje* *Sistova*

第八軍團ノ第十四師團ハ「シストウア」ニ對シテ「ジムニツア」ニアリ且ツ先
ニ別働隊タリシ獵兵四大隊山砲二中隊(各中隊八門)ヲ増加ス *Danube* *Zimniza*

第八軍團ノ第九師團ハ第十四師團ノ西北ニ休止ス

第八軍團ノ騎兵師團ハ此時迄「ニコポリ」ノ上流ニ對シ「ダニニューブ」河ヲ監
視シアリシモ「スラナナ」「サルテック」河畔(ヨリ來リシ騎兵第九師團)ト交代 *Nicopolis* *Danube* *Slatina* *Oltza*

シテ直ニ軍團ニ復歸ス

別働隊ノ殘餘ハ「ジムニツア」ノ北方一日行程ノ地ニ駐止ス *Zimniza*

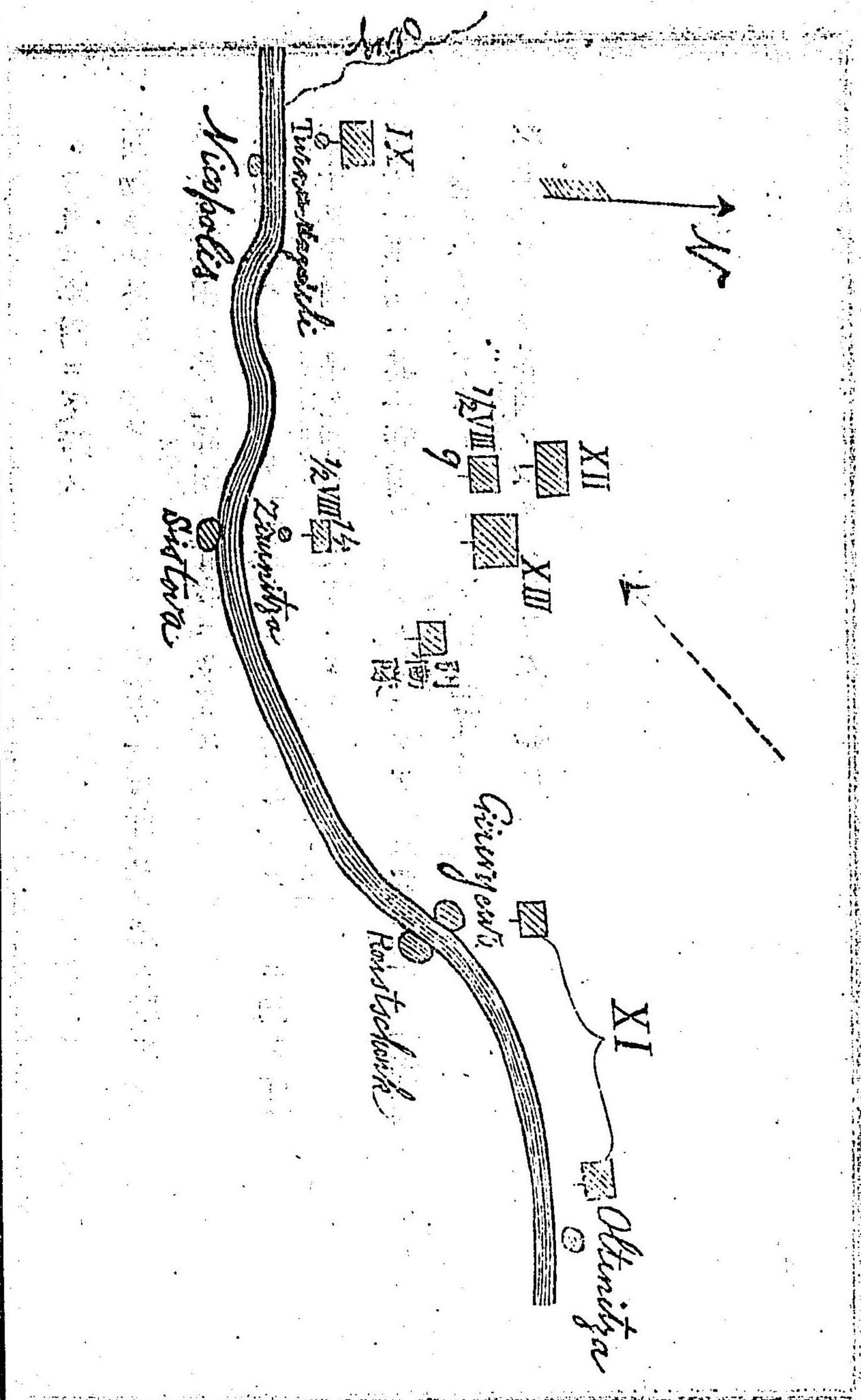
第十二軍團ハ第九師團ノ背後ニ位置ス

第九軍團ハ「ニコポリ」ニ對スル「ツルヌマグレリ」ニ向テ行進ス *Nicopolis* *Turnu-Magureli*

第十三軍團ハ第九師團ノ東方ニアリ

第十一軍團ハ其一師團ヲ「タルテニツア」ニ置キ他ノ一師團ヲ「ルーナニ
ク」ニ對シ「ゲムルデウツ」ニ配置ス *Oiteniza* *Routschouk*

以上ノモノヲ畧圖ヲ以テ示ス(左ノ如シ) *Gimgavo*



魯軍總督皇太子「ニコラス」ハ第九軍團ノ位置ニアリ且ツ魯軍ハ矢ヲ以テ示ス
 行進方向ヲ取レリ故ニ土軍ハ以爲ラク魯軍ハ「ニコポリ」ニ向テ渡河スルモノ
 ナリト魯軍自ラモ亦初メハ如此考定セリ
 Nicopolis

魯軍首カノ渡河スルニハ架橋セサル可ラス而シテ材料ハ鐵道ヲ以テ「スラナ
 ナ」ニ運送ミアリタリ故ニ材料ハ「タルテツ」河ヲ航行シテ運ハサル可ラス之
 レカ爲メニハ「ニコポリ」ノ要塞下ヲ通過スルヲ要ス
 Oltez

此材料ハ百五十ノ船及ヒ六十四ノ筏ヨリ成ル其一部ハ鐵道ヲ以テ輸送セシモ
 ノニシテ他ノ一部ハ地方ニテ製作セシモノナリ
 Nicopolis

此材料ハ「タルテツ」河口ニ集合シ二十七日ヨリ三日間ニ「シストウマ」ニ至
 ルヲ得タリ
 Oltez

己ニ迷ヘシカ如ク「シストウマ」ハ「ダニユーブ」川南岸絶壁ノ上ニアリ故ニ上
 陸點トスヘキモノハ唯「テキールテレ」河口ノ一熟アルノミ(第一号圖ヲ見
 Teirdere

ヨ「ロゼテ、ク」サストロウチ「島ハ魯軍ノ爲メニ大ニ利ヲ與ヘタリ此島ハ雜樹アルヲ以テ渡河ヲ應縁スルヲ得」ダニユーブ「北岸ハ單ニ草地ニシテ一モ應縁物ナシ」

「テキールデレー」河口ニハ土軍一モ防禦ノ工事ヲ施サ、リシ然レモ「シストウマ」附近ニハ重砲ヲ備フル所ノ土國砲臺アリ

又「シストウマ」要塞ニハ左ノ兵員ヲ有セリ

步兵二千五百人

騎士二百騎

砲八門

「シストウマ」ノ下流一日行程弱ナル「ヴァルゲン」ニ土軍ノ一支隊アリ其兵員左ノ如シ

步兵四千五百人

騎士二百騎

砲八門

此二點間ニハ土軍唯監視兵ノミヲ配置セリ「テキールデレー」河口ニモ亦タ衛兵アリタリ而シテ最前ノ哨兵ハ水車場ノ處ニ位置セリ

實ニ魯軍ノ「シストウマ」ニ渡河セントスルハ總督ト第十四師團長ノ他ニ未タ知ルモノゾラサリシ

第十四師團長「ドラグイミロフ」氏ハ架橋ニ任セララル其使用シ得ヘキ兵員左ノ如シ

步兵十八大隊

騎兵三百六十騎

山砲十六門及野砲二十四門

工兵四半大隊

第一号圖參照

右ノ外山砲六中隊ヲ使用スルヲ得此砲兵ハ北岸ヨリ渡河ヲ援助スヘキモノナリ

六月二十六日始メテ船ヲ水中ニ浮ヘ次テ之ヲ「ヒゼテック」島ノ南ニ集合セリ北岸ヨリ此島ニハ夜間一橋梁ヲ架ス其長サ百五十米諸兵ノ通過スルヲ得ルモノナリ

又此島ニハ五個ノ砲臺ヲ築設セリ

後ニ至リ砲兵六中隊ハ「ダニユーブ」ノ上流北岸ニ陣地ヲ占ム

第一ノ上陸團ハ夜二時半「ヒゼテック」島ヲ發ス其兵員左ノ如シ

步兵十二中隊
 格薩騎兵六十騎
 山砲八門
 總計約三千人

然ルニ此上陸團ハ水流ノ爲メ三團ニ分離セラレ而シテ其第一ニ對岸ニ達セシモノハ午前三時十五分ナリ

殊ニ困難セシモノハ「テキールデレー」河口ヨリ下流ニ於テ對岸ニ達セシモノナリ即チ上陸登岸共ニ頗ル困難ヲ究ム一ニ橋門船ハ對岸ニ達シ得サリシモノアリ又山砲二門ハ人馬共ニ河底ニ沈没セリ且ツ土軍ノ水車場ニアリシ哨兵ハ第一ノ上陸兵ヲ認メ河口ヲ占領シテ發火ス

尚ホ一層困難ニ際セシモノハ第二ノ上陸團ナリ即チ土軍ハ南岸ヨリ射撃ヲ始ム殊ニ重砲二門ヲ以テ頗ル妨害ヲ爲ス

魯軍ノ山砲六中隊ハ之レニ對シテ放射セシモ容易ニ重砲二門ヲシテ沈黙セシムル能ハス之レニ因テ見レハ四十八門ノ山砲能ク重砲二門ヲ撲滅スルヲ得サリシ

魯軍ハ彈丸亂飛ノ下ニ在テ尚ホ渡河ヲ連續シ四時間ノ后步兵一旅團ヲ渡河セ

シムルヲ得タリ加此漸次兵力増加セシヲ以テ終ニ土軍ヲ擊退シ重砲射撃ヲ蒙
ラサルニ至ル又汽船ハ夜間ニ「ニコポリ」要塞下ヲ過キ此時「ツルヌマグリ」
ニ達セリ之レニ因テ魯軍ノ渡河ハ大ニ速ニスルヲ得タリ故ニ午前十時三十分
ニハ第十四師團ノ他ノ旅團及ヒ獵兵四大隊渡河ヲ終レリ

此間土軍ノ支隊ハ「ウアルヂン」ヨリ「シストウア」ニ來テ展開セリ

午前九時ニ至ル迄魯軍ノ情況ハ頗ル困難ナリシ動モスレハ「ダニユーブ」川中
ニ擊墜セラレントセリ然レモ辛フシテ漸次ニ南方及ヒ西南ニ向テ地ヲ略シ午

後二時ニ「シストウア」南ノ高地ヲ占メ三時ニハ「シストウア」ヲ略取スルヲ得
タリ

土軍ハ南方「ナルノウア」ノ方向及ヒ東方「ルーチユク」ノ方向ニ退走セリ

後方ニ位置セシ魯軍諸隊モ亦續テ前進シ渡河ハ間斷ナク之ヲ施行セリ故ニ午
後九時ニハ二万二千人ハ己ニ「ダニユーブ」南岸ニ移レリ

土軍ハ其近傍ニ預備兵ヲ有セサリシヲ以テ魯軍ノ此運動ヲ妨クル能ハス故ニ
魯軍ハ終ニ渡河ヲ強行スルヲ得タリ

此渡河ノ爲メ魯軍ハ將校二十七名兵卒七十五名ヲ喪ヘリ

魯軍ノ渡河ハ激流ノ爲メ頗ル不規則ノモノナリシ即チ軍隊ハ其建制ヲ保ツ能
ハスシテ種々ニ混乱セリ

土軍ハ四千乃至五千ノ歩兵及ヒ砲兵二中隊ヲ以テ南岸ニ好陳地ヲ占ム之レニ
對シテ魯軍ハ此渡河ヲ強行セリ其勇氣實ニ感スヘシ殊ニ地形ノ不利ナルヲ意
トセスシテ之ヲ爲セシハ驚クヘキナリ最モ魯兵ノ運動ヲ困難ナラシメシモノ
ハ此地方葡萄園ノ多キニアリシ

架橋材料ハ六月二十七日ヨリ二十八日ニ亘ルノ夜及ヒ二十九日ニ於テ危害ナ
ク運フサ得タリ然レモ「ダニユーブ」川漲溢セシヲ以テ大ニ架橋ヲ困難ナラシ
メタリ

實際架橋ハ二十八日ニ着手セシモ其完成セシハ七月二日ニアリ

此架橋完成セサル以前ハ騎兵ヲ南岸ニ送ル能ハス從テ南方ノ地ヲ搜索スルヲ得ス此間徒ニ南岸ニ駐止セシ魯軍ノ情况想フヘシ是レ四角要塞附近ニアル土軍ハ何時逆撃シ來ルヤ知ル可ラサルヲ以テナリ此地ヨリ「ルーチエツク」ニ至ル凡ソ十六里(日本里程)二日乃至三日行程ナリ故ニ土軍ハ強勢ナル兵力ヲ以テ南岸ニアル魯軍ヲ擊破スルヲ得シナリ抑モ土軍ノ此策ヲ取ラサリシハ實ニ魯軍ノ僥倖ト云フヘキノミ此ヲ以テ魯軍ハ左ノ如ク渡河セリ

七月三日第八第十三軍團及ヒ別働隊ハ「ダニユーブ」南岸ニ集合ス

同 八日第十二軍團渡河終ル

同九日十日第九軍團渡河ス第九軍團ハ「ニコポリ」ニ對シテ位置セシモ

ノナリ此時「ルーマニ」國ノ軍團來テ之ニ交代ス

此狀況ニ因テ見レハ「ダニユーブ」南岸ニ於ケル真ノ作戰ハ七月四日ヨリ之ヲ

始ムルヲ得依テ魯軍ハ此日前衛團ヲ編成ス將官「ゴールゴ」氏其指揮官タリ

此前衛ニハ從來ノ別働隊ヲ用ヒ之レニ加附スルニ「ビュルガリ」步兵六大隊

及ヒ獵兵四大隊並ニ第九軍團ノ騎兵第二聯隊ヲ以テセリ故ニ其兵力ハ左ノ

如シ

歩兵十大隊

騎兵三十中隊半

騎砲兵三中隊(一中隊)

山砲兵二中隊(一中隊) 總計砲三十四門

前衛ノ任務ハ「ナルノバ」及ヒ「セルビ」ヲ經テ「バルカン」山ノ峠ヲ占領シ且ツ

騎兵ヲ以テ遠ク前方ヲ搜索スルニアリ

第八軍團ハ前衛ニ續行ス

第十二及ヒ第十三軍團ヲ以テ一軍ヲ編成ス皇太子「ニコラス」自ラ之ニ將タリ

此軍ハ「ジヤントラ」河ヲ經テ前進シ「ルーナユック」ヲ孤立セシメントス之レ
 カ爲メ「ジュームラ」ニ對シテ監視ヲ爲ス
 第九軍團ハ「ニコポリ」ニ向テ前進ス此軍團ニハ後ニ至リ前衛ヨリ「ユザツク」
 騎兵旅團ヲ屬セシム

以上述フルモノ、外第四軍團ハ六月中旬國境ヲ踰ヘ今ヤ「シストウア」ニ向テ
 行進中ナリ此軍團ハ該地ニ着セハ皇太子ノ軍ニ編入セラル、モノナリ
 第十一軍團ハ駐止シ居レリ

將官「グールユ」ハ直ニ「ナルノヴァ」ニ向テ前進シ七月五日「ビエラ」高地ニ達
 ス此地ニハ「ジヤントラ」河ニ架スル二三ノ石橋アリ故ニ此占領ハ軍事上最モ
 緊要ノモノナリ「ジヤントラ」河ノ性質ハ後ニ精ク述フル所アルヘシ

六日第十二軍團ノ歩兵「ビエラ」ニ達ス將官「グールユ」ノ率ユル前衛ハ此日ジ
 ヤントラ「河ノ支流ナル「ルーナタ」川ニ達ス「ルーナタ」河ハ「セルウイ」ヲ
 經テ

第三号圖參照

經過シ「ナルノヴァ」北方ニ於テ「ジヤントラ」河ニ合スルモノナリ
 騎兵ハ左ノ如ク配置セリ

一旅團ハ右翼ニ於テ「スホウシダル」ニアリ
 之レニ並列シテ他ノ旅團ハ「ムラデゴ」ニアリ
 又他ノ一旅團ハ「ニクラーブ」ニアリ
 翌七日皇太子ハ第十二軍團ヲシテ「ビエラ」ヨリ「ルーナユック」ニ向テ前進セ
 シム又第十三軍團ヲシテ「ラスグラド」及ヒ「オスマンバザール」ニ向テ前進
 セシム

此日將官「グールユ」ハ「ナルノヴァ」ニ達セリ此處ヨリ「バルカン」山ヲ搜索ス
 十二日第八軍團モ亦「ナルノヴァ」ニ達ス即チ其本隊ヲ以テ同所ヲ占領シ前兵
 ヲ「カブロウア」及ヒ「エレナ」ニ派遣ス又第八軍團ノ騎兵師團ハ「カザン」地方
 ニ在テ左翼ヲ掩護スルニ任ス之レカ爲メ「ジヤントラ」河ヲ渡リ進テ「チエル

コヅナ」ニ向テ行進ス此途次七月十一日土軍ノ輜重ヲ襲ヒ護衛兵千五百人ヲ
撃退シ車輪三百ヲ獲タリ

此騎兵師團ハ皇太子ノ軍ノ左側掩護ニ任セラレシヲ以テ第八軍團長ノ令下ヲ
離レ皇太子ノ直轄トナル此景況ヲ以テ七月十三日ニ至ル迄ヲ經過セリ

魯軍ノ常ニ幸福ニ經過シ來リシモノハ全ク土耳其軍ノ配置法宜シキヲ得サル
ニ因ル可シトハ雖モ四角要塞内現ニ十萬ノ兵力アリ實ニ此兵力ハ魯軍ノ渡河

魯土兩軍運
動ノ略評

兵ヲ撃退スルニ足リシナラン

例ヘ土軍ハ攻勢ヲ取ラストスルモ「シヤントラ」河ニ出テ敵ヲ拒止セサルヘカ
ラス此河ハ「ガブロウア」及ビ「ナルノウア」ヲ經過シ其北方ニ於テ「ルーナタ」

河ト合シ北流シテ「ビエラ」ヲ過キ「ダニユーブ」川ニ朝スルモノナリ
此河ハ著シク東方ニ彎曲セル地區ヲ成形シ且ツ「ビエラ」上流ニ在テハ其深

サ橋梁ニ據ラサレハ通過シ能ハサルノミナラス河岸ニ至ルノ道路亦稀ナリ殊

ニ右岸ハ左岸ニ比スレハ十分ナル制高ヲ有ス故ニ堅固ナル良好陣地タリ

尚ホ細説セハ「ルーナユツク」ヨリ「ビエラ」ヲ經テ「ナルノウア」ニ通スル道路
ハ良好ナリ「シヤントラ」河ニ架スル「ビエラ」橋ハ石造ニシテ頗ル堅硬タリ然

レモ西ヨリ東ニ通スル道路此他ニアルモノハ悉ク不良ニシテ「ビエラ」下流ニ
在テハ「シヤントラ」河ニ堅固ノ橋梁ナク河岸ニ近接スル亦難シ且ツ河ノ右岸

ハ概テ峻崖一ニノ點ニ於テハ全ク垂直ノ斷崖ヲ成スアリ

地形如斯ヲ以テ土軍ハ例ヘ「シストウア」ニ向テ攻撃ヲ試ミサルモ「シヤント
ラ」河右岸ニ於テ防禦陣地ヲ占メ魯軍ヲ拒支セサル可ラサルナリ

然ルニ土軍ハ恰モ空手傍觀スル如ク徒ニ十萬ノ兵ヲ擁シテ四角要塞内ニ駐止
シ志氣モ振フコトナク前面一帯ノ地ヲ魯軍ノ手裡ニ属セシム誰レカ如斯働作ニ

驚カサルモノアラシヤ實ニ疑訝ニ堪エサルナリ

抑モ戰ハ敵ノ兵ヲ搜索シテ然ル后攻撃セサル可ラス故ニ魯軍ハ「多腦」南岸ニ

渡ルヤ常ニ土軍ヲ搜索シテ先ツ之ヲ撃タサル可ヲサルナリ
魯軍ハ「ビュルカリ」地方ノ土軍ヲ撃攘シ然ル后始メテ「コンスタンチノツプ
ル」ニ侵入スルヲ得ヘキナリ Constantinople

然ルニ魯軍ハ土國兵力ノ在ル所ヲ搜索セスシテ先ツ自己ノ兵力ヲ諸方ニ分散
セリ即チ左ノ如シ

- 一軍團ハ「ナエレナウチダ」及ヒ「コスタンツプ」ニ
Pecheravoda Kostantza
 - 一軍團ハ「ルーチユク」ニ對シテ「ダニユープ」左岸ニ
Rutschouk Danube
 - 一軍團ハ「シストウア」ヨリ「ニコポリ」ニ向テ
Sistova Niopolis
 - 一軍團ハ「ビエラ」ヨリ「ルーチユク」ニ向テ
Biela Rutschouk
 - 一軍團ハ「ビエラ」ヨリ「ラスグランド」及ヒ「ナスマンバザール」ニ向テ
Biela Rasgrad Osmanli
 - 一軍團ハ「ナルノウア」附近及ヒ其南方ニ殊ニ此前衛ハ「バルカン」山ヲ踰
Tirnova Balkan
- エテ南方ニ行進セントス

又二軍團ハ北海ニアリ而シテ全軍ノ爲メ本軍トナルヘキ首幹ナシ一軍團尚使
用シ得ヘキモノアリト雖モ未タ來着セサルナリ(第四軍團ノヲ云フ)
如斯兵力ヲ分割スルノ誤リハ畢竟土軍ノ無爲ナルヨリ致セシトハ雖モ到底不
幸ノ果實ヲ結フニ至ランノミ

千八百七十七年 魯土戰史筆記第五回

明治二十一年一月廿七日

以上述フル所ニ因テ見レハ土軍ハ全ク魯軍ノ先制ヲ受ク是レ一ハ土軍總督タル老將軍ノ性質ニ基因スト雖モ土軍ノ編制不良ニシテ運動ヲ自由ニ爲ス能ハサルモノ亦タ大ニ其源因ヲ爲セリ

抑モ防禦ノ爲メ地形ノ障害ヲ利用シ得ヘキ土國ノ如キハ蓋シ比類ナシ實ニ土境「ダニユーブ」川ノ如キハ一大障害ニシテ世界ニ稀ナルモノナリ且ツ其南方

ニハ「バルカン」^{Danube} 大山脈アリ加フルニ「ダニユーブ」^{Danube} 河岸及ヒ其南方ニハ數多ノ

要塞アリ又海ハ自ラ之ヲ制シ居レリ

之レニ因テ見レハ土軍ハ魯軍ニ比スレハ有利ノ地位ニ居レリ然ルニ前述スル所ノ經過ニ因レハ土軍ハ一モ此地形ヲ利用セシテ見ス魯軍ノ多ク困難セシモノハ土軍ノ抗抵ニ因ルニ非スシテ地形ノ障碍アリシカ爲メノミ

或曰ク土軍總督ハ魯軍ヲシテ過度ノ企望ヲ起サシムルカ爲メ自ラ運動ヲ爲サ

サリシナリト總督ノ計畫果シテ此ノ如クナリシナラハ好ク魯軍ノ性質ヲ推想
 セシモノト云フヲ得ヘシ實ニ魯軍ハ其計畫ヲ妨ケナク實施シ得シヲ以テ過大
 ナル企望ヲ一時ニ強行セントスルニ至レリ
 抑モ二國ノ戰爭ニ在テハ一國先ツ他國ノ軍隊ヲ挫折セサル可ラス他國ノ軍隊
 已ニ戰鬥力ヲ失ヘハ萬事皆ナ意ノ如クナラサルハナシ
 故ニ魯軍「Danube」ヲ渡ルヤ先ツ土軍ヲ挫折スルコトヲ努メサル可ラス之レ
 カ爲メニハ土軍首力Al所ヲ索メ之レニ向テ首ナル攻撃ヲ爲スヲ要ス魯軍
 ハ之レカ爲メニ使用スルニ足ルノ騎兵ヲ有セリ而シテ之ヲ爲サス且ツ其用法
 ハ最モ拙ナリシ即チ此過失ハ忽チ不幸ノ結果トナレリ
 此時ニ至ルマテ土軍ノ情況ニ就テ魯軍ノ知レルモノハ只間諜ニ因テ土軍ノ大
 部ハ四角要塞附近ニ又一部ハ「Widin」附近ニアリト云フニ過キス故ニ魯軍
 ハ「Widin」及ヒ「Elena」ノ兩方向ニ派遣セリ

向ニハ成ル可ク衆多ノ兵力ヲ集合シテ前進スルヲ要ス
 然ルニ魯軍ハ之ヲ爲サスシテ却テ枝葉ノ事ニ力ヲ勞セリ
 魯軍以爲ラク此戰爭ノ基因ハ「Bulgaria」ヲ土國政府ヨリ除カントスルニア
 リ故ニ先ツ「Bulgaria」ノ首府「Tinova」ヲ占領スルヲ要ス之レニ次クニ
 「Kalkan」山ヲ踰ヘテ南進スヘキナリト
 此目的ヲ實行センカ爲メ魯軍ハ一軍ヲ編成シ皇太子親ヲ之ヲ指揮シ四角要塞
 ニ對向シ而シテ南進スル諸隊ノ運動ヲ掩護ス
 已ニ述フル如ク魯軍ノ前衛團ハ七月七日「Tinova」ニ達セリ此地ハ「Osni-
man」
bazur
 フテ之ヲ略取ス依テ此地ヨリ南方「Balkan」山ヲ搜索ス
 七月十二日第八軍團モ亦タ「Tinova」ニ達ス依テ前衛團ト合シテ前兵ヲ
 「Gahrova」及ヒ「Elena」ノ兩方向ニ派遣セリ

七月十四日
至第九
軍團ノ働
作

此間「ダニユーブ」左岸ニ駐止セシ第十一軍團ヲ招致セリ是レ皇太子ノ軍ノ右翼ヲ延伸シ且ツ殊ニ「オスマンバザール」ノ方向ヲ監視セシメンカ爲メナリ而シテ左岸ニハ唯第十一師團ノ一部分及ヒ騎兵ニ聯隊ヲ殘留ス

第十一軍團ノ渡河ハ東方ニ在テハ「ルトチエック」ニ對スル第十二軍團ノ一部

及ヒ西方ニ在テハ第九軍團ノ爲メニ掩護セラル而シテ其渡河ハ第十二軍團

「ローム」河（「ルーチエック」附近ニ於テ「ダニユーブ」川ニ朝ス）ニ達セシ即チ七月中旬ニ於テ終ルヲ得タリ

六月中旬魯國々境ヲ起ヘシ第四軍團ハ七月二十日「シストウア」ニ來着スルノ

預定ナリ

魯國第九軍團及ヒ「コザク」騎兵旅團ハ西方ニ向テ働作スヘキモノナリ此兵

カハ十分ナルモノナルヤ否ト人問ハ、予ハ否ヲ答ヘンノミ何トナレハ

「ウイヂン」附近ニハ五萬ノ土軍在リ其後尚ホ増加セシナラン又「ニコポリ」要

七月十二日
至第九
軍團及ヒ前
衛團ノ働
作

塞ニハ土軍八千人アリ以テ絶ヘス「シストウア」ノ橋梁ヲ脇威ス故ニ魯軍此橋

梁ヲ安全ニ使用セント欲セハ先ツ此要塞ヲ略取スルヲ要ス又此要塞ヲ得レハ

此附近ニ第二ノ橋梁ヲ作り且ツ要塞ヲ以テ橋頭堡ト爲スヲ得加之此場合ニ至

レハ「ストラナ」ニ至ル迄鐵道ヲ使用シ然ル后チ「ナルテツ」河ヲ航運シ得ル

ノ便アリ（「ストラナ」ニ至ル迄鐵道ヲ使用シ然ル后チ「ナルテツ」河ヲ航運シ得ルノ如キハ當時敷設シアラサリシナリ）此ヲ以テ魯軍ハ速ニ「ニコポリ」ヲ占領

セサル可ラス之レカ爲メニハ其兵力ハ決シテ十分ナリト云フヲ得サレハナリ

實ニ魯軍中西方ニ向テ警戒スヘキ軍團ハ又「ニコポリ」要塞ヲ略取スヘキノ任

務ヲ受ク即チ該軍團長ハ「ニコポリ」要塞ノ多ク崩壞シアルヲ知ルヲ以テ先ツ

強襲ヲ行ハンカ爲メ前進シテ七月十四日要塞前ニ達セリ

右ノ運動ヲ爲ス間ニ於テ魯軍總督皇太子ハ其本營ヲ「ナルノウア」ニ移轉セリ

又第八軍團ト前衛團ハ「シプカ」峠畧取ノ運動ヲ始ム

「シブカ」峠ハ「ナルノウア」ヨリ「ケザンリツク」ニ通スル道路上ニアリ「バル
Schipka Titova Kozanik Bal
カン」山脉ヲ横通スル最大道路ナリ四季共ニ車行スルヲ得土軍ハ標高1315ノ
Tan
點(第三号圖)近傍ニ防禦工事ヲ施シ以テ堅ク守備セリ

「シブカ」ノ正面ニハ第八軍團ノ混成旅團「ガブロバ」ヲ經テ前進ス又同時ニ背
Schipka Titova Titova
面ヨリ之ヲ攻撃センカ爲メ將官「グールニコ」ハ前衛團ヲ率ヒ支道ヨリ前進ス此
Titova Titova
道路ハ一ノ間道ニシテ住民ノ外知ルモノナシ

「シブカ」攻撃ハ十七日ヲ期シテ前後ヨリ同時ニ發センヲ約セリ

前衛團ノ出發前二日即チ十日ニ於テ乘馬工兵團ヲ派遣セリ此工兵團ハ「コザ
Schipka Titova Titova
ク」驛隊ヨリ採ル所ノモノニ先キニ諸軍隊「ダニユーブ」川ヲ渡ルニ際シ

「チユルザエウチ」附近ニ在テ道路修築ノ演習ヲ爲サシメタルモノナリ

前衛團ノ一部ハ前兵トナリテ「エレナ」附近ニアリ將官「グールニコ」ハ輜重
Titova Titova Titova
ノ大部ヲ「ナルノウア」ニ留メ自ラ「エレナ」ヲ經テ前進シ十二日「ドエロウア

Titova Titova Titova
ノ大部ヲ「ナルノウア」ニ留メ自ラ「エレナ」ヲ經テ前進シ十二日「ドエロウア

Titova Titova Titova
ノ大部ヲ「ナルノウア」ニ留メ自ラ「エレナ」ヲ經テ前進シ十二日「ドエロウア

モスト」ニ達ス此處ニ於テ道路ノ教導ヲ募リ十三日「バロスナ」ニ達セリ此地

ヨリ前方ニハ己ニ車ヲ通スルヲ得ス依テ彈藥ハ車輛ヨリ卸下シ一部ハ荷擔シ

一部ハ地上ヲ挽行スルヲ要セリ

非常ナル勞力ヲ以テ前衛團ノ先頭ハ十五日ニ「ハインキユーイ」ニ達スルヲ得

タリ

土軍ハ營軍ノ此道路ヨリ侵來スルヲ考慮セス故ニ其守備モ亦タ甚タ薄弱ナ

リン

營軍ハ山頂ニ至ルニ及ンテ初メテ土軍ノ支隊約三百人ニ出會セリ然ルニ暫時

ノ后此支隊ハ「スリヅ」ノ方向ニ退却セリ

營軍「バルカン」山ヲ通過スル爲メニハ死者一人傷者五人ノ損失アリシノミ

營軍ハ先ツ歩兵砲兵ヲ山頂ニ集合シ騎兵ヲ以テ東南及ヒ西方ヲ搜索ス即チ東

ニ在テハ「トウアルヂャ」ノ方向ニ至ル此近傍ニ於テ土軍ノ一支隊ニ出會シ

此市街ニ退ク又南ニ在テハ「エニザグラ」迄搜索ス此處ニ於テ「ヤンボリ」ニ
通スル鉄道ヲ破壊セントセシモ土軍ノ妨クル所トナリ果タサス然レモ「エス
キザグラ」ニ通スル電線ヲ切斷スルヲ得タリ西ニ在テハ「シヤイキユー」ニ
至ルマテ搜索ス

將官「グール」ハ步兵二大隊山砲十四門ヲ「ハインキユウイ」ニ留メ前衛團ノ
殘余ヲ以テ西方「トウンチャ」河ノ低地ヲ經テ前進ス十六日夕「グール」ハ
「マグリ」ニ達ス土軍ハ「ケザンリツク」ニ退ク此日魯軍ハ士卒六拾人ヲ失フ
十七日ハ續テ「ケザンリツク」ニ進ム然ルニ此地ヲ去ルハ吉羅米ニシテ又土軍
ト戰フ土軍ノ步兵二大隊砲三門ノ一支隊ハ敗レテ北方「シプカ」峠ノ方向ニ退
ク魯軍ハ生擒三百人砲三門ヲ獲而シテ「ケザンリツク」ヲ占領ス
將官「グール」ハ尚ホ續テ「シプカ」峠ニ向ヒ前進ス午后ニ至リ騎兵ハ同處南
方ニアル「シプカ」村ヲ占ム夜ニ至テ步兵モ亦タ此地ニ達スルヲ得タリ

將官「グール」ハ首トシテ騎兵ヨリ成ル前衛團ヲ率ヒ凡ソ困難ノ極度ナル山
間ノ小徑ヲ六日間二百二十五吉羅米行進セリ實ニ其効程ハ非常ナルモノト云
ハサル可ラス

是ヨリ先キ將官「グール」ノ「ナルノウマ」ヲ發スルヤ十七日ニ於テ「シプカ」
峠ノ土軍ヲ前後ヨリ挾撃スルヲ約セリ然ルニ「グール」氏ハ十八日ニ非サレ
ハ此攻撃ヲ爲ス能ハス

之レニ反シ「シプカ」峠ノ北方即チ土軍ノ正面ニ對シテハ十七日ニ於テ彼混成
旅團ハ步兵三大隊騎兵四中隊半砲十門ヲ以テ攻撃ヲ爲セリ然レモ將官「グー
ル」ノ援助ヲ得サリシカ爲メ功ヲ奏スル能ハス二百三十名ノ士卒ヲ失フタ
ル

ル后夜間「ガブロヴァ」ニ退却スルニ至レリ
十八日將官「グール」ハ步兵二大隊半ヲ以テ南方ヨリ土軍ノ背後ヲ衝キシモ
其効ナク百八十名ヲ失フテ而シテ退却セリ茲ニ於テ更ニ期ヲ約シテ前後ヨリ

挑撃セント欲ス依テ土民ヲ徴シテ使者トナシ山間ヲ經テ「ガブロヴァ」ニ赴カ
シム而シテ此使者ノ歸來スル迄左ノ配置ヲ取レリ

歩兵五大隊

騎兵十二中隊

騎砲兵三中隊

歩兵五大隊半

騎兵十四中隊

山砲十四門

「シプカ」村ヲ占領ス

Schipka

「ケザンリク」ニ陣地ヲ占ム

Kezanlik

是ヨリ先キ「ハインキユーイ」ニ留メシ軍隊ニハ「ケザンリク」ニ來ルヘキ
ノ命ヲ發セリ

Hainkeui

Kezanlik

此間ニ於テ「シプカ」峠ノ土軍ハ使ヲ以テ休戰ヲ乞フ而シテ十九日ニ山背ニ沿
テ西方ニ去ル茲ニ於テ魯軍「シプカ」峠ヲ得依テ第八軍團ノ一支隊ヲシテ此峠

Schipka

Schipka

ヲ占領セシメ將官「グールム」ハ南方「アンドリノツプル」ニ對シテ正面ス

Kourko

Andriopole

第九軍團ノ歩兵一聯隊ハ先キニ「シストウア」ニ殘留セシ歩兵一聯隊及ヒ騎兵

Sistova

二中隊ト共ニ「ブールガレニ」ニ至ル「ブールガレニ」ハ「アレブナ」ヨリ「ビエ

Boulgareni

Boulgareni

Plevna

Bela

ラ」ニ通スル道路上ニシテ「ニコポリ」ノ東南ニアリ此部隊ノ歩兵一聯隊ハ更

Nicopolis

ニ「アレブナ」ニ向テ前進シ「ボラヤム」高地ニ陣地ヲ占ム

Paradin

第九軍團ノ本隊ハ七月十四日「ニコポリ」前方ニ達セリ

Nicopolis

「ニコポリ」ノ西方ニハ「ダニューブ」川ニ朝スル「オスマ」河アリ多ク徒渉シ得

Nicopolis

Osmia

又其西方ニ「ウイド」河アリ同シシ「ダニューブ」河ニ朝ス

Nicopolis

Danube

Osmia

「ニコポリ」要塞ハ己ニ大ニ崩壞シ居レリ然レモ土軍ハ其周圍ニ多ク野堡ヲ築

Nicopolis

設シ以テ之ヲ堅固ニセリ就中「ニコポリ」東南ニアル角面堡ハ最も大ナリ又此

Nicopolis

野堡ニ連系シテ數多ノ砲臺ヲ築ケリ

Nicopolis

土軍ノ野營地ハ要塞ト野堡系ノ間ニアリ且ツ一支隊ハ「ウイド」及ヒ「オスマ」

Vid

Osmia

七月十四日
ヨリ十九日
ニ至ル第九
軍團ノ「ニコ
ポリ」攻

第四号圖

河ノ中間「サムリコイ」ノ南方約二十三吉羅米ナル「プリスラン」附近ニアリ
 第九軍團長ハ「ニコポリ」要塞ヲ強襲センカ爲メニ縦隊ヲ編成シテ前進ス
 第一縦隊ハ「ナスマ」河ノ右岸ニ於テ要塞ノ東方及ヒ南方ヨリ攻撃セントス
 第二縦隊ハ「ナスマ」河ノ左岸ヲ行進シ先ツ其近傍ニアル土軍ノ支隊ヲ退ケ然
 ル後々西方ヨリ要塞ヲ攻撃セントス又此縦隊ハ「プレブナ」及ヒ「ラホウア」ニ
 對シテ警戒スルノ任ヲ有ス故ニ騎兵ヲ多ク附属セシム
 第一縦隊ノ兵員左ノ如シ
 步兵十二大隊
 騎兵七中隊
 砲兵七中隊
 之ヲ左ノ如ク區分ス
 右翼隊

騎兵三中隊「ダニユーブ」川ニ沿フテ前進ス
 Danube

左翼隊

步兵三大隊(南方ヨリ要塞ニ向フ)

中央隊

步兵三大隊

砲兵五中隊

預備隊

步兵三大隊

騎兵二中隊

砲兵二中隊

連絡支隊

兵兵三大隊

(此支隊ハ「ナスマ」河ニ沿フテ前進シ
 第一縦隊ノ連絡ヲ保持スルヲ任トス)

騎兵二中队

第二縱隊ノ兵員左ノ如シ

歩兵六大隊

騎兵十中队

山砲兵三中队(各中队四門)

攻撃ハ最初先ツ西方ヨリ行ハントス故ニ第一縱隊ノ砲撃ヲ爲ス間ニ第二縱隊ハ西南方ヨリ要塞ニ向テ前進ス

此運動間第二縱隊ハ「ウイッド」及ヒ「サスマ」河ノ中間ニ於テ土軍ノ支隊ニ出會セリ然ルニ土軍ノ此支隊ハ退路ヲ斷タル、ノ恐アリシヲ以テ退却セリ依テ魯軍第二縱隊ハ一支隊ヲ以テ之ヲ追躡シ他ハ直ニ要塞ニ向テ前進ス

土軍ハ「サスマ」ノ東方「ニコボリ」ノ西方ニ於テ防禦ス此地ニハ稍激烈ナル戰鬥ヲ爲セリ之レカ爲メ連絡支隊モ亦此戦ニ參與スルヲ要セリ魯軍遂ニ一堡壘

ヲ略取ス

此間第一縱隊モ亦タ右翼ヨリ攻撃ヲ始メ最初ハ先ツ最大堡壘ニ要塞ノ東南ニアルモノニ向テ侵畧ヲ試ミシモ濠前ニ於テ拒止セラレ退却ス

此日早朝ヨリ布陣セシ砲兵五中队尚ホ前進シ且ツ預備隊ヲ招致スタニ至テ連絡支隊モ亦タ西方ヨリ來リ援ク然レモ三回ノ突撃ハ悉ク撃退セラル終ニ魯軍ノ一二中队ハ辛フシテ咽喉部ニ達セシヲ以テ堡壘終ニ陥ル此戰鬥ハ夜ニ及ヘリ而シテ魯軍ハ千三百人ヲ失フ

此堡壘陥ルノ後ハ其附近ニアル砲臺モ亦悉ク魯軍ノ手ニ落ツ

此歩兵戰鬥間騎兵ハ搜索ヲナシ「プレブナ」ニハ敵ノ守備ナキヲ知レリ

「高加索格薩族國」ハ夜間歩兵ノ近傍即チ「サマリド」附近ニ招致セラル「サマリド」ハ「ウイッド」河ノ「ダニユーブ」川ニ朝スル所ノ近傍ニアリ

此夜魯軍ハ銃ヲ手ニシテ要塞附近ニ徹夜セリ

夜間土軍ハ要塞ヨリ西方ニ向テ突出セントセリ即チ先ツ警戒線ヲ突貫シテ次ニ格薩騎兵旅團ノ露營地ニ衝突セリ此處ニ於テ兩軍非常ノ混雜ヲ爲ス然ルニ格薩騎兵ハ退却シ魯軍ノ歩兵之レニ代テ敵ヲ扼ス此間騎兵ハ隊伍ヲ整頓シ紛亂セル突撃兵ニ向テ更ニ襲撃ヲ爲シ以テ其一部ヲ撃退シ一部ヲ囚虜トナセリ此夜東方ニ在ル魯軍ハ砲臺ヲ築キ以テ翌日ノ砲撃準備ヲ爲セリ翌日ニ至テ「ダニユーブ」左岸已ニ築設シアル所ノ砲臺ト共ニ合力シテ要塞ヲ砲撃セリ

要塞ノ狭小部内ニアル土軍ハ馬ノ能ク之ニ耐ユルヲ得ンヤ少時抵抗ノ後チ終ニ白旗ヲ掲ケテ以テ降ヲ乞フ

魯軍ハ六千人ノ囚虜ト多數ノ砲及ヒ軍艦ニ隻ヲ獲此軍艦ハ曩キニ「ダニユーブ」左岸魯軍砲臺ノ爲メ損害ヲ蒙リ己ニ運轉シ能ハサルモノナリ

「ニコポリ」要塞ノ略取ハ真ニ魯土戰爭ノ端緒ナリ此戰ニ於テ魯兵ハ非常ノ猛

Nicolis

Danube

勇ヲ顯セリ然レモ其指揮法ニ至テハ批難スヘキモノ多シ

最初分派堡ヲ攻撃スルニ當テ十分ナル準備ヲ爲サ、リシ魯軍ハ早昧ヨリ之レニ向テ砲撃セシトハ雖モ突撃準備ノ爲メ最モ要用ナル集合放火ヲ施サ、リシ此等首ナル巧拙ノ跡スル所ハ兵卒ニ非スシテ魯軍將校ノ罪ナリ

「高加索格薩旅團」ノ偵察ニ因テ「プレバナ」ニハ土軍ノ守備ナキヲ知ル

魯軍總督ハ「ナルノウア」ニアリ騎兵ヲ「セルビ」ヨリ「ロバツ」方向ニ派遣ス

Timova

Plavna

Selvi

Lovatz

此騎兵ハ途ニシテ土軍ニ遭フ

十五日ニハ土國洞外軍凡ソ一千人「ロバツ」ヨリ東方ニ前進シ來ル然レモ魯

Lovatz

軍之ヲ退ク

十七日ニハ魯軍ノ騎兵二中隊及ヒ騎砲兵一中隊ハ「ロバツ」ニ向ヒ進行ス土

Lovatz

軍凡ソ三百人ニ會フ然レモ土軍亦退ク

如此再三此近傍ニ土軍現出スルヲ以テ魯軍ノ總督ハ之ヲ抑攘セント欲シ第九

軍團ニ「プレブナ」ニ向テ前進スヘキヲ命ス
之レカ爲^{Plevna}第九軍團長ハ左ノ兵員ヲ以テ支隊ヲ編成セリ

歩兵九大隊

格薩騎兵三聯隊(十八中隊)

歩兵第五師團砲兵四中隊

此支隊司令官ハ歩兵第五師團長將官「シルデルシユールド子ル」氏ナリ同氏ハ
「プレブナ」ヲ占領スヘキノ命ヲ受ケ十八日ニ縱隊トナリテ前進ス其區分左ノ
如シ

右翼隊

歩兵六大隊

騎兵四中隊

砲兵四中隊

左翼隊

歩兵三大隊 (是迄「ブートルガレニ」ト「プレブナ」ノ間ニアリシモノ)

騎兵十二中隊

砲兵一中隊 (別ニ附属セシムルモノ)

格薩騎兵旅團ハ此支隊ニ先ダツテ前進ス

右翼隊ハ「ニコポリ」ヨリ「グリヴィア」ニ通スル道路左翼隊ハ「ブールガレ

ニ」ヨリ「プレブナ」ニ通スル道路ヲ前進シ十九日「プレブナ」附近ニ着ス

支隊司令官ハ攻撃ヲ翌日ニ於テ爲サントス此時ニ當リ「プレブナ」ハ已ニ土軍

凡六千人之ヲ守備ス

此夜普軍支隊ハ左ノ如ク位置ス

右翼隊ハ「プレブナ」ノ北方「ウイド」河ノ低地

左翼隊即チ「ブールガレニ」ヨリ來ル諸隊ハ「プレブナ」ノ東方「スガレ

ウイツア「附近」

高加索格薩旅團ハ「トウチエニツア」附近

故ニ魯軍ハ大ナル曲形ヲ以テ「プレブナ」ヲ包圍セリ即チ右翼ハ「ウイド」河ノ

「リベン」ヨリ左翼ハ「トウチエニツア」ニ至ル其正面ノ廣サ二十八吉米ナリ

七月廿日魯軍ノ右翼隊ハ北方「ウイツア」河ノ低地ヨリ「プレブナ」ニ向テ攻撃ス

土軍ハ魯軍ノ此ノ如ク兵力ヲ分割セシテ利用シ大縱隊ヲ以テ魯軍兩縱隊ノ中

間ニ陣地ヲ占ム殊ニ其砲兵一中隊「プレブナ」ノ△ナル字(第四号圖)ノ附近ニ

アリ以テ「ウイド」河低地ヲ進行シ來ル魯軍ヲ側射セリ

魯軍右翼隊ハ勇ヲ勵マシテ前進シ「プレブナ」市街ノ北部ニ侵入スルヲ得シモ

更ニ優勢ナル土軍ニ出會セリ魯軍ハ九時ニ至ル迄奮闘セシト雖モ將校ノ多ク

ヲ失ヒ且ツ戰闘間土軍ハ漸次二万人ノ多キニ至リシヲ以テ竟ニ敗レテ北方

ニ走ル

七月廿日ニ
於ケル一
レブナ」第
一ノ攻撃

土軍取テ之ヲ追ハス且ツ魯軍ノ「ニコポリ」ヨリ新ニ采ル所ノ歩兵三大隊ハ此

退却ヲ收容セリ依テ右翼隊ハ「プリスラン」附近ニ於テ再ヒ整頓スルヲ得タリ

左翼隊ハ此攻撃ニ協力スルヲ得サリシ何トナレハ右翼隊ヨリハ七吉羅米ノ距

離ニアリ故ニ獨立シテ「グルウイツア」ニ向ヒ戰闘セシヲ以テナリ此地ニ於テ

モ魯軍ハ初メ勇進シテ一部ノ地ヲ略セリ然レモ優勢ナル土軍ニ遭遇シ攻撃功

ヲ奏セサルノミナラス高等將校陣亡シタル後ハ敗走シテ「ブールガレニ」ニ遁

逃ス

土軍又之ヲ追ハス且ツ高加索格薩旅團ノ掩護ニ因テ此隊モ亦整頓スルヲ得

タリ

此戰ニ於テ魯軍ハ大損亡ヲ爲ス即チ左ノ如シ

將校七十五人

下士卒二千八百人

彈藥車十七輛

魯軍ノ敗後
「ブレブナ」
第二ノ攻撃
ニ至ル間ノ
景況

之レニ因テ觀レハ魯軍ハ戰鬪ニ與リシ兵員ノ四分一以上ヲ失ヘリ
 魯軍ハ此夜「ブリスラン」及ヒ「ブールガレニ」附近ニ宿營セリ
 ●此魯軍ノ敗北ハ「ニ土將」^{Bulgareni}「サスマン」^{Osmanpacha}「バシヤ」ノ力ニ因ル是ヨリ先キ同氏ハ五萬
 ノ兵ヲ以テ「ウイヂン」^{Widin}ニアリ同所ニ三万五千人ヲ留メ其他ノ兵ヲ率ヒテ七月
 七日發途シ先ツ「ダニユーブ」川ニ沿フテ行進ス其最初ノ目的ハ「ニコポリ」^{Nicopolis}ニ
 向テ行進シ敵若シ同所ニアレハ之ヲ擊退セシトスルニアリ然ルニ「ラホウア」^{Rahova}
 ニ達スル頃「ニコポリ」ハ已ニ陥ルヲ知ル依テ直チニ道ヲ轉シテ「ブレブナ」^{Plevna}ニ
 向ヘリ而シテ此兩三日前ヨリ「ブレブナ」内及ヒ其周圍ニ軍隊ヲ集中セリ故ニ
 最初六千人ナリシ守兵モ二十日ニハ已ニ二万人ノ多キニ及ベリ
 又二十日魯軍ノ敗走スルヤ土軍ハ「ブレブナ」南方東方及ヒ北方ニ防禦工事ヲ
 築設ス

二十六日ニ至リ「ロバツツ」ニアリシ魯軍モ亦々擊退セラル爰ニ於テ魯軍ノ右
 翼ハ最モ脇威セラル、ニ至レリ
 「ブレブナ」ノ敗ハ實ニ魯軍ノ不注意ナリシヲ証スルニ足ル即チ魯軍ハ多數ノ
 騎兵ヲ有セリ若シ之ヲ以テ「ウイヂン」ノ方向ヲ十分ニ偵察セハ「サスマン」^{Osman pacha}
 「バシヤ」ガ「ブレブナ」附近ニ大兵ヲ集合スルヲ知リシナラシ之ヲ知レハ又如此
 敗ヲ取ラサリシナラン
 將官「シルデル」^{Schilder-Schmidner}「シュールドチル」ハ「ブレブナ」ニ如此衆多ノ敵兵アルヲ知ラサ
 リシ若シ之ヲ知レハ如此拙劣ノ戰鬪ヲ爲サ、サリシナラン
 抑モ戰ノ前ニ於テハ可及的兵力ヲ集結スルヲ要ス又各隊ノ連結ヲ確實ニスル
 ヲ要ス故ニ右翼隊ヲ以テ攻撃スルニ當リ左翼隊ヲ「ブールカレニ」ヨリ「ブレ
 ブナ」ニ通スル道路ノ南方ニ位置セシムルカ如キハ最モ不可ナリ
 單ニ將官ノ過誤ニ因リ魯國勇兵ノ如此不幸ノ地位ニ陥リシハ實ニ憫ムヘキナ

リ兵卒ノ勇猛ナリシハ其死傷ノ多キヲ以テモ之ヲ証スルニ足ル
實ニ此戰ニ於テ右翼ハ一旦「プレブナ」ニ侵入スルヲ得タリ又左翼ハ三四土軍
ヲ擊退セリ然レモ土軍ノ兵力ハ己レニ三倍ナルヲ知ルニ及ンテ終ニ退却ス
ルニ決セリ夫交戰中退却ヲ爲サントスルカ如キハ困難中ノ最モ困難ナルモノ
ナリ

此戰ニ於テ將官「シルデルシユールドテル」ノ全敗セサリシモノハ其功ニ非
スシテ土軍ノ之ヲ追撃セサリシニ因ル
Schlider-Schouidner

何故ニ土軍カ追撃ヲ爲サ、リシヤハ之ヲ知ル能ハスト雖モ其編成不良ニシテ
堡壘ノ背後ニ在テ戰フヲ得ルモ進テ敵ヲ攻撃スルノ能力ヲ有セサリシニ因ル
ナラン

魯軍ハ「プレブナ」ノ敗報ヲ得シト雖モ未タ土軍ノ精細ナル情報ヲ得ス唯魯軍
ノ最大緊要ナル渡河點「シストウア」ヨリ三日行程ナル「プレブナ」附近ニ土軍
Plevna *Sistova*

約二萬人アルヲ知ルノミ

然レモ今ヤ魯軍ハ己ニ全軍ヲ擧テ「プレブナ」ヲ攻撃セサル可ラサルノ時期ナ
リ然ルニ魯軍總督ノ意圖未タ此ニ至ラス以爲ラク「プレブナ」ノ土軍ヲ擊破ス
ルニハ大軍ヲ要セスト
Plevna

之レニ因テ第九軍團長ヲシテ先キニ「ニコポリ」ニ殘留セシ諸兵ヲ率ヒテ更ニ
「プレブナ」ニ向テ進マシム之レカ爲メ「ルーマニ」國軍團ヲシテ「ニコポリ」ノ
Nicopolis *Roumanie* *Nicopolis*
守備ヲ交代セシム

又「シストウア」ニ殘留シアリシ第一師團ハ新ニ米テ第九軍團長ノ指揮ニ屬ス
其他第十一軍團長ノ歩兵一旅團及ヒ騎兵一旅團即チ皇太子ノ軍ノ背後ニアリ
テ運動シアリシモノ此時「ナルノウア」東方ニ達セリ是レ亦タ「プレブナ」ニ向
Tihova *Plevna*
テ前進スヘキノ命ヲ受ク

故ニ以上ノ諸兵ヲ合算スレハ「プレブナ」第二ノ攻撃ニ用ヒ得ヘキ兵數ハ殆ン
Plevna

ト三萬五千人ナリ魯軍總督ハ此兵員ヲ以テ「プレブナ」ヲ畧取スルニ足ルモノト考定セリ

是ニ於テ將官「グールコ」ニハ尚ホ南方「アンドリノツブル」ニ向ヒ前進セシムルニ決ス且ツ之レニ第八軍團ノ半師團ヲ續行セシム又第八軍團ノ殘余ハ留テ

「シプカ」峠及ヒ「ナルノウア」ノ占領ニ任ス

魯軍總督ハ「プレブナ」ノ第一敗ニ因テ己ニ其過大ナル計畫ヲ一時ニ強行スルノ非ナルヲ覺ラサル可ラス然ルニ「プレブナ」第二ノ攻撃ニ失敗スルニ至テ始メテ其企望ノ不可ナルヲ感セリ是レ實ニ晩シト云ハサルヲ得ス

千八百七十七年 魯土戰史筆記第六回 明治二十一年三月三十日

己ニ迷ヘシカモトク將官「グールコ」ハ七月十九日ニ「シプカ」峠ヲ占領セリ

魯軍本營ハ此喜フ可キ報知ト共ニ更ニ悲ムヘキ報知ヲ得タリ即チ「プレブナ」

攻撃失敗ノ第一報ナリ

此失敗ハ魯軍ノ不注意ト且ツ其軍隊ヲ過度ニ分離セシニ因ル此戰鬥ノ勝者ハ土將「オスマンパシヤ」ナリ同氏ノ率ユル軍隊ハ前年「セルビ」ニ於テ勝ヲ制セ

シ士卒ナリ

此勝利ノ翌日「オスマンパシヤ」ハ全軍隊ヲ「プレブナ」附近ニ集合シ尚「ソビ

ヤ」ヨリモ軍隊ヲ招致シ加之周圍ニ防禦工事ヲ施セリ

魯軍總督ハ「プレブナ」ノ不幸ヲ聞テ大ニ驚キシト雖モ未タ南方「アンドリノブル」ノ侵入ヲ斷念スル能ハス以爲ラク「プレブナ」攻撃ハ第九軍團悉皆ヲ用

ユレハ足レリト

初メ魯國人ハ「ルーマニ」軍隊ノ援助ヲ受クルヲ欲セサリシ是レ此軍隊ヲ良好ナラスト思意セシヲ以テナリ然レモ此時ニ當テハ勢ヒ彼レノ救助ヲ求メサルヲ得サルニ至レリ依テ同國軍團ノ第四師軍團ヲ招キ「ニコポリ」要塞ノ守備ニ任セリ

之レニ因テ第九軍團ノ全隊歩兵二聯隊欠「プレブナ」攻撃ニ使用シ得ルニ至レリ

其他第四軍團ノ先頭ナル第三十師團即チ此時「シストウア」ニ着セシモノ及ヒ第十一軍團ノ兵若干ヲ以テ之ヲ増加ス

「プレブナ」第二攻撃ノ指揮官ハ第九軍團長「クリエドチル」氏ナリ

以上ノ諸兵ヲ合シテ三萬五千人ハ將官「クリエドチル」ノ揮下ニアリテ七月二十五日「プレブナ」附近ニ達セリ

「プレブナ」第二ノ攻撃間將官「グールニコ」ハ南方ニ前進ス

土軍ノ小支隊「シプカ」峙テ棄テ去ルヤ將官「グールニコ」ハ南方ニ向テ侵入ス而シテ其兵力ハ第八軍團ノ半師團ヲ以テ増加セラル

第八軍團ノ殘余ハ留テ「ナルノウア」及ヒ「シプカ」峙テ守備ス

「グールニコ」ハ先ツ「ケザンリツク」ニ駐止シテ増兵ノ來着ヲ待ツ此増兵ハ第九師團ノ歩兵六大隊砲兵二中隊ニシテ先ニ「グールニコ」ノ通過セシ道路即チ「ハ

インキユーイ」ヲ經テ來ル

此ニ於テ「グールニコ」ノ率ユル兵員ハ左ノ如クナレリ

歩兵十六大隊半

騎兵三十中隊

砲四十八門

總計

七月二十日
ヨリ八月六
日ニ至ル將
官「グール
ニコ」ノ働
作

歩卒一萬二千人
騎士四千騎

此諸兵ノ「バルカン」山南方ニ出テシ頃ハ其地方住民殆ンド皆遁散セリ其住民ノ一部ハ土國人ニシテ一部ハ「ビュルガリー」人ナリ而シテ「ビュルガリー」人ハ「グールコ」ノ續テ南進センヲ請求ス
Balkan Bulgare Bulgare

二十二日「グールコ」ハ騎兵五中隊砲二門ノ支隊ヲ作り「エスキザグラ」ノ方向ヲ搜索セシム此騎兵ハ土國軍隊ノ鐵道ニ沿フテ集合シアリシヲ見ル
Goukko Goukko Eskizagra

註鐵道ハ「トルノウア」ヨリ「ヤンボリ」ニ通スルモノヲ云フ其他端ハ「ヒリ」
Triova Yamboli Phili

茲ニ於テ二十三日多クノ騎兵ヲ「エスキザグラ」及ヒ「ケザンリツク」ヨリ派遣シ偵察ト鐵道破壞ニ任ス
Propolis Psiti-zagra Kezanlik

二十四日「カシヤナツク」ノ停車場ヲ破壞シ「トルノウア」附近ニハ土軍ノ集合
Kajadzik Triova

シアルヲ確認セリ「トルノウア」ヨリ「ヤンボリ」ニ通スル線路上「カラブーナ」ニハ土兵約四大隊アリ故ニ其南方ニハ近接スル能ハス依テ其北方二三ノ點ニ於テ鐵道ヲ破壞セリ
Tolnova Yamboli Karabouna

二十四、二十五兩日ニ於テ新編成ノ「ビュルガリー」兵六大隊及ヒ多クノ騎兵ヲ以テ「エスキザグラ」ノ支隊ヲ増加ス依テ其總兵員ハ歩兵六大隊騎兵五中隊
Bulgare Eski-zagra

砲十二門トナレリ

二十八日ニ至ル迄鐵道ノ偵察ヲ連續セリ而シテ此諸偵察隊ハ屢々諸兵連合ノ土軍ニ出會セリ且ツ鐵道附近ナル「エニザグラ」モ亦タ土軍ノ占領スル所トナ
Yenizagra

茲ニ於テ將官「グールコ」ハ全兵ヲ以テ「エニザグラ」ヲ突撃セント欲ス是レ一ハ敵情ヲ偵察シ一ハ要地ヲ占領シテ「アンドリノプル」ヨリ來ル土軍ノ増兵ヲ扼止センガ爲メナリ
Goukko Yenizagra Andrinople

編者記ス第
三号圖中
「カラブー
Karabouna
ナ」ト「カラ
Kar.
ブナール」
abounar
ナルニ地点
アリ一ハ鉄
道ニ隣接シ
他ハ「エニ
Zen
ザグラ」ト
「エスキザ
Eski-zagra
グラ」ノ間
ニアリ注意
アルハレ

依テ二十九日三縱隊ト成テ前進ス將官自ラハ歩兵四大隊騎兵二中隊徒歩砲六
門ヲ以テ「ケザンリク」附近ヨリ「エリゴボ」ヲ經テ進行ス

之レト同シク第八軍團ヨリノ増兵歩兵六大隊騎兵二中隊砲十六門ハ「ハイ
ン

キユーイ」ヨリ「エニザグラ」ニ向テ前進ス

第三ノ支隊ハ「エスキザグラ」ヨリ大街道ヲ經テ「エニザグラ」ニ向フ而シテ三
縱隊ハ三十日ニ於テ集結センヲ期ス其法最初ニ縱隊ハ「エニザグラ」ノ北方ニ

於テ次ニ第三支隊ニ會合スルニアリ

然ルニ「エニザグラ」ノ附近ニ於テニ縱隊合シテ前進スルヤ土軍ノ抵抗ニ會フ

然レモ魯軍ハ撃テ之ヲ退ケ市街ヲ侵略シ砲二門ヲ獲且ツ此地ニアル鐵道橋ヲ

破壊セリ魯軍ノ死傷約一百人

土軍ノ支隊ハ歩兵六乃至七大隊ト制外軍騎兵千五百騎ナリシ敗レテ西南方ニ
走ル

魯軍ハ如此勝利ヲ得シト雖モ第三支隊未タ來リ合セス且西方ニ於テ砲聲ヲ聞

クヲ以テ將官「ゴールルユ」ハ先キニ自己ノ率ヒシ四個ノ獵兵大隊(第四獵兵旅

團ト稱ス)ヲ「エニザグラ」ニ留メ他ノ兵ヲ以テ其夜直ニ「カラブナル」ニ至リ

此地ニ露營ス茲ニ於テ此日「エニザグラ」ト「エスキザグラ」トノ間ニ戦闘アリ

魯軍支隊敗レテ「エスキザグラ」ノ方向ニ退却セシヲ知ル依テ「ゴールルユ」ハ第

四獵兵旅團ヲ招キ三十一日「エスキザグラ」ニ向テ進行セリ

「エスキザグラ」ノ戦況ハ次ニ述ブルカ如シ

此地ニアリシ魯軍支隊ハ二十九日「エニザグラ」ニ向テ進行セシト雖モ「カラ

ブナル」附近ニ於テ土軍ノ大兵ニ衝突シ且ツ其右側土軍支隊ノ爲メニ脅威セ

ラレシヲ以テ終ニ退却セザルヲ得サルニ至レリ而シテ其退却ハ「エスキザグ

ラ」ノ方向ニ非スシテ「ダルボカ」ノ方ニ於テセリ

三十日ニハ更ニ此地ヨリ前進ヲ試ミシモ再モ土軍ノ大兵ニ出會シ「アイデン

リニ退避ス土軍ハ之ヲ追フテ「ツランリ」ニ進ム
 此夜「アイデシリ」ニ駐止セシ魯軍支隊ハ「マハレ」及ヒ「アロキエウイ」附近ニ
 於テ土軍ノ大露營火ヲ見ル是レ先キニ「モンテチグロ」ニ於テ戦闘シアリシ將
 官「スレイマンパシヤ」ノ率ユル軍隊ナリ實ニ此軍隊(四十二大隊)ハ「モンテチ
 グロ」ヨリ航海シ「マリツマ」河口ニ上陸シ次テ鐵道ヲ以テ輸送セシモノナリ」
 茲ニ於テカ土軍ノ兵カハ三萬五千人ニ及ヘリ尚且ツ「アンドリノツプル」及ヒ
 「コンスタンナノツプル」ニ駐在セシ兵ト合シテ「シプカ」峙ニ向テ突進セント
 セリ
 故ニ一萬二千ノ兵員ヲ有シテ「エスキザグラ」ト「スリヴノ」ノ間ニアル將官
 「ゴールコ」ハ實ニ危險ノ地位ニ陥レリ
 然レモ上將「スレイマンパシヤ」ト前指揮官トノ議協ハス其運動一致セザリシ
 ナ以テ魯軍萬死ヲ免ルノ僥倖ヲ得タリ

三十一日「スレイマンパシヤ」ハ「エスキザグラ」ニ向テ前進シ其左翼ハ此市街
 ヲ侵畧セリ故ニ此地方ニアリシ魯軍支隊歩兵六大隊騎兵六中隊砲兵二中隊ハ
 「ケザンリツク」ニ退却ス此左翼ノ運動間右翼ニ在テハ「ゴールコ」ノ軍隊ニ向
 テ働作セリ
 魯將「ゴールコ」ハ「ツランリ」附近ニ於テ土軍ノ右翼ヲ撃破シ且ツ騎兵ヲ以テ
 「エスキザグラ」ノ支隊ト連絡ス時ニ午后二時ナリ魯軍損傷甚シ「エスキザグ
 ラ」ノ支隊ノミニ五百人ノ死傷者アリ「ゴールコ」ハ「ダルボカ」ニ退ク
 八月一日「ゴールコ」ハ「ダルボカ」ヨリ「ハインキユーイ」ニ退キ騎兵ヲソフ
 ーラルト「エセクナ」ノ線ニ留メ土軍ヲ監視セシム此騎兵ハ八月五日ニ至ル
 迄其位置ニ駐在ス其間「ゴールコ」ハ「ハインキユーイ」ノ北ニ於テ山脈ヲ輸エ
 「エンナ」ニ至リ同地ヲ守備ス騎兵ノ報告ニ因リ土軍ハ「エニザグラ」近傍ニ集
 合セルヲ知ル

八月六日騎兵モ亦タ「バルカン」山ノ北方ニ退ク

如此將官「グルルユ」ノ速ニ退却セシハ敢テ「スレイマンパシヤ」ノ軍隊ヲ恐レ

シノミニ因テ然ルニ非ラス他ニ一原因アリ即チ「プレブナ」攻撃第二回ノ失敗

是ナリ

「プレブナ」第二ノ攻撃ニ於テ將官「クリエドチル」ノ用ヒシ軍隊ハ歩兵三十六

大隊騎兵三十中隊砲百八十六門ナリ此軍隊ハ二十八日ニ於テ「ブリスラン」

「ボラヂム」及ヒ「ボゴト」ノ線ニアリ其線ノ全長約四十吉米ニシテ「プレブナ」

市街ヲ距ル凡ソ二十吉米ナリ

騎兵ハ兩翼ニ位置ス即チ騎兵十二中隊砲六門ハ右翼ニシテ「ブリスラン」ニア

リ又騎兵十二中隊砲十二門ハ左翼ニアリ

左翼騎兵ハ其後有名トナリタル將官「スユメンフ」ノ率ユル所ナリ同氏ハ二個

ノ任務ヲ有ス即チ「ロバツツ」ノ方向ニ對シテ警戒シ「プレブナ」ノ方

向ヲ監視スルニアリ

又將官「クリエドチル」ノ率ユル第九軍團ノ師團ハ「カリソヴァ」及ヒ其方向ニ

第四軍團ノ第三十師團ハ「カラガツナ」附近ニ第十一軍團ノ軍隊ハ「ボラヂム」

附近ニアリ皆各一日間ノ偵察ヲ爲シタル後七月三十日攻撃ヲ施行セントス

「ブリスラン」ニアル右翼騎兵ハ西ニ向テ正面ス是レ攻撃功ヲ奏スレハ「プレ

ブナ」下流ニ於テ「ウイド」川ヲ渡リ直ニ土軍ノ退路ヲ切斷セントスルニアリ

蓋シ魯軍ノ推想ニ因レハ土軍ノ退却路ハ「ナルウハニ」ヲ經テ「ソロヤ」ニ至ル

モノナリトナス

「カリソヴァ」附近ノ第九軍團ハ右攻撃縱隊トナリテ大街道ノ北ナル土軍ノ陣

地ニ向ヒ前進ス其兵員ハ歩兵十八大隊騎兵三中隊砲八十門ナリ各師團ハ一聯

隊ヲ欠ク是レ「ニコポリ」攻撃ノ際敗亡シ「シストヴァ」渡河ノ際大損

害ヲ受ケ各其地ニ駐在スレハナリ此右縱隊ノ司令官ヲ中將「ウエリヤミノフ」

「プレブナ」
第二ノ攻撃
第四号圖參

トス

左攻撃縦隊ハ第四軍團第三十師團ノ一旅團及ヒ第十一軍團第三十一師團ノ一旅團ヨリ成ル其兵員總計歩兵十一大隊騎兵四中隊砲四十八門ナリ司令官ヲ中

將「シヤコウスコイ」トス「ボラヂム」ヨリ大街道ノ南「スガレヴィツア」及ヒ

Schaklovskoi

Paradin

Sgalovitsa

「ラヂシエボ」ヲ經テ「グルウイツア」ニ向ヒ前進ス

Radischevo

Griviza

左翼ノ騎兵司令ハ歩兵一大隊ヲ以テ増加セラル首トシテ「ロウアツ」ノ方向

Louatz

ヲ搜索ス又攻撃功ヲ奏スルニ當テハ直ニ「ウイド」川左岸ニ渡リ土軍ノ退路ヲ

Vid

絶塞セントス

將官「シリユドチル」ノ率ユル豫備隊ハ第四軍團第三十師團ノ一旅團騎兵四中

Krudener

隊砲三十門ニシテ「ボラヂム」ト「ペリシヤ」ノ線ニアリ

Paradin

Pelischat

土將「ナスマンバシヤ」ハ「プレブナ」周圍ニ大ナル角面堡ト野堡ヲ築ケリ就中

Osnan pachia

Plevna

「グリウイツア」ノ北小距離ニアル角面堡ハ殊ニ大ナリ此堡ハ大街道ヲ制ス又

Griviza

其西南及ヒ「ラヂシエウチ」ノ北方ニモ稍大ナル二角面堡アリ

Radischevo

一般ノ地形ハ波狀ヲ爲ス此日曉霧甚シク方向ヲ辨識スルニ苦メリ

右翼ノ戦闘ハ「グリウイツア」ノ北ナル角面堡ノ近傍ニ集中セリ此戦闘ハ最初

Griviza

砲撃ヲ以テ誘引セリ然レモ砲兵陣地ノ偵察不精ナリシカ爲メ其射撃ハ霧中ニ

於テ閉目シテ放射スルニ異ナラス其効力殆ント無シ且ツ攻撃準備ヲ爲スニ當

テ砲兵ノ大部分ハ豫備トシテ使用セス第九軍團中ノ砲兵ニ於テモ最初ハ唯三

中隊ヲ用ヒ他ハ小豫備トシテ殘置シ後ニ至リ漸次之ヲ使用シ五中隊ニ及ヘリ

其他土軍ノ占領スル陣地ヲ偵察スルヲ粗ナリシカ爲メ不意ノ射撃ニ吃驚

セリ

攻撃準備如此然ルニ左翼「ラヂシエウチ」ニ於テハ已ニ攻撃ヲ始ム茲ニ於テ右

Radischevo

翼モ亦攻撃ヲ始メサル可ラス即チ歩兵ハ此無効ナル準備ヲ以テ直ニ前進スル

ヲ要スルニ至レリ依テ左ノ如ク運動ス

百三十五

第三十一師團ハ步兵二聯隊ヲ第一線ニ又步兵一聯隊ヲ第二線ニ其背后ニ砲兵ヲ隨ヘ前進ス

第五師團ハ第三十一師團ノ左翼後方ニ在テ豫備ノ狀ヲ爲ス是レ先ニ此市街ヲ攻撃シテ敗北セシモノナルヲ以テナリ

右攻撃縱隊ノ目的ハ先ツ「グリウイツア」北ノ角面堡ヲ略シ次ニ第二線ノ聯隊ヲ以テ本道ヨリ突撃ヲ爲サントスルニアリ

然レモ唯野堡二個ヲ略スルヲ得シノミニシテ「グリウイツア」北ノ角面堡ニ於テハ兩師團共ニ頗ル苦戦セシト雖モ之ヲ抜ク能ハス豫備隊ナル第四軍團ノ旅團ヨリ二大隊ノ増援兵ヲ得シト雖モ尚ホ功ヲ奏スルヲ得ス軍隊ハ大損害ヲ蒙リ且ツ彼は混淆シ頗ル困難ヲ究ム夜已ニ暗キニ及ンテ辛ク退却スルヲ得タリ

此處ニ於テモ土軍追撃セサリシヲ以テ魯軍ハ萬死ヲ免ル、ヲ得タリ且ツ「シストウア」ニ殘留セシ一聯隊來リ援クルニ會シ軍隊ハ三十一日午前十時迄ニ

「カラガツチ」附近ニ集合スルヲ得タリ
左攻撃縱隊ハ預定ニ從ヒ「スガレウイツア」及ヒ「ラヂシエウチ」ヲ經テ前進ス
此諸村落ハ難ナク占領スルヲ得タリ依テ續テ前進シ
激戦ノ後「ピユルガレニ」ヨリ「プレブナ」ニ通スル大街道及ヒ「プレブナ」ヨリ「ロウアツ」ニ通スル街道ノ集中點ニアル野堡ヲ略取シ且ツ土軍ノ反撃ニ抵抗スルヲ得タリ然レモ已ニ豫備隊ヲ盡クシ且ツ後援ノ兵ナキヲ以テ不得止薄暮ニ至リ「ラヂシエウチ」ニ退却セリ
八月一日ニ至リ更ニ「ボラチム」ニ退ク
最モ左翼ナル將官「スニムレフ」ハ濃霧ニ乘シ一部ノ兵ヲ率ヒテ「クリツシン」ニ進ミ更ニ「プレブナ」市街ニ達ス茲ニ於テ土軍ノ預備隊多ク現在スルヲ見ル此將官ハ急激ノ突出ト其剛氣トヲ以テ能ク土軍ノ預備隊ヲ誘出シ且十時比迄之ヲ「クリツシン」附近ニ席撃セリ然レモ此時命令ヲ得テ遂ニ「ボゴト」ニ退

「カラガツチ」附近ニ集合スルヲ得タリ
左攻撃縱隊ハ預定ニ從ヒ「スガレウイツア」及ヒ「ラヂシエウチ」ヲ經テ前進ス
此諸村落ハ難ナク占領スルヲ得タリ依テ續テ前進シ
激戦ノ後「ピユルガレニ」ヨリ「プレブナ」ニ通スル大街道及ヒ「プレブナ」ヨリ「ロウアツ」ニ通スル街道ノ集中點ニアル野堡ヲ略取シ且ツ土軍ノ反撃ニ抵抗スルヲ得タリ然レモ已ニ豫備隊ヲ盡クシ且ツ後援ノ兵ナキヲ以テ不得止薄暮ニ至リ「ラヂシエウチ」ニ退却セリ
八月一日ニ至リ更ニ「ボラチム」ニ退ク
最モ左翼ナル將官「スニムレフ」ハ濃霧ニ乘シ一部ノ兵ヲ率ヒテ「クリツシン」ニ進ミ更ニ「プレブナ」市街ニ達ス茲ニ於テ土軍ノ預備隊多ク現在スルヲ見ル此將官ハ急激ノ突出ト其剛氣トヲ以テ能ク土軍ノ預備隊ヲ誘出シ且十時比迄之ヲ「クリツシン」附近ニ席撃セリ然レモ此時命令ヲ得テ遂ニ「ボゴト」ニ退

ク
「ブレブナ」第二攻撃ニ依テ魯軍ハ左ノ兵員ヲ殲亡セリ
Plevna

將校百八十九名
下士卒七千三十六名

此攻撃ニ於テ魯軍ノ兵力ハ土軍ニ劣レリ且ツ土軍ハ充分防禦工事ヲ作スノ時
間ヲ有セリ

此戦ノ終ニ於テ「オスマンパシャ」若シ魯軍ヲ追撃セハ魯軍ハ蓋シ壘城セシナ
ラン之レヲ免レシハ實ニ魯軍ノ僥倖ト謂フヘキニミ
Osmunpacha

魯將「クリエドチル」ハ初メヨリ此攻撃ヲ危疑セリ然レトモ總督ノ明了ナル命
令ニ依テ施行セシモノナリ但シ其働作ニ至テハ「クリエドチル」亦罪ナシトス
Krudoner

ル能ハサルナリ
其過失ノ第一ハ攻撃ヲ一途ノ指揮ニ於テ施行セザリシモノ是ナリ

右攻撃縦隊ハ左攻撃縦隊ヨリ遠隔シ戦闘間ト雖モ尚四吉米ヲ離隔セリ而シテ
「クリエドチル」ハ左縦隊ノ指揮ヲ全ク委任セリ故ニ右縦隊ノ前面砲戦ノ未タ
Krudoner
爾ナラサルニ左縦隊ハ己ニ攻撃ヲ始ム之レカ爲メ右縦隊ハ「グリウイツア」ニ
Griviza
對シ無益ノ攻撃ヲ爲スニ至レリ

抑モ如此防禦工事ヲ施セシ陣地ヲ攻撃スルニハ先ツ砲撃ヲ以テ敵砲ヲ沈黙セ
シメ次ニ敵ノ歩兵ヲ動搖セシメ然後攻撃ヲ爲ス如ク順序ヲ經テ施行セサル可
ラス而シテ最初ノ砲撃間歩兵ハ精密ナル地形偵察ヲ爲シ又突撃點ノ準備ヲ爲
スモノトス

歩兵ノ突撃ハ一途ノ命令ニ於テ一齊ニ施行スルヲ要ス然ルニ此場合ニ於ケル
魯軍ハ二點ニ於テ各別ニ施行セリ而シテ其點ハ最も隔離セル兩翼端ニ於テス
凡ソ兩翼ヨリ攻撃ヲ爲スハ敵ノ側面ヲ包圍スルヲ得シキニアリ然ルニ此場合
ニ於テハ土軍ノ側面ニ出ツル能ハスシテ常ニ其正面ニ出タリ

「プレブナ」第一第二回ノ攻撃ニ於テハ最モ緊要ナル同時ニ且ツ一齊ニ攻撃ス
ル^{Plevna}ニ注意セカリシ之レカ爲メ土軍ノ豫備隊ハ容易ニ諸方へ使用スルヲ得タ
リ

千八百七十七年 魯土戰史筆記第七回 明治二十一年四月六日

今ヤ土軍ハ「プレブナ」ノ勝利ト魯將「グールニコ」ヲ擊退セシトヲ以テ兵略上ノ
利ヲ占有セリ ^{Plevna} ^{Gouliko}

實ニ土將「オスマンバンヤ」ハ戰線ノ最西部ニ於テ二回ノ勝利ヲ得且ツ目下ハ
四万五千ノ兵ヲ擁シ魯軍ノ命脈ニ關スル「シストウア」ノ橋梁ニ向テ滯陣ス
^{Osmangia} ^{Sistova}

又「バルカン」山南方ニ於テハ土軍ハ新銳ノ兵ヲ集中シ四角要塞内ニ在ル土國
本軍ハ未タ一回モ戰ヲ交エス而シテ此兩軍ノ交通ニ用ユル「バルカン」山南方
^{Balkan} ^{Balkan}

八月上旬
於ケル魯軍
ノ景況

魯軍ハ其本營ヲ背後「ビエラ」ニ轉移セリ之レニ因テ魯軍ハ其懸軍孤進ヨリ生
セシ失策ヲ勢ヒ隱秘スル能ハサルニ至レリ ^{Bea}

魯軍ノ本營ヲ轉移セシモノハ「バルカン」山南方ノ土軍四角要塞ノ本軍ト合シ
テ「シムムラ」ヨリ西方ニ向ヒ企圖ヲ爲サンヲ恐ルレハナリ ^{Balkan} ^{Schoumla}

魯軍ノ敗ハ土軍ノ兵力ヲ推算スル少ニ過キ之レニ對シテ用ユル魯軍ノ兵力少キニ因ル

魯帝ハ出征軍ノ不足ナルヲ悟リ茲ニ於テ本國ノ軍隊ニ新ニ出師準備ヲ命ス其兵員步兵十師團騎兵二師團ナリ此兵員ノ必要ヲ促セシハ帝ニ歐羅巴部内ノ戰鬪不利ナルニ原因セシノミナラス亞細亞部内ノ戰鬪ニ於テモ魯軍ノ不幸ヲ報セシヲ以テナリ

將官「グーニコ」ハ前衛團ヲ解散ス而シテ其部下ニアリシ第四獵兵旅團(四大隊)及ヒ「ビュルガリー」人ヨリ成ル旅團(六大隊)ハ第八軍團ニ屬セシム故ニ第八軍團ハ步兵十大隊ヲ増加セリ

又前衛團ニ屬セシ各騎兵ハ各自所管ノ軍團ニ歸屬ス「グーニコ」自ラハ去テ魯國ニ歸リ新ニ編成スル所ノ騎兵ヲ統轄ス
第八軍團ハ南面シテ「シプカ」峠ヲ守備ス其任務ハ「チルノウア」南方ニアル

編者記ス
交ニ擲彈兵
トアルハ佛
語「グレンナ
Grenade
チエー」ニ
シテ
等ニ故撰抜
兵ト云フモ
可ナリ

「バルカン」山ノ諸峠及ヒ「エレンナ」ノ道路交叉点ヲ守備スルニアリ
本國ニ於テ新ニ出師準備ヲ施行スル軍隊中步兵五師團ハ歐羅巴部内ノ戰鬪地ニ使用スルニ決セリ其軍隊左ノ如シ

步兵第二十四師團

同 第二十六師團

近衛步兵一師團

二個ノ擲彈兵師團(近衛ニ屬スルモノナリ)

計五師團

右ノ外左ノ軍隊附屬ス

獵兵旅團(四大隊)

騎兵二師團(近衛騎兵第二師團)

魯國內部ニハ十八万五千ノ後備軍ヲ以テ豫備軍隊ヲ編制ス然レモ戰地ヨリ頗

ル遠隔シ且ツ出師準備未タ成ラス故ニ之レカ援助ヲ得ルハ數週日ノ後ニ非サ
レハ能ワス故ニ目下援助トシテ用ヒ得ヘキモノハ唯「多腦」北方ニアル「ル
マニ」國軍隊アルノミ

「ルマニ」國軍隊アルノミ

Manie

魯軍ハ最初「ルーマニ」國軍隊ヲ蔑視セシヲ以テ之ヲシテ戰ニ與ラシムルヲ欲

セサリシ然レモ己ニ述フルカ如ク「プレブナ」第一ノ敗后ハ「ニコポリ」要塞ノ

Roumanie

守備ヲ其第四師團ニ委任スルニ至レリ又「プレブナ」第二敗後ハ「プレブ
ナ」ニ招ケリ

Plevna

Nicopolis

「ルーマニ」軍ハ四師團ヨリ成ル内一師團ハ「カラフア」ニ在テ「ウイヂン」ニ對

テ「プレブナ」ニ赴ク

Plevna

「プレブナ」ニ對シ守勢ヲ以テ占陳スル軍隊左ノ如シ

陣ス

Roumanie

Kalafat

Wilin

魯國第四軍團ノ第十六師團即チ目下「ダニユーブ」北岸ニ來着スルモノ亦タ

Danube

「プレブナ」ニ赴ク

Plevna

「プレブナ」ニ對シ守勢ヲ以テ占陳スル軍隊左ノ如シ

魯國第四軍團

同 第九軍團

「ルーマニ」國第四師團

Roumanie

「ロマン」ニ差遣セシ軍隊ハ將官「スコベレフ」ノ指揮ニ屬セシム故ニ其部下

ノ兵ハ高加索格陸旅團(騎兵十二中隊)及ヒ第四軍團ヨリ派遣ノ歩兵トス同氏

ハ兵ヲ率ヒテ「セルウイ」ニ陣ス

Skobelof

「プレブナ」第二攻撃ニ參與セシ第十一軍團ノ兵ハ其軍團ニ歸屬ス此軍團ハ

「ナルノウア」ヨリ「サスマン」ニ通スル道路上ニアリテ以テ皇太子ノ

軍ト第八軍團トノ間隙ヲ補填ス

Oltenia

第十二第十三軍團ヨリ成ル皇太子ノ軍ハ南進運動掩護ノ爲メ「ルーチエック」

及ヒ「シエームラ」ニ對シ「ビエラ」ヨリ「カラローム」河畔迄前進ス

Shoumla

Biela

Kara Lom

Routschouk

「ルーチエック」附近

「ルーチエック」附近

Routschouk

「ルーチエック」附近

「ルーチエック」附近

Routschouk

「ルーチエック」附近

「ルーチエック」附近

Routschouk

「ルーチエック」附近

「ルーチエック」附近

Routschouk

ニ於テ「ダニユーブ」河ニ朝ス其上流ニ在テハ二個ノ支流ヲ爲ス其西ナル

Danube

ヲ「カラニローム」ト云ロ「アラブラル」ヨリ「カセルジエウチ」ヲ過ク其東

Karahlom

Arablar

Kaceljevo

ナルヲ「マシローム」ト稱ス「ラスグラド」西方ヨリ「カヂキユーイ」西方

Alom

Rasgrad

Kadikieni

ニ流レ同所ニ於テニ支流相合シ「ローム」河ヲ爲ス（「カラローム」トハ黒

Alom

Loim

Karalom

「ローム」ヲク「ローム」トハ白「ローム」ト云フ義ナリ）

Loim

Loim

第十二軍團ノ騎兵第十二師團ハ高加索格薩騎兵ヲ以テ増加シ「カヂキユーイ」

Loim

Kadikieni

ニ占陣ス是レ東南方ヨリ「ルーチユツク」ノ交通ヲ遮斷センカ爲ナリ

Loim

Routschouk

第十二軍團ノ第十二師團ハ「ローム」河下流ニ在テ「ルーチユツク」ニ對ス其本

Loim

Routschouk

營ハ「ブルユヌ」ニアリ

Pigos

第三十三師團ハ「ローム」河上流「カセルジエウチ」ニアリ此本營ハ先キニ「ニ

Loim

Koeljevo

ソウア「ヨマリシモンナリ

Nisova

第十二軍團ノ右ニ第十三軍團アリ「ラスグラド」及ヒ「エスキヂエマ」ニ對シテ

Rasgrad

Esri djomna

陣地ヲ占ム其前哨ハ「カラハザンキユーイ」ヲ經テ「アラブラル」ニ至ル彎形ヲ

Karhasankieni

Arablar

爲ス

初メ第十三軍團ハ其前哨ヲ尚ホ前方ニ置ケリ即チ其左翼ハ「コスタンツア」ヨ

Kostantza

リ「ソレニツク」ニ及ヘリ

Solenik

七月二十六日此軍團ノ一部ハ「エシルツエ」ニ向ヒ突撃ヲ施行シ土軍ノ支隊ヲ

Esirdze

「ラスグラド」ニ撃退セリ

Rasgrad

第十三軍團ノ右ニ列シテ第十一軍團アリ其若干部分ハ己ニ此地ニ到着セリ

Rasgrad

此軍團ハ己ニ迷ヘシカ如ク「ダニユーブ」左岸ニ在テ「ルーチユツク」及ヒ「シ

Danube

Routschouk

リストリ」ニ對峙シ後チ一支隊ヲ「ヂェルチエウチ」附近ニ留メ他ハ河ヲ渡リ

Slistrie

Chirjevo

第十二第十三軍團ノ背後ヲ迂迴シテ右翼ニ來ルモノナリ又此軍團ノ一部ハ

Plevna

「ブレブナ」第二ノ攻撃ニ參與シ敗北ヲ共ニセリ今ヤ此軍團ハ「ナルノウア」ヨ

Plevna

Tirnova

リ「オスマンバザール」ニ通スル道路上ニ集合ス

Osman bazar

第十二軍團ノ騎兵ニ尚第十三騎兵師團ノ一部及ヒ第八第十一騎兵師團ヲ増
加ス

註 騎兵師團ノ番号ハ所属軍團ノ番号ニ同シ

實ニ魯軍ノ各部ハ頗ル混淆ヲ爲シタリ是レ一ニ魯軍本營ノ不注意ナリシニ因
ル本營ハ常ニ諸情況ノ眼前ニ現出スルニ至テ始メテ吃驚狼狽ノ之カ處置ヲ爲
セリ故ニ最初東方ニ差遣セシ軍隊ヲ今ヤ西方ニ招カサル可ラサルニ至レリ
魯軍ノ西方ニテ集結セシハ土軍ノ攻勢移轉ヲ恐ルレハナリ

報知ニ因レハ四角要塞内ニアル土軍ノ司令官ハ新ニ交代セリ即チ新任司令官
ハ「メヘーア」ナリ魯軍ハ此新司令官カ新ニ大軍ヲ引卒シ采ランコト恐ル
現ニ報知ニ因レハ土軍五乃至六万ハ「ラスグラド」及ヒ「エスキヂヌマ」ノ間
ニアリト
Pasgrad Esiki Djonna

左ニ第八軍團ノ配置ヲ細説スシ

第八軍團
ノ配置
附近

將官「グール」ノ先キニ「バルカン」山通過ニ用ヒシ「ハインキユーイ」市街
北方ノ峠ハ第九師團ノ歩兵三大隊及其砲兵一中隊高加索格薩騎兵二中隊山砲
一中隊ヨリ成ル支隊ヲ以テ守備ス

此支隊ノ背后ニ於テ「エレナ」ニ第九師團ノ歩兵三大隊及其砲兵一中隊騎兵四
中隊徒歩砲二門ヨリ成ル豫備隊ヲ置ク此豫備隊ハ東方ニ對シ警戒スルノ任ヲ
有ス

「ハインキユーイ」ノ西北ニ「トラウナ」峠アリ「ケザンリク」及ヒ「マグリ」
ニ通スル二道此所ニ合ス然レモ道路甚不良ナリ「ビユルガリ」歩兵一大隊ヲ
以テ守備ス

「シプカ」峠ニハ左ノ守備兵ヲ置ク
Schipka

第九師團ノ歩兵一大隊半

同砲兵二中隊

「ビュルガリ」歩兵五大隊(第六大隊ハトラ)
騎兵四中隊

山砲二中隊

「ガプロヴァ」ニ特別豫備トシテ左ノ兵員ヲ置ク
Galjova

第九師團ノ歩兵二大隊

格薩騎兵二中隊

「ナルノヴァ」ニハ首ナル豫備隊アリ即チ左ノ如シ
Nitrova

第九師團ノ歩兵一大隊半

同砲兵三中隊

第十四師團ノ歩兵第二旅團

同砲兵四中隊

第四獵兵旅團(四大隊)

此外「セルウイ」ニ第十四師團ノ歩兵一旅團及ヒ其砲兵一中隊アリ將官「スコ
Solvi

ベレン」ニ屬シ「ロウアツツ」ニ對シテ警戒ス
Belar Lovatz

「ガプロヴァ」ヨリ「シプカ」ニ通スル道路ハ修理ヲ加ヘ以テ砲兵ノ通過ヲ爲シ
Gblava Schipka

得セシム

魯軍ノ配置ヲ略言スレハ南北ニ長キ短形ヲ爲ス即チ其短邊ノ一ハ「バルカン」
Balkan

山ニ一ハ「ダニユープ」川ニ向フ
Danube

又長邊ノ一ハ四角要塞ニ對シ他ノ一ハ「ロウアツツ」及ヒ「プレブナ」ノ方向即
Lovatz Plevna

チ土將ヲ「オスマン」ニ對向ス
Osmunpacha

以上ハ八月上旬ニ於ケル魯軍ノ配置ナリ

土軍ハ實ニ好結果ヲ得ヘキノ地位ニアリ而シテ土軍ハ之ヲ利用セス「プレブ
Plev

ナ」第二回ノ勝利及ヒ「バルカン」ノ北方ニ魯將「グール」ノ軍隊ヲ撃退セシ
Balkan Gurko

后十四日間殆ント休戦ノ姿ヲナセリ其間魯將「スコベレン」ノ偵察隊ト前哨ニ
Skobelar

魯土兩軍ノ
略評

於テ小賊アリシモ記スルニ足ルモノナシ
西方「Herat」Herat「Lovalz」Lovalz及ヒ「Osmani」Osmani「Pacha」Pachaチスマンバシヤ」ハ為ス「Jantra」Jantra日時チ
彼過セリ是レ騎兵ノ欠乏ト軍隊ノ状態ニ因リ止テ得ス專守防禦ヲ為サ、ル可
ラサルヲ望リシナリ

之ニ及ビ魯軍ハ大敵ノ騎兵ヲ有ス故ニ之ヲ以テ「Osmani」Osmani「Pacha」Pachaノ背後ノ連
路ヲ斷絶スル「Osmani」Osmani「Pacha」Pachaヲサス實ニ「Osmani」Osmani「Pacha」Pachaハ「Sophia」Sophiaヨリ糧食
彈藥及自増援兵ヲ取レリ而シテ其兵員ハ終ニ六万乃至七万ニ及ヘリ魯軍ノ之
ヲ妨ケザリシハ大ナル過失ト云ワサル可ラス

「Salemaapichin」Salemaapichin「Balkan」Balkan山南方ニアリ又本軍ハ
依然四角要塞ヲ根據トナシ「Rutshouk」Rutshouk「Schoumi」Schoumi「War」Warチ第一線トナシ「War」War
ナ「Silistric」Silistricチ第二線トナシテ帶陣セリ此本軍ノ徒手ニ經過セシハ何等
ノ理由ナリシヤ了解ス可ラサルモノナリ

已ニ知ル如ク此本軍ハ魯軍ノ多屬河渡過テ彼レノ任意ニセシメ「Jantra」Jantra「Jantra」Jantra
河孟ノ要地ヲ銃聲ナク魯軍ニ蹂躪セシメ且ツ「Karavm」Karavm「Aklom」Aklom及ヒ「Aklom」Aklom
河近傍ノ地ヲ劔ニ血ヌラスシテ魯軍ノ有ニ歸セシメタリ加之攻勢移轉ノ考慮
ナ一モ為ス「Rasgrad」Rasgrad「Esli Djouna」Esli Djouna及ヒ「Rasgrad」Rasgrad「Esli Djouna」Esli Djouna之ヲ
占領セス之レカ為メ魯軍ハ「Routshouk」Routshouk「Routshouk」Routshoukト「Routshouk」Routshouk「Routshouk」Routshoukノ中間ニ侵入スル
ニ至レリ

屢々述フルカ如ク此本軍ノ何事ヲモ為サ、リシハ一ハ土軍總督ノ高齡ニ原因
セシナラン世人ノ評ニ因レハ此長キ日時間土軍ハ唯々煙ヲ喫シ豆茶ヲ飲テ以
テ經過セリト

註土耳其人ノ豆茶ヲ喫スルハ恰モ日本人カ煎茶ヲ嗜好シテ屢々喫飲スルニ
異ナラスト云フ

抑モ戰時軍隊ノ長時間徒然逸居スルハ志氣ヲ養成スルノ効能ヲ有セサルモノ

ナリ

蓋シ此老將軍ノ要塞ニ閉居兵ヲ持シテ動カサル理由ヲ答解スルモノ唯此ニ一
アリ即チ歴史上ノ戰例ニ基キシト謂フ是ナリ

今ヲ去ル凡ソ五十年前即チ千八百二十八年及二十九年ノ戰役ニ於テ土國ハ其

軍隊ヲ「シニュームラ」ニ集合シ以テ魯軍ノ「バルカン」山ヲ踰ユルヲ妨ケタリ

魯軍モ亦タ「シニュームラ」ヲ顧ミスシテ南進スル能ハス而シテ之ヲ畧取セント

セシモ神モ祟タサカリシ

然ルニ二十九年土軍ハ「シニュームラ」ヨリ西方ニ向テ出撃セシニ忽チ魯軍ノ爲

メニ大ニ敗ラレ魯軍ハ直ニ南進「アントリノツプル」ニ侵入スルニ及ヘリ

此戰例ニ因リ土軍ハ出撃ヲ試ムルノ意ナシ且ツ魯軍ハ容易ク「バルカン」山ヲ

踰ユル能ハスト志信セリ

然レモ此考案ハ時世ノ變遷ヲ顧ミサルモノナリ實ニ軍隊ノ員數モ昔日ニ比ス

レハ頗ル大ナリ四角要塞ハ五十年間ニ於テ此大兵ヲ入ル、ニ足ル如ク改良補
修セシニモ非ス且ツ此要塞ノ構築ハ近時ノ目的ニ適合スルモノニ非サルナ
リ

魯軍ノ「ダニューブ」川ヲ渡リ且ツ「バルカン」山ヲ踰ヘシノ報「コンスタンナ
ノッブル」ニ達スルヤ土國政府ニ於テ大臣ノ交送アリ即チ七月二十三日ノ戰闘

后魯將「グールユ」ノ尚ホ未タ「バルカン」山南方ニ在リシ時ナリ

土軍總督「アブナユルケリムパシヤ」モ亦タ其職ヲ免セラレ「メヘメーアリ」來

リ之レニ代ル

「メヘメーアリ」ハ普魯土ノ産ニシテ其初ノ名ヲ「デトロワー」ト稱ス其祖世々

佛國ニ家ス今ヲ去ル二百年前宗教ノ戰爭アリ此時亂ヲ避ケテ普國ニ逃ル父ハ

音樂師ニシテ家最モ貧「デトロワー」十六歳ニ及ヒ小船ノ下等水夫トナリ土京

「コンスタンナノッブル」ニ來ル偶々其親族ノ土國將校トナルアリ即チ此紹介

八月上旬ニ
於ケル土軍
ノ景況並ニ
新總督「メ
ヘメーアリ」

ニヨリ土國士官學校ニ入り宗旨ノ爲メニ「メヘメーアリ」ト改稱ス天資腦力アリ千八百五十三年少尉ニ仕セラレ翌年大尉ニ歴進ス土國ニ於ケル總テノ戦争ニ參與セリ總督ニ任セラレシ時年五十歳ナリ

「メヘメーアリ」ハ前年ヨリ「モンテチゴロ」鎮壓ノ軍隊ニツリ此際著シキ功績ナカリシモ今ヤ總督ノ任ヲ受ケタリ然ルニ四角要塞内ニハ同氏ヨリ古參ノ將

Mehemet Ali

Montenegro

官六七名アリ殊ニ同氏ハ外國ノ産ナルヲ以テ諸將官ハ同氏ノ節度ニ從フヲ欲セス此不幸ナル結果ハ「メヘメーアリ」一人ニ止マラス全土國ノ不幸トナレリ

Mehemet Ali

「メヘメーアリ」總督トナルヤ軍隊ニ改革ヲ施シ其軍ヲ二軍團ニ分テ「ラスグ

Mehemet Ali

Rasgr-

ラド」及ヒ「エスキナユマ」ヲ堅ク守備ス

Eski Djouma

「ラスグラド」ニ於ケル第一軍團ノ編成左ノ如シ

步兵三師團(各師團ハ步兵十六大隊) 騎兵六中隊砲兵四中隊

師團ニ連繫セサル軍隊

總計步兵五十七大隊騎兵七聯隊(四十二中隊)砲兵十四中隊ナリ

其他制外軍若干

此軍團司令官ハ「アハメー」ト稱スル偏固ノ將官ナリ

Ahmed-Evoni-Pasha

「エスキナユマ」ニ於ケル第二軍團ノ司令官「ハハツサン」公即チ埃及ノ皇族

Eski Djouma

Prince Hassan

ニシテ年二十四歳ナリ嘗テ獨京伯林ニ在リ僅ニ騎兵隊ニ屬セシノミ其他軍事教育ヲ受ケシ「ナシ」嘗テ父ノ軍隊ヲ率ヒ自國ノ内亂ヲ鎮定セントセシ「アリ

然レモ亂者ノ爲メニ破ラル

世人ノ知ル如ク埃及ハ土國ノ藩屬國タリ故ニ軍隊ヲ出スノ義務ヲ有ス第二軍

團ハ即チ土國軍隊ヲ増補スルニ埃及軍隊ヲ以テセシモノナリ

此軍隊ハ同シク三師團ニ分ツ又師團連繫外ノ兵員アリ之ヲ合スレハ總計左ノ如シ

步兵六十八大隊

騎兵十二中隊

砲兵十四中隊

「メヘメーアリ」ハ部下ニ六万ノ軍隊ヲ有ス然レモ將官中ニハ一モ頼ムヘキノ
人ナシ加シ「スレイマンパシヤ」及「オスマンパシヤ」モ素ヨリ「メヘメーア
リ」ノ指揮ヲ受クルヲ欲セス諸將官ノ意志如此「メヘメーアリ」如何ニ良計畫
ヲ建ツルト雖モ奈何トモスル能ハサルナリ

「メヘメーアリ」ノ計畫左ノ如シ

「スレイマンパシヤ」ハ先ツ「バルカン」山ニ向テ伴撃シ以テ魯軍ヲ成ルヘク此
方向ニ廢撃ヌ又其若干部隊ハ西方ニ於テ「バルカン」山ヲ踰エ「オスマンパシ
ヤ」援助ノ爲メ「プレブナ」ニ赴ク殘余ノ諸隊ハ東方ニ於テ「バルカン」山ヲ踰

エ四角要塞ノ本軍ニ合ス

此運動ハ可成速ニ施行セザル可ラス而シテ西ヨリハ「オスマンパシヤ」東ヨリ
「オスマンパシヤ」

ハ「メヘメーアリ」出テ、魯軍ノ側背ヲ衝突シ以テ魯軍増援兵ノ來着前光ツ之
ヲ撃破スルニアリ

此計畫ヤ可ナリ然レモ尚一層完全ナラシメント欲セハ「スレイマンパシヤ」ノ
軍隊一時「バルカン」ノ伴撃ヲ爲シタル后ハ總テ四角要塞ノ軍隊ニ合スルヲ要

ス如此セハ十万以上ノ軍隊ヲ一途ノ指揮下ニ使用シ得ルノ利益ヲ得シナラン

土軍若シ如此セシナラバ魯軍ハ實ニ兵略上危殆ノ位置ニ陥リシヤ必セリ何ト

ナレハ東ニ面シ「メヘメーアリ」ニ對抗スレハ其背后即チ退却路ハ「オスマン
パシヤ」ニ脅威セラレハナリ

「メヘメーアリ」ハ其計畫ヲ實行センカ爲メ屢々「スレイマンパシヤ」ヲ説ケリ

然レモ好結果ヲ得ス

「スレイマンパシヤ」ハ自己ノ軍隊ヲ随意ニ使用セント欲ス候テ左ノ計畫ヲ爲
ス

如ク峠ノ南麓ニアリ

同二十一日「シプカ」峠ヲ攻撃ス

八月十九日魯國第八軍團長ハ「ナルノウア」ニ於テ二個ノ報告ヲ得

其一 敵ノ大兵「ケザンリク」ニ來着ス

其二 「エレナ」ノ東ニアル我前哨ハ衆多ノ敵兵ニ攻撃セラル

之レニ因テ判断スルニ「ケザンリク」ヨリ來ル者ハ唯伴撃ヲ爲スノミニシテ

「スレイマンパシヤ」ハ首力ヲ以テ「バルカン」山ヲ東部ニ於テ踰ヘ「エレナ」ヲ

經テ「ナルノウア」ニ來襲スル者ナリト依テ豫備隊ヲ「チルノウア」ヨリ「エレ

ナ」ニ向テ派遣ス此援隊ハ「エレナ」ト「スタタリヤ」ノ線ニ至ル其兵員左ノ

如シ

步兵第十四團ノ第二旅團

獵兵四大隊

シプカ「峠」ニハ唯步兵四大隊ヲ増援兵トシテ送致セシノミ此特別豫備隊ノ増
加ニ因リ此峠ノ守備兵ハ左ノ員數トナレリ

步兵十二大隊

砲二十七門(此砲數中ニハ土軍ヨリ獲タルモノ亦算入セリ)

「ガプロウア」ヨリ「シプカ」村ニ至ルノ距離ハ二十吉米トス其間此峠ノ最高所

ヲ「ニコラス」山ト稱ス此海水面ヲ抜ク約千三百米突ナリ

「バルカン」山北ノ斜面ハ樹木繁茂シ到ル處通過スル能ハス

Balkan

「ニコラス」山ハ道路ニ接シテ西

St. Nicolas

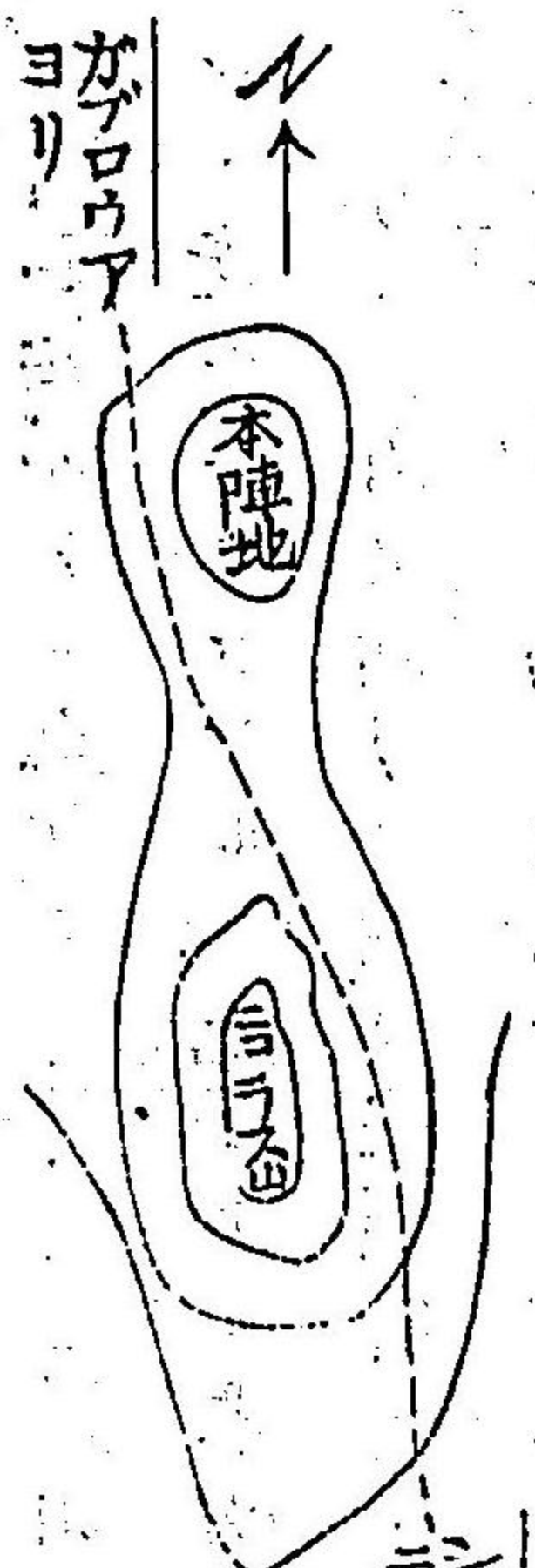
ニアリ此峠ヲ閉塞スルノ門戸ヲ

爲ス

道路ハ山ノ低キニ經始セスシテ

北ヨリ南ニ亘ル凸背上ヲ過ク山背上ニ二頂アリ南ナルヲ「ニコラス」ト稱シ北

St. Nicolas



ナルヲ本陣地ト稱ス

其中間小鞍部アリ北ヨリ「ニコラス」山ニ登ルハ易シ然レトモ之ニ反シ南方ハ殆ント登ルヘカラサルノ絶壁ナリ東南面方ヨリ西南面ヲ殊ニ基シトナス

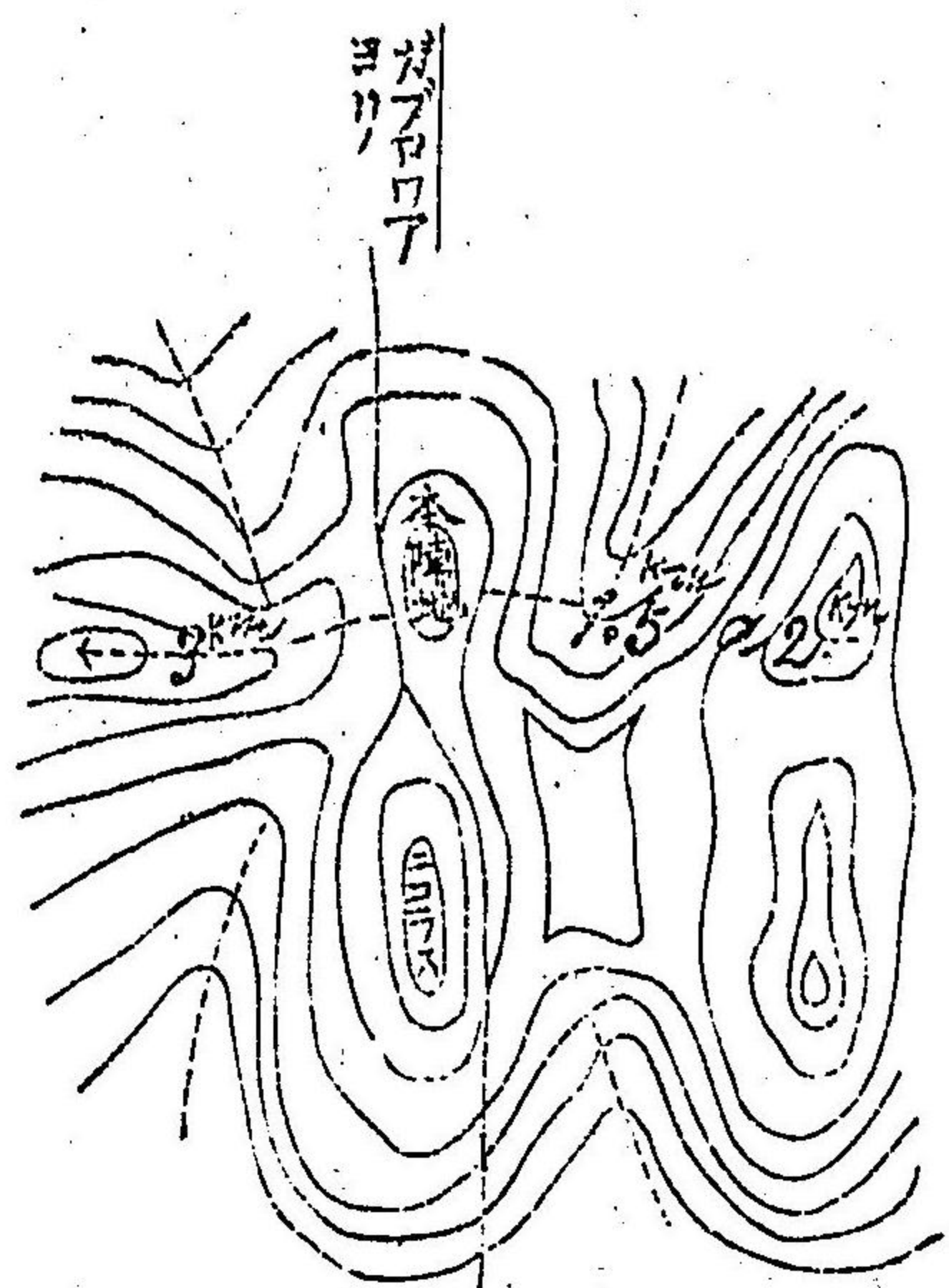
「ニコラス」山ノ南方ニ最モ緩傾斜ナル凸出部アリ然レトモ高原ナルニ非ス其下部又急傾斜ヲ爲ス山上ヨリハ「シプカ」村ヲ眼下ニ視ル即チ山頂ヨリ殆ント六千米ニアリ「シプカ」村ヨリ峠ニ登ルノ道路ハ甚タ困難ニシテ二十五度ノ登

傾斜ヲ爲スモノナリ又路幅狭小ニシテ其地点ニ非サレハ相遇フ車輪ノ互ニ過クルヲ許サス又「ニコラス」山頂ヨリ遠ク「トウシナヤ」河ノ低地ヨリ「ケザン

リ」ニ至ル迄瞰睥スルヲ得
地圖ニ因レハ「シプカ」村ヨリ峠ニ至ルハ四千米ナリ然レモ實際六千米余アリ之レニ因テモ亦其傾斜ノ度ヲ知ルニ足ル

「シプカ」村ヨリ「ケザン」ニハ良道アリ其距離十二千米ナリ

本陣地(北ノ山頂)ヨリ西ニ山背アリ西ニ至ルニ從ヒ漸ク高シ其最高部ハ本陣地ヲ距ル三千米ナリ且ツ魯軍ノ背右ニ通スル道路ヲ瞰射スルニ足ル之レニ反シテ南方ニハ死角多シ
又東ニ於テ南北ノ山背アリ「ニコラス」山ヨリ高シ一鞍部ニ因テ兩山背ヲ連絡ス



「ニコラス」山ノ周圍ニ四個ノ谷アリ各河流アリ深ク彎入ス
諸山ハ總テ樹木叢生ス
魯軍ハ「ニコラス」山ヲ占領シ此處ニ砲ヲ備フ此陣地ヲ本陣地ニ對シテ前陣地ト稱ス
東方ノ山背ニ對シテ魯軍ハ守

形ヲ為ス而シテ此所ニハ土軍ヨリ畧取セシ砲ヲ備フ
 西方ノ山背ニモ亦タ守備ヲ設ク
 東方ノ鞍部ハ前陣地及ヒ本陣地ヨリ共ニ制下スルヲ得
 東方ノ深谷ハ要塞ノ壕ノ如キ効用ヲ為シ敵ノ渡ル可ラサルモノナリ之レニ因
 テ見レハ「ニコラス」山ハ街道ニ對シテ頗ル堅固ノ陣地ト云フヘシ唯其欠点ト
 スル所ノモノハ東方ノ山背我陣地ヨリ高キニアリ魯軍ハ初メ此地ニ弱支隊ヲ
 送り防禦線中ニ加入セントセリ然レモ中間ニ深谷アリ交通ヲ斷絶セラル、ノ
 不利アルヲ以テ止ム
 魯軍ノ諸隊ハ東方ノ鞍部ニ幕營セリ
 以上ハ二十一日土將「スレイマンパシヤ」ノ攻撃ニ際スルマテ魯軍ノ採リシ配
 置ナリ
 八月二十一日土將「スレイマンパシヤ」ハ四十大隊ノ兵ヲ率ヒ「ニコラス」山ニ

ニコラス山

Suleiman Paşa

St. Nicholas

編者記
 此戰ニ於テ
 魯軍ハ「ニコラス」山
 ノ前方ニ砲臺
 數ヲ築キ
 砲ヲ發シテ
 魯軍ノ攻
 撃ヲ支フ
 得タリ

向テ正面攻撃ヲ行ヘリ即チ始メハ南方ヨリ次ニ西南及ヒ東南ヨリス然レモ土
 地固ヨリ堅固ナルヲ以テ勇戰奮闘之ヲ抜ク能ハス死傷頗ル多シ
 土軍ハ始ヨリ東ノ山背ニ砲ヲ登上スルヲ力メタリ
 二十一日ヨリ二十二日ニ亘ルノ夜魯軍ハ「ニコラス」山ニ砲臺ヲ築キ十門ノ
 砲ヲ以テ東南ニ對向セシム又正面ニハ野砲若干門ヲ備フ
 二十二日ニ於テ「スレイマンパシヤ」ハ更ニ激烈ノ攻撃ヲ為セリ
 「シプカ」峠ニアル魯軍ノ僅少ナル歩兵大隊及ヒ砲兵ハ前日ノ戦ニ多クノ彈藥
 ヲ消費セシヲ以テ此日ハ大ニ射撃ヲ節セサル可ラサルニ至レリ故ニ土軍ノ砲
 戰ニ對シテ應射スル能ハス土軍ノ歩兵攻撃ヲ始ムルニ至テ漸ク砲火ヲ開ク
 (魯軍ノ各砲ハ實ニ八十)土軍ハ數回激烈ノ突撃ヲ為セシモ皆功ヲ奏セス「スレ
 イマンパシヤ」ハ東西ノ兩山ニ軍隊ヲ集合ス
 Suleiman Paşa
 二十二日ノ夜土軍ハ攻撃砲臺ヲ築キ且ツ砲數ヲ増加ス翌二十三日ニ至リ三十

八門ノ砲ヲ以テ魯軍ノ陣地ニ發射セリ實ニ此射撃ハ魯軍ノ陣地ヲ掃蕩スルニ足ル殊ニ正面ノ射撃ハ八百米ノ距離ヲ以テセリ

「スレイマンパシヤ」ハ此砲撃ヲ以テ準備シタル後周圍ヨリ一齊ノ歩兵ノ突撃ヲ施行セリ實ニ此時土軍ノ勇氣ハ人ノ信用シ能ハサル所ナリ

魯軍勇氣モ亦タ土軍ニ一歩モ譲ラサルモノナリ實ニ土軍ノ激烈ナル砲火ト攻撃ヲ三日間連續セラレシニモ關ワラス又其豫備隊ハ使用シ盡シ彈藥糧食ノ欠乏セシニモ係ワラス能ク此陣地ヲ保持セシハ尋常軍隊ノ能ク爲シ得ル所ニ非サルナリ魯軍ノ最モ困難ヲ究メシハ水ノ欠乏ニアリシ

「スレイマンパシヤ」ハ未タ魯軍ヲ驅逐スル能ワス然レモ電信ヲ以テ「コンスタンチノプル」ニ報シテ曰ク魯軍ハ彈藥ト水ヲ欠ク故ニ翌夜ハ退去スルナラント

魯軍ノ最モ危急ナリシハ二十三日夜援兵ノ來着セシ時ニアリ

魯國第八軍團長「ラデツキー」ハ土軍ノ陽撃ニ因テ「エレナ」及ヒ「スタタリツ

ア」ノ線ニ誘出セラレタリ而シテ其地ニ達シ敵ハ全ク陽撃セシノミナルヲ知

ル之レト同時ニ「シプカ」ヨリ急報達ス故ニ廿一日「ナルノウア」ニ退キ二十二

日「シプカ」ニ向テ前進ス二十三日午后六時ニ於テ其先頭漸ク戰鬥地ニ達スル

ヲ得タリ即チ先ツ獵兵中隊三個ヲ送りシモ徒歩ニテハ機ニ後レンヲ恐レ格薩

兵ノ馬ヲ採テ之ヲ急行セシメタリ

此日魯軍ハ午后第五時迄「シプカ」峙ノ陣地ヲ固守セシモ神疲レ勢盡キ加フル

ニ彈藥モ亦將サニ費消セントス茲ニ於テ漸次右翼ヨリ退却ヲ始メ此峙ハ殆ン

ト土軍ノ有ニ歸セントセリ然ルニ此危急ナル瞬時ニ於テ土軍ノ左翼ハ不意ニ

魯軍ノ獵兵中隊ヨリ射撃セラル此ニ於テ土軍ハ魯軍ノ新鮮ナル兵團來リ援ク

ルト思惟シ遂ニ退却ス

二十四日朝ニ至リ「ラデツキー」ハ歩兵第十四師團ノ第二旅團及ヒ獵兵旅團ヲ

百六十九

率ヒ來援ス

此日「スレイマンパシヤ」ハ再ヒ「ニコラス」山ニ向テ勇ヲ鼓シ猛ヲ振ヒ攻撃セシモ亦功ヲ奏セス
Suliman Pacha *St. Nicolas*

二十五日ニハ魯軍ヨリ西方ノ山上ニアル土軍ヲ攻撃セリ土軍ハ此處ニ三線ノ壘ヲ築ケリ魯軍ハ其第一線ヲ略取ス然レモ夜間土軍ノ逆撃ニ會ヒ二十六日朝魯軍ハ之ヲ棄テ、退ク實ニ此退却ハ軍團長自ラ一師團半ノ兵力ヲ以テ之ヲ爲セシナリ

其後漸次ニ第九師團ノ半部第十四師團ノ第二旅團機兵及ヒ「ビユガリー」兵六大隊ヲ此地ニ集中セリ
Bulgaria

又其背后ニハ第十四師團ノ第一旅團近接シ來ル此隊ハ先キニ「セルウイ」ニ送りシモノナリ
Serbia

如此増加兵ノ來着スルニモ關ハラズ「シプカ」峠ノ土軍ハ尚ホ未タ去ラス
Schipla

然レモ「スレイマンパシヤ」ノ軍隊モ亦タ其力ヲ振ヒ盡セシヲ以テ激烈ノ攻撃ヲ爲ス「能ハス其首カ」ハ「シプカ」村ノ南ニ止ム
Suliman Pacha

「シプカ」峠
攻撃ノ略評

土將「スレイマンパシヤ」ハ「シプカ」峠ニ向ヒ五日間連續シテ恰モ狂セルカ如キノ攻撃ヲ數回復行セリ原來魯軍ノ占領スル陣地ハ侵入ス可ラサルモノナリ然ルニ土軍ハ之ヲ顧ミスシテ攻撃セリ故ニ其死傷ハ一万人ノ多キニ及ヘリ
Shipla

然レモ魯軍モ又三千五百人ヲ亡ヘリ
此戰爭ニ於テ魯土兩軍ハ非常ノ勇敢ヲ以テ戰鬪セリ殊ニ魯軍ノ糧食飲水ヲ欠キシニモ係ハラズ能ク其陣地ヲ保テシハ感歎ノ至リト謂フヘキナリ

土國軍隊ハ如此勇猛ヲ以テ攻撃セシモ其功ヲ奏スル能ハサリシハ極メテ遺憾ト云フヘシ然レモ「スレイマンパシヤ」ハ全ク狂氣ノ舉動ヲ爲セシト評スルノ外他ナシ何トナレハ其攻ム可ラナルヲ攻ム是ナリ故ニ帝ニ其目的ヲ達セサルノミナラス徒ニ部下ノ勇兵ヲシテ空シク黄泉ニ怨ヲ含マシム是レ攻撃ノ區署
Suliman Pacha

當ヲ失シ他ニ北方へ通過スルノ地点アルニ注目セサリシニ因ルナリ
役後土政府ハ「スレイマンパシヤ」ノ作戦行爲ヲ査覈シ軍律ニ問ハントセシモ
舊知ノ庇蔭ニヨリ免ル、ヲ得タリ
Suleiman Pasha

千八百七十七年 魯土戰史筆記第八回 明治廿一年四月十三日

此戰役ニ於テ魯國ノ爲セシカ如キ不正ナル宣戰ノ廣告ハ古來嘗テ見サル所ノ
モノナリ其基因スル所ハ土國政府カ他國ノ關涉ヲ忌避セシニアリ
攻撃軍ニシテ此年七月末ヨリ八月ニ至ル間ニ於ケル魯軍ノ如キ不幸ノ景況ニ
陥リシモノ亦稀ナリ而シテ魯軍ノ此不幸ヲ免レシハ唯獨リ土軍ニ對シテノミ
之ヲ爲スヲ得シナリ
之ヲ免レシ所以ハ土國將官ノ不和ニアリ己ニ述フルカ如ク土將「スレイマン
パシヤ」ハ「シプカ」峠ノ西或ハ東ニ於テ「バルカン」山ヲ踰エ本軍ニ協力スル
「シプカ」*Schipla* 峠ノ衝突セリ而シテ八月二十一日ヨリ
「シプカ」*Schipla* 峠ニ至ル五日五夜間斷ナク之ヲ攻撃セシモ其目的ヲ果ス能ハズ且ツ
魯軍ノ弱支隊ハ九死一生ナル最後ノ一瞬時ニ於テ增加兵ヲ得ルニ至レリ茲ニ
於テ「スレイマンパシヤ」ハ此攻撃ノ難キヲ悟レリ然レモ尚ホ未ダ「メヘメ」
Suleiman Pasha *Mehemet*

アリ」ニ從ヒ俱ニ戰フヲ欲セス
「シブカ」峠東方ノ山背及ヒ西方樹木アルノ高地ハ尚ホ土軍ノ占有スル所タリ
殊ニ西方ノ高地ハ魯軍背後ノ交通路ヲ制ス魯軍之レカ爲メ大ニ苦シム魯軍ハ
糧食彈藥及ヒ飲用水ヲ背後ヨリ取ラサルヲ得ス而シテ其運輸ヲ爲スハ唯僅ニ
夜間ニ於テ爲シ得ルノミ

「スレイマンパシヤ」ハ二十七日ニ於テ更ニ「シブカ」峠ノ攻撃ヲ試ミタリ此時
Suleiman Pacha
ニ當テ魯將「ラデツキー」ハ二旅團ノ増加兵（第十一軍團及ヒ魯國ヨリ來）ヲ有ス
故ニ其兵員ハ二十五大隊ニ及ヘリ
Indelzky

「シブカ」ノ東方ニ山道アリ魯軍ハ歩兵四大隊ヲ以テ之ヲ守備ス
Schipka
又「トラブナ」峠ハ魯軍一大隊ヲ以テ守備ス
「Prawna」
「ガブロウア」ニハ四大隊アリ
Gabrowa

故ニ「シブカ」附近防禦ノ爲メニハ魯軍ハ歩兵三十四大隊及ヒ多數ノ砲兵ヲ使
Schipka

用ス

「アハメ」ノ決

四角要塞内ニアル土軍總督「マヘメーアリ」ハ初メ「スレイマンパシヤ」ノ來リ
合スルヲ待テ後々共ニ攻勢ニ轉セント考定セリ然レモ八月上旬ニ至リ其企謀
ノ遂ク可ラサルヲ知ルヤ獨リ部下ノ軍隊ノミヲ以テ攻撃スルニ決ス即チ「ロ
ーム」河ノ地區ニ向テ攻撃ヲ始ム
Lom

「ローム」河
孟ノ景狀

「ローム」河ノ地區ハ左ノ如シ
Lom
「シストウア」ノ下流ニ於テ「ダニユーブ」川ニ朝スル「ジャントラ」河ハ「ビエ
Sistova Danube
ラ」ニ浴フテ流ル「ビエラ」ニ於テ此河ヲ渡レハ「バニツカローム」河アリ下流
Biela
ハ「カラローム」ニ合ス「カラローム」ハ「ヤスラル」附近ヨリ北流ス是黒「ロー
Karaloum Yaslar
ム」ナリ此東ニ「マクローム」アリ是レ白「ローム」ナリ白「ローム」河ノ上流ニ
Akrom
ハ「ラスグラド」ヨリ「ユスタンツマ」ニ流ル一小支流アリ
Rasgrad Kostantza
「ローム」河孟ニハ右ノ四川アリ而シテ白「ローム」河ノ上流「ラスグラド」附近
Lom Rasgrad

ハ幅廣シト雖^ニ下流「^{Nisova}ニソヴァ」ヨリ本「^{Lom}ローム」河ニ入ル点ノ近傍ハ殆ント鉛直ノ岸ヲ爲ス此川上流ハ元來無水ナリ然レ^ニ下流ニ至テ軍事上ノ地區ヲ成形成ス

「^{Akion}アシローム」白ハ平均三百乃至五百歩ノ谷地ナリ而シテ其某部分ハ沼地ヲ爲ス其ノ河床ハ甚タ狭シ故ニ軍隊ノ運動上ニハ甚シキ障碍ヲ爲サスト雖トモ自ラ一個ノ地區ヲ成ス

「^{Karlon}カラローム」黒ハ四川中最大ナルモノニシテ且ツ大ニ彎曲ヲ爲ス其幅「^{Yasar}ヤサル」ト「^{Popkieni}ポプキエーイ」ノ間ニ於テハ約二百歩「^{Opaka}オパカ」ト「^{Kaceljevo}カセルシエウチ」ノ間ニ於テハ約七百歩ナリ此川「^{Kaceljevo}カセルシエウチ」ヲ附近ニ在テハ軍隊ノ運動ヲ障害セスト雖トモ防禦ノ地區ヲ成ス

「^{Danickalon}バニツカローム」ノ下流「^{Kaceljevo}カセルシエウチ」附近ハ最モ狭谷ニシテ其河床ノ幅ハ十乃至十五歩ヲ有スルノミ此川多クノ點ニ於テ徒渉スルヲ得又處々木橋ノ

架設セルアリ此川三支流ヲ有ス其最大ナルハ最東ノモノニシテ「^{Tchekovna}チエルクウナ」川トナス

「^{Banickalon}バニツキカローム」ハ用兵上大ナル關係ヲ有セス然レトモ河谷ニハ樹木多ク兩岸ハ概テ峻ナリ「^{Tchekovna}チエルクウチ」附近ニ於テハ歩騎兵ハ容易ニ通過シ得ルト雖トモ砲兵ニ在テハ道路アル點ノ外渡河スルヲ得ス

四川集合シテ本「^{Lom}ローム」川ヲ爲スヤ其下流ハ皆高サ百米ノ峻岸ヲ爲ス故ニ歩騎兵ハ道路ノ通シアル點ニ於テノミ渡河スルヲ得砲兵ノ如キニ至テハ先ツ道路ヨリ修理スルニ非サレハ河岸ニ達スルヲ得ス

屢々述フルカ如ク魯國第八軍團ノ南進スルヤ皇太子ノ軍ハ東方ニ向テ前進ス而シテ其前兵ハ「^{Osman-Buzur}オスマンブズール」^{Eski-Djumu}「^{Basgrad}エスキジウム」及ヒ「^{Basgrad}ラスグラト」ノ附近近前進セリ此占領面ハ五万ニ充タサル軍隊ノ爲メニハ實ニ過廣ト云フヘキナリ

八月下旬
九月下旬
至兩國
軍ノ河
運動

後ナ「アレブナ」及ヒ「バルカン」山南方ノ敗報並ニ四角要塞近傍ヨリノ報告ヲ得ルニ及テ其線ヲ退縮スルヲ要スルニ至レリ是亦タ己ニ速ヘシカ如シ

八月初旬ニ於テ魯土兩國ノ軍ハ互ニ「ローム」河ノ兩岸ヲ偵察ス

魯軍ハ偵察ニ因テ土軍凡ソ六万人「エスキキエーマ」ト「ラスグラド」ノ間ニ現在スルノミナラス「ルーチエック」要塞ノ守兵ハ二万人ニ増加セシチ知ル

八月二十一日魯國第十三軍團ノ混成旅團ハ「エスキキエーマ」ニ向テ進ミ此近傍高地ニアル土國ノ前兵ヲ撃退セリ然レモ二十二日土軍ノ逆撃ニ會フテ退ク其日再ヒ魯軍ハ此地ヲ略セシモ次夜ニ於テ全ク之ヲ放棄セサル可ラサルニ至レリ而シテ魯軍ハ「ポプキユーイ」ニ退キ土軍ハ「ヤスタル」ヲ占領ス

八月三十日魯軍前哨ハ「サヂナ」ヲ失ヒ「カラハザンキユーイ」ニ退ク此處ニ於テモ亦タ土軍ノ攻撃ヲ受ク魯軍ハ力戰ノ后其夜「ガゴウチ」ニ退ク

此間土軍ノ一旅團ハ「ハダルユイ」ニ向テ攻撃ヲ試ム魯軍支隊ハ砲兵二中隊

Popkieu Popkieu

魯國第十三軍團ノ右翼ナリ

此日魯軍ハ六百人ヲ失フ

翌三十一日魯國第十三軍團ハ西方即チ「ナエルキユーイ」及「ナエルコウナ」ニ向テ退ク又第十二軍團ノ右翼ハ「アブラウア」及「カセルシエウチ」ニアリ

「メヘメーアリ」ハ其右翼ヲ「サバカ」ニ迄前進セシム又「ルーチエック」ニアル土軍ノ戍兵ハ南方「カヂキユーイ」ニ向テ出撃セリ然レモ此出撃ハ其功ナク土軍ノ退却ヲ以テ終ル

Kadikieu

九月四日ニ於テ土軍ハ凡一支隊ヲ以テ再ヒ「カヂキユーイ」ニ向ヒ出撃セリ然レトモ魯國第十二軍團ノ歩兵四大隊騎兵八中隊砲兵三中隊ヨリ成ル支隊ノ爲メニ撃退セラル魯軍二百人ヲ失フ

翌五日「メヘメーアリ」ハ己ノ右翼ヨリ二師團半ノ兵員ヲ以テ「ソレニクカセ

ルシエウチ」及ヒ「アブラウア」ニ向ヒ攻撃ス魯國第十二軍團ハ第三十三師團
及ヒ騎兵聯隊ヲ此地ニ集合ス

十二時間戦闘ノ后土軍ハ遂ニ「カセルシエウチ」ヲ略取ス然レトモ「カラロ
ム」(黒)左岸ニ於テハ未タ一モ堅固ナル障地ヲ占領スル能ワス

此日魯軍ハ千三百人ヲ失フ
土軍ノ左翼ハ「カラローム」河ノ左岸「ボアキユーイ」附近ニアリ是レ一日前魯
國第十三軍團ノ占領セシ地ナリ茲ニ於テ魯國第十二軍團ハ防禦工事ノ設ケア
ル左ノ障地迄退却スルニ至レリ

「ダモジラ」「トルステニク」及ヒ「メナカ」ノ線
而シテ前哨ハ最西ナル「ローム」河畔ニ出セリ

第十三軍團ハ「バニツカローム」ノ左岸ニ退キ其右翼ヲ「コプロウイツア」ニ置
ク而シテ前哨ハ河ノ右岸「シナンキユーイ」ニ駐ム

右側警戒ノ爲メ魯軍總督ハ歩兵一旅團騎兵一旅團及ヒ砲兵一中隊ヲ増加ス
魯國內地ヨリ新ニ來リシ第二十六師團ハ皇太子ノ軍ニ編入セラル而シテ「コ
プロウイツア」ニ陣ス

九月二十一日魯軍ノ支隊ハ「ナエルキユーイ」ヨリ土將「メヘメーアリ」ノ攻撃
ヲ受ク此支隊ノ二十六師團ト第十三軍團ノ若干部隊ヨリ成ル其兵員左ノ如
シ

- 步兵十二大隊
- 騎兵八中隊
- 砲四十六門

「メヘメーアリ」ノ軍隊ハ九月十四日ニ於テ己ニ「シナンキユーイ」迄前進シ
「メニツカローム」ニ浴フテ魯軍ニ對シ展開セリ
此戦闘間ニハ降雨多ク爲メニ軍隊ヲシテ大ニ困難ナラシメタリ且ツ土軍輜重

ノ編成ハ作戰ノ能力ヲ有セス加之ナラス下級指揮官ハ概テ傲慢ニシテ「メヘ
 ムーアリ」ヲ怨望シ之レニ服従スルヲ屑トセス如此困難ノ景況ニ在テ「メヘム
 Mehemet Ali」ハ九月二十一日「チエルキユーイー」ノ攻撃ヲ決行スルニ至レリ
 此攻撃ニハ三師團ヲ使用スルノ豫定ナリシ
 實ニ此攻撃ニシテ若シ功ヲ奏セハ土軍ハ同時ニ「ナルノウア」及ヒ「ビエラ」ヲ
 脅威スルヲ得シナラン已ニ知ル如ク「ビエラ」ハ皇太子ノ軍又「ナルノウア」ハ
 第八軍團ノ根據地ナリ
 然ルニ攻撃ノ際土軍ノ一師團ハ「メヘムーアリ」ニ采會セス茲ニ於テ已ヲ得ス
 二千ノ人ヲ損失シタル后土軍ハ「チエルキユーイー」ノ攻撃ヲ停止セサル可ラサル
 ニ至レリ
 此日魯軍ハ五百人ヲ失フ實ニ此攻撃ハ魯軍ノ爲メニ最モ危険ナリシナリ
 九月二十五日魯軍ハ其前方ニ全ク土軍ノ跡影ヲ見サルニ至レリ魯軍ハ事ノ不

意ナルニ吃驚セリ推想スルニ多分「メヘムーアリ」ハ其部下ノ將士ト事ヲ俱ニ
 スルニ倦ミ「ラスグラド」及ヒ「エスキチユーマ」ニ退却セシモノナラン
 魯國第十三軍團ハ嚴密ナル注意ヲ以テ「ポプキユーイー」及「ヤスラル」ニ至ル迄
 土軍ヲ追撃ス
 第十二軍團ハ「ダモシラ」及ヒ「メチカ」ニ駐止ス
 此ニ至テ「メヘムーアリ」ノ攻撃運動ハ全ク廢止ス實ニ「メヘムーアリ」ハ一致
 ノ合力ヲ以テ勇猛ノ攻撃ヲ爲ス能ハサリシカ爲メ終ニ魯軍ヲシテ危急ヲ免レ
 シメタリ
 此時ニ當テ魯軍ハ最大緊要ナル「プレブナ」第三ノ敗報ヲ得タリ
 是ヨリ先キ上將「オスマンパシヤ」ハ「プレブナ」附近ニ益々防禦ノ工事ヲ爲ス
 而シテ未タ出撃ヲ爲サス此間專ラ「ソロヤ」ヨリ増兵及ヒ糧食ヲ取レリ「プレブ
 ナ」ト「ソロヤ」間ニハ「サルクハニ」ヲ過クル所ノ良道アリ常ニ之ヲ用ユ
 Sophia Orhanie

「プレブナ」
 第三回ノ攻
 撃
 第四號圖參
 照

「チンスマンパシヤ」ハ一師團ヲ「ロウマツ」ニ差遣セリ此師團モ亦々同處附近ニ於テ工事ヲ施ス
Osman pachla Lovratz

八月六日督將「スコベレフ」ハ「セルウイ」ヨリ「ロウマツ」ニ向テ偵察ヲ行ヒシモ土軍ノ爲メニ撃退セラル
Skobelef Solvi Lovratz

「ブレブナ」ニ對スル魯軍ノ本營ハ「ゴルニーストウデン」ニ在リ此地ハ「ビエラ」ヨリ「ブールガレニ」ヲ經テ「ブレブナ」ニ至ル道路ニ接ス(第三号圖ニアリ)
Plevna Boulgareni Plevna Gor. Studen Bie

此間魯國ヨリ第二第三師團及ヒ獵兵第三旅團(四大隊ヨリ成ル)來着ス此兵ハ悉ク「セルウイ」ニ向テ前進ス是レ西ハ「チスマンパシヤ」ニ對シ又南ハ「シプカ」
Selvi Osman pachla Schip

カ「峠」ノ方向「スレイマンパシヤ」ニ對シテ警戒センカ爲メナリ然レドモ「スレイマンパシヤ」ハ峠ニ向テ無益ノ攻撃ヲ爲シ且ツ彼レ己ニ多クノ兵ヲ失ヒシヲ知ルヲ以テ此兵ノ大部ヲ以テ「チスマンパシヤ」ヲ攻撃セント欲ス之レニ用
iman pachla Osman pachla

ユル兵員左ノ如シ

歩兵二十六大隊

騎兵十五中隊

砲九十門

九月一日右ノ魯軍支隊ハ「チスマンパシヤ」ノ右翼「ロウマツ」ヲ攻撃セントス其目的トスル所ハ土軍ノ守備スルモノヲ撃退シ「ブレブナ」ト「ソロヤ」ノ連
Osman pachla Lovratz Plevna Sophia

絡線ヲ脅威シ且ツ南方ヨリ「ブレブナ」ヲ包圍スルニアリ又「シプカ」峠ニアル我軍隊ノ右翼ニ於テ「ソロヤ」ニ向テ運動シ以テ之ヲ濬接スルニアリ
Sophia Schipka

八月三十一日「チスマンパシヤ」ハ東方ニ向テ出撃ス
Osman pachla

此時ニ當リ「ブレブナ」正面ニハ魯軍及ヒ「ルーマニ」國ノ軍已ニ集中シ居レリ而シテ左ノ如ク占陣ス
Plevna Roumanie

右翼
「ルーマニ」國第四師團
「ニコポリス」ヨリ「ニコポリス」ヲ經テ「ブレブナ」ニ至ル道路「ヴィン」川ノ中間
Roumanie Nicopolis Bryslan Vid

中央

魯國第九軍團 「ニコボリ」ヨリ「プリスタン」ヲ經テ「プレブナ」ニ至ル道路ト「フルガレニ」ヨリ「プレブナ」ニ至ル道路(此道ヲ含有ス)トノ中間

左翼

魯國第四軍團 「ブールガレニ」ヨリ「プレブナ」ニ通スル道路ト「ロウアツツ」

騎兵ノ前哨ハ「カリソウア」「グリウイツア」「ラジシエウチ」「トウチエニツア」及ヒ「ボコット」ノ線ニアリ
Kalysovot Grivitz Radischeu Toutschenitz

「ナスマン」シヤ」ノ出撃ハ歩卒二万八千人騎士一千騎砲四十門ヲ以テ魯國第四軍團ノ正面即チ「スガレウイツア」及ヒ「ペリシヤ」ニ向テセリ然レモ此方ヨリ魯國第九軍團ノ來リ接クルニ及ンテ「ナスマン」シヤ」ハ退却ス此日魯軍ノ死傷千百人
Osman pachas Sellevitz Pelischat Osman pachas

「セルウイ」ヨリ「ロウアツツ」ニ進ムヘキ魯國軍隊ハ命令ノ如ク運動シ九月一日及ヒ二日ニ於テ「ロウアツツ」ニ對スル高地ニ展開シ三日ニ於テ攻撃ヲ
Selvi Lowaltz Lowaltz

施行ス而シテ此地ニアル土軍ノ一師團ヲ擊退ス土軍ハ西南「ミクレン」ニ退ク此
Mitke

「ナスマン」シヤ」ハ其右翼即チ「ロウアツツ」ニ脅威ヲ受ルヤ自ラ兵ヲ率ヒテ
Osman pachas Lowaltz

シテ赴援ス然レトモ其來着ハ四日ニシテ已ニ戦闘ノ後ナリシ故ニ暫時絶撃ノ
後復タ「プレブナ」ニ退ク
Plevna

魯軍ハ歩兵一旅團砲兵三中隊ヲシテ「ロウアツツ」ヲ留守セシメ他ハ直ニ「プレブナ」ニ向テ前進ス即チ五日ニ於テ其左翼ハ「ボコット」ニ達ス
Lowaltz Bogot

此間「ルーマニ」國侯ハ自國ノ兵二師團及ヒ多クノ騎兵ヲ以テ來リ「プレブナ」
Roumanie Plevna

附近ニアル魯國及「ルーマニ」國兩軍ノ指揮ヲ執ル
Roumanie Plevna

茲ニ於テ「プレブナ」攻撃軍ハ左ノ員數ヲ爲セリ
魯軍歩兵六十四大隊(四万人)
「ルーマニ」軍歩兵三十八大隊(二万人)
Roumanie

右ノ外騎兵四十八中隊野砲三百二十五門十五「サンナ」攻城砲十二門

總計約七万五千人

之レニ對峙スル土軍ハ約五万人ナリ

已ニ述ヘシカ如ク此日土軍總督ハ四角要塞ヨリ魯軍ノ左翼ヲ脅威セリ故ニ魯

軍總督ハ速ニ西方「サスマンパシヤ」ノ軍隊ヲ擊破シ然ル後軍ヲ轉シテ更ニ東

方皇太子ノ軍ヲ援助セント欲ス

「プレブナ」附近ニ増援兵來着スルヤ攻撃軍ノ配置ハ左ノ如クナレリ

「プレブナ」附近ニ増援兵來着スルヤ攻撃軍ノ配置ハ左ノ如クナレリ

「プレブナ」附近ニ増援兵來着スルヤ攻撃軍ノ配置ハ左ノ如クナレリ

「プレブナ」附近ニ増援兵來着スルヤ攻撃軍ノ配置ハ左ノ如クナレリ

「プレブナ」附近ニ増援兵來着スルヤ攻撃軍ノ配置ハ左ノ如クナレリ

「プレブナ」附近ニ増援兵來着スルヤ攻撃軍ノ配置ハ左ノ如クナレリ

「プレブナ」附近ニ増援兵來着スルヤ攻撃軍ノ配置ハ左ノ如クナレリ

「プレブナ」附近ニ増援兵來着スルヤ攻撃軍ノ配置ハ左ノ如クナレリ

「プレブナ」附近ニ増援兵來着スルヤ攻撃軍ノ配置ハ左ノ如クナレリ

「プレブナ」附近ニ増援兵來着スルヤ攻撃軍ノ配置ハ左ノ如クナレリ

「プレブナ」附近ニ増援兵來着スルヤ攻撃軍ノ配置ハ左ノ如クナレリ

「プレブナ」附近ニ増援兵來着スルヤ攻撃軍ノ配置ハ左ノ如クナレリ

「プレブナ」附近ニ増援兵來着スルヤ攻撃軍ノ配置ハ左ノ如クナレリ

「プレブナ」附近ニ増援兵來着スルヤ攻撃軍ノ配置ハ左ノ如クナレリ

「プレブナ」附近ニ増援兵來着スルヤ攻撃軍ノ配置ハ左ノ如クナレリ

「プレブナ」附近ニ増援兵來着スルヤ攻撃軍ノ配置ハ左ノ如クナレリ

「プレブナ」附近ニ増援兵來着スルヤ攻撃軍ノ配置ハ左ノ如クナレリ

「プレブナ」附近ニ増援兵來着スルヤ攻撃軍ノ配置ハ左ノ如クナレリ

「プレブナ」附近ニ増援兵來着スルヤ攻撃軍ノ配置ハ左ノ如クナレリ

「プレブナ」附近ニ増援兵來着スルヤ攻撃軍ノ配置ハ左ノ如クナレリ

「プレブナ」附近ニ増援兵來着スルヤ攻撃軍ノ配置ハ左ノ如クナレリ

「プレブナ」附近ニ増援兵來着スルヤ攻撃軍ノ配置ハ左ノ如クナレリ

「プレブナ」附近ニ増援兵來着スルヤ攻撃軍ノ配置ハ左ノ如クナレリ

「プレブナ」附近ニ増援兵來着スルヤ攻撃軍ノ配置ハ左ノ如クナレリ

「プレブナ」附近ニ増援兵來着スルヤ攻撃軍ノ配置ハ左ノ如クナレリ

「プレブナ」附近ニ増援兵來着スルヤ攻撃軍ノ配置ハ左ノ如クナレリ

「プレブナ」附近ニ増援兵來着スルヤ攻撃軍ノ配置ハ左ノ如クナレリ

「プレブナ」附近ニ増援兵來着スルヤ攻撃軍ノ配置ハ左ノ如クナレリ

「プレブナ」附近ニ増援兵來着スルヤ攻撃軍ノ配置ハ左ノ如クナレリ

「プレブナ」附近ニ増援兵來着スルヤ攻撃軍ノ配置ハ左ノ如クナレリ

「プレブナ」附近ニ増援兵來着スルヤ攻撃軍ノ配置ハ左ノ如クナレリ

「プレブナ」附近ニ増援兵來着スルヤ攻撃軍ノ配置ハ左ノ如クナレリ

魯國第九軍團ハ「グリウイツァ」村ヲ占領ス此村落ハ土軍ノ有スル最大角面堡ノ前方ニアリ

Griviza

「ロウアツ」ヨリ來リシ魯國軍隊ハ土軍ノ有スル二個ノ角面堡ニ對スル丘岡ヲ占ム此丘岡ハ土軍之ヲ略取セサル可ラス然レモ土軍ハ五百人ヲ失フテ而シテ之ヲ得ス

Lowitz

八日魯軍ハ「クリツシン」ニ前進ス此高地ハ前回ノ攻撃ニ際シ魯將「スコベレフ」一大隊ノ兵ヲ以テ土軍ノ豫備隊ト激戦セシ地ナリ今回ノ戦闘ニ在テハ魯

Krischin

Skobelief

軍ハ歩兵八大隊騎兵三中隊砲兵四中隊半ヲ以テ戰フ

此高地ニ縁岡ト稱スルモノアリ頗ル要地トナス何トナレハ土軍豫備隊ノ位置ヲ制シ得レハナリ此處ニ於テ頗ル激戦アリ

Montagnes Vertes

魯將「スコベレフ」ハ初メ五大隊ノ兵ヲ以テ此高地ヲ占ム然ルニ土軍ノ逆撃ヲ蒙リ僅ニ其南部ノミヲ保有スルヲ得タリ此戰ニ於テ「スコベレフ」ハ九百人ヲ

Skobelief

Skobelief

失フ土軍ハ九日十日ニ於テ更ニ二回ノ逆撃ヲ行フ第一ノ逆撃ニ際シテハ魯軍

ハ「ロウアツ」ヨリ來リシ軍隊悉皆ヲ以テ抗戦ス十日ニ於ケル第二逆撃ニ對

Lowitz

シテハ魯國第四軍團ノ一旅團戰ニ參與スルヲ得タリ

此運動間「プレブナ」ノ前面ニ於テハ間斷ナク砲撃ヲ爲セリ

Plevna

如此五日間連續砲撃ノ后九月十一日ニ於テ諸方ヨリ突撃ヲ始ム

右翼ノ騎兵ハ「リベン」ヨリ前進シ「ドルニードウブニアク」ニ於テ「ソヒヤ」ニ

Riben

Dolny Doubniak

Sophia

通スルノ道路ヲ斷絶ス

實ニ此突撃ハ午后三時ナリ即チ諸隊ハ左ノ点ニ向フ

一 右翼ニ於テ「ルーマニ」軍及ヒ魯國第九軍團ハ最大ナル角面堡

Romanie

一 中央ニ於テ第四軍團ハ「ラヂシエウチ」

Radischevo

一 左翼ニ於テ「スコベレフ」ハ「クリツシン」

Skobelief

Krischin

前回ノ攻撃ニ於テ「ラヂシエウチ」ハ魯軍一旦之ヲ占領シタル後チ土軍ノ爲メ

Radischevo

ニ撃退セラレシノ地ナリ然ルニ今回ハ非常ノ損害ヲ蒙リシニモ關セズ之レヲ略取スルヲ得サリシ

之レニ反シ「グリウイツア」附近ノ最大ナル角面堡ハ之ヲ占領スルヲ得タリ是レ前攻撃ノ際ニハ略取シ得サリシモノナリ

魯將「スコベレフ」ハ左翼「クリツシン」ニ於テ二個ノ野堡ヲ畧取ス然ルニ十二日ニ至リ土將「オスマンパシヤ」ハ其首力ヲ以テ之ヲ逆襲セリ是レ此地ハ土軍

ノ豫備隊ヲ射撃シ得ルヲ以テ土軍ノ爲メニハ最緊要ノ地ナレハナリ又北面ニ在ル魯國及ヒ「ルーマニ」ノ軍隊ハ「オスマンパシヤ」ヲシテ「クリシン」地方

ニ其兵力ヲ專用シ得ルノ自由ヲ妨クル能ワサリシナリ

「スコベレフ」將官ハハ大隊ノ兵員ヲ以テ殆ント入カノ企テ及フ可ラサル如キ抵抗ヲ爲セリ然レ厄後援ノ兵ヲク終ニ此高地ヲ土軍ノ手ニ委テタルノミナラ

ス彼ノ線岡ヲモ保守スル能ハサルニ至レリ

編者記ス此
日魯土兩軍
ハ各共五分
一ヲ死傷ス

如此景狀ニシテ魯軍ハ九月十二日ニ於ケル第三ノ攻撃ヲモ仕遂ケルヲ得ス五日間砲撃ヲ以テ準備シタル後唯僅ニ「グリウイツア」附近ノ角面堡一個ヲ畧取シ得シノミ此日魯軍ノ死傷一万六千人土軍モ亦一万人ヲ失フ

土軍ハ尚ホ「ソビヤ」ヨリ増援兵及ヒ糧食ヲ取ルヲ得タリ

魯國及ヒ「ルーマニ」國ノ連合軍ハ「ブレブナ」ヲ略取スルヲ腕力ヲ以テスルヲ断念セリ故ニ長圍ヲ爲スニ決ス然レモ魯國內地ヨリ増加兵ノ來着セサル間

ハ「ブレブナ」西方ノ面ハ唯騎兵ヲ以テ僅ニ包圍スルヲ得ルノミ此目的ノ爲メ

兩國連合ノ騎兵五十中隊及ヒ三十門ノ砲兵ヲ「ドルニードウブニアク」附近

ニ差遣ス然レモ此騎兵ハ「ソビヤ」ヨリ「ブレブナ」ニ進來スル軍隊ヲ妨碍スル能ワサリシ

魯軍總督ハ此時ニ至ルモ尙未タ一般ノ考察ヲ攻撃ノ策ニ取ラント欲セリ

此間土將「スレイマンパシヤ」ハ更ニ「シブカ」峠ノ攻撃ヲ企ツ己ニ知ル如ク峠

土將「スレイマンパシヤ」ハ更ニ「シブカ」峠ノ攻撃ヲ企ツ己ニ知ル如ク峠

左右ノ高地ハ土軍ノ有タリ而シテ絶エス魯軍背後ノ連絡ヲ妨碍ス
 此休戦間魯土両軍ハ各其陣地ニ工事ヲ施ス而シテ土軍ハ其陣地ヨリ絶エス魯
 軍ノ陣地ヲ射撃ス之レカ爲メ魯軍ノ死傷スルモノ毎日四十人
 「スレイマンパシャ」ハ更ニ侵襲ヲ行ワシカ爲メ三千人ノ壯兵ヲ募レリ
Suleiman pasha
 抑モ土耳其國ノ宗旨(マホメット宗)ニ在テハ宗敵ノ爲メニ倒ル、ヲ以テ無上
 ノ榮譽トナス土國人民ハ此戦争ヲ以テ宗旨戰ト思考ス故ニ此壯兵ハ此無限ナ
 ル幸福ヲ得シカ爲メ身命ヲ犠牲トナシテ無比ノ勇戦ヲ爲サント欲セリ
 「スレイマンパシャ」ハ此壯兵ヲ三分シ各一千人ノ縱隊トナス
Suleiman pasha
 九月十七日此三縱隊ヲシテ「ニコラス」山ノ南面、西南及ヒ東南ノ面ヨリ突撃
Senioulas
 セシム此各縱隊ノ背後ニハ歩兵各六大隊續行ス
 南面ヨリ進ミシ壯兵ノ縱隊ハ午前六時「ニコラス」山ノ麓ニ達ス依テ急ニ魯軍
Senioulas
 ノ前哨ヲ襲ヒ之ヲ退ケ更ニ進テ魯軍ノ野堡ヲ侵襲ス之レニ續行スル歩兵大隊

ハ系堡攻撃ス

東南ヨリ進ミシ縱隊ハ魯軍ノ本陣地ニ向テ攻撃ス而シテ其壯兵ハ野堡ヲ侵襲
 セシモ之レニ續行スル歩兵六大隊ハ魯軍ノ爲メニ撃退セラレ
 西南ヨリ進ミシ縱隊ハ敵ノ右翼ヲ迂迴セントセシモ果サス
 「ニコラス」山ヲ攻撃セシ土軍ノ壯兵ハ最モ苦戦ス殊ニ魯軍大兵ヲ以テ逆撃ス
Senioulas
 ルニ及ンテ土軍壯兵ハ奮戦力闘セシモ他ニ援助ナキヲ以テ支ユル能ワス正午
 十二時ニ至テ此地ハ全ク魯軍ノ有ニ歸セリ土軍壯兵ノ生還スルモノ殆ント稀
 ナリ土軍ハ約三千人ヲ失フ
 魯軍ハ辛クシテ「シプカ」峠ヲ保持スルヲ得シモ千人ヲ失ヘリ
 「スレイマンパシャ」ハ「シプカ」峠ノ首ナル攻撃ヲ仕損セシト共ニ第二ノ峠ニ
Suleiman pasha *Schipla*
 向テモ亦攻撃ヲ失敗セリ
 如斯ノ景況ニ至リシモ尚ホ「スレイマンパシャ」ハ「メヘメーアリ」ノ令下ニ在
Suleiman pasha *Mehemet Ali*

ヲ働クヲ欲セス

然レモ「スレイマンパシヤ」ハ其部下ノ兵二千五百人ヲ率ヒ道路ナキ点ニ於テ

Suleiman pacha

「バルカン」山ヲ踰ユルニ決ス是レ「メヘメーアリ」ハ其部下ノ將士ト爭論スル

Mehemet Ali

ノ煩ナルニ倦ミ己ニ退却セシノ時ナリ

「スレイマンパシヤ」ノ軍隊ハ魯國第八軍團ノ左翼即チ「エレナ」ノ東方「マリ

Suleiman pacha

Elerna

Mari

ア」ニアル魯軍ニ衝突ス

在

「メヘメーアリ」ノ爲メニ援助トナルヘキ運動ヲ「スレイマンパシヤ」ノ爲セシ

Mehemet Ali

Suleiman pacha

ハ唯此一アルノミ然レモ時期既ニ晚シ

此ニ至テ魯軍總督ハ是レ迄遞減セシ勇氣ヲ漸次遞加スルノ期ニ會セリ

土軍ハ天與ノ幸運ヲ徒ニ放棄セリ魯軍ノ内地ヨリ來ル増兵ハ日一日ヨリ近接

ス實ニ土軍ノ事ヲ爲スハ魯軍「ダニユーブ」河ヲ渡リ其兵力ヲ分離セシ時ニ

Danube

在リ

即チ土軍ノ事ヲ爲スハ八月ニ於テ容易ニシテ九月ニ於テハ稍困難トナリ十月
ニ於テハ全ク爲シ得サルニ至リシナリ